男一匹ガキ大将

霊峰富士の巻

第11巻

本宮ひろ志

男一匹ガキ大将

●第11巻●

本宮ひろ志

■霊峰富士の巻

巻までのあらすじ

戸川万吉は、西海村に一千人の子分をもつ大番長だ。浮浪者の総大将、カスミの大三郎、坊屋津光五郎としりあった万吉は、全国の浮浪者を味方に引き入れ、株の世界で活躍、二億円の大金を手中にした。

だが、日本財界の大物、白川宇太郎の悪だくみで、火つけ犯人として警察に追われた万吉は、赤姫山に籠城、その名を全国に響かせた。

少年院へ送られた万吉は、銀次、綱村と特少を支配する影の総部屋長、鬼頭政次に挑戦、その以外な正体に泣いた。

やがて西海村へ帰った万吉に、あゆみの甘いワナが待っていた。綱村の必死の願いもむなしく、あゆみとともに東京へ旅立った万吉は、途中、暴走列車に遭遇、万吉一家未曽有の人柱で尊い人命を救った。だが万吉の片腕・綱村は死んだ。

「わいの甘さのために綱村は死んだ」、人の上に立つ苦し

和尚　万吉の母

登場人物紹介と前

さ、孤独さを教えられた万吉は、日本一の人間になることを心に誓うのだった。

全国制覇をめざして東海道を万吉たちが……。裏日本を菊村たちが……。東京にむかって万吉一家の大バク進がはじまった。

一方、東北の雄堀田石松も、軍師ドクター佐々木の策謀によって、その勢力を日増しに強大にしていった。

そしてついに、日本は東西まっぷたつに割れた。場所は霊峰富士のすそ野、堀田側東軍にどうたちむかうか、万吉!!

戸川万吉

水戸正江

ドクター佐々木　眼帯の銀次

坊屋津光五郎

目次

男一匹ガキ大将 11
霊峰富士の巻

霊峰富士の巻……8
その前夜の巻……55
除夜の鐘鳴るの巻……79
万吉の重さの巻……105
晴れ姿・男万吉の巻……128
ふたりの佐々木の巻……146
宿命の双生児の巻……175
竹槍仁義の巻……202
生と死の谷間の巻……230

男一匹ガキ大将

霊峰富士の巻

わいの限界は
西海(さいかい)でも 北陸(ほくりく)でも
日本でもない……
わいの
命じゃ……

わいの命が
消えさる
時じゃ…
それまで わいに
ざせつなど
あって たまる
けえ――っ!!

黒山高等

黒山高

おい…
おまえ…
うわさ聞いてるか…
ああ…
東と西の決戦だろ
うちの大将どっちへつく気かな
……

さあな
……
しかし……
おもしれえぜえーっ
いったいどうなるんだか……

フン……
まったく……
ばかげた連中だ……

そんなことでしか
自分の力をはっきりできんのか……
われわれの本分は勉強だ……

勉強第一さ
……

ああ…

じゃまだ…
うらなり
ども……
わっ…
気をつけて歩け
まぬけ野郎……
す…
すいません…

ふっふふ……

力によっておさえつけられる……
おとなしい連中が どこでも
一番多いものだ……
ふっふふ……
うっ……

水戸屋商事

東と西か……

万吉め……
かなり進めておるわい……

すでに……
東北の堀田のほうは
兵隊を 西へ
むけているそう
です……
もし……

万吉を
たたきつぶすの
なら いまが
絶好のチャンス
かと……
あの…
ガ〜?!

沢田……
はっ……
水戸産業会館の
計画は
どうなっとる……

会長のお年を
記念して
七十八階だての
超高層ビルの
ほうですか……
どう
なっとる
まもなく
工事に 入る
もようです……
うむ〜〜っ
いそがせろ
会長……
じつは
へんな少年が
会長に
あわせろと…
へんな
少年…

万吉か……
いや……
万吉をたたきつぶす側だと……
お初にお目にかかります……
あっ……こらきさま……
フ～～～ンはじめてみる顔だの……
わたしのほうはよく……ぞんじております……
水戸会長はわたしの尊敬する……

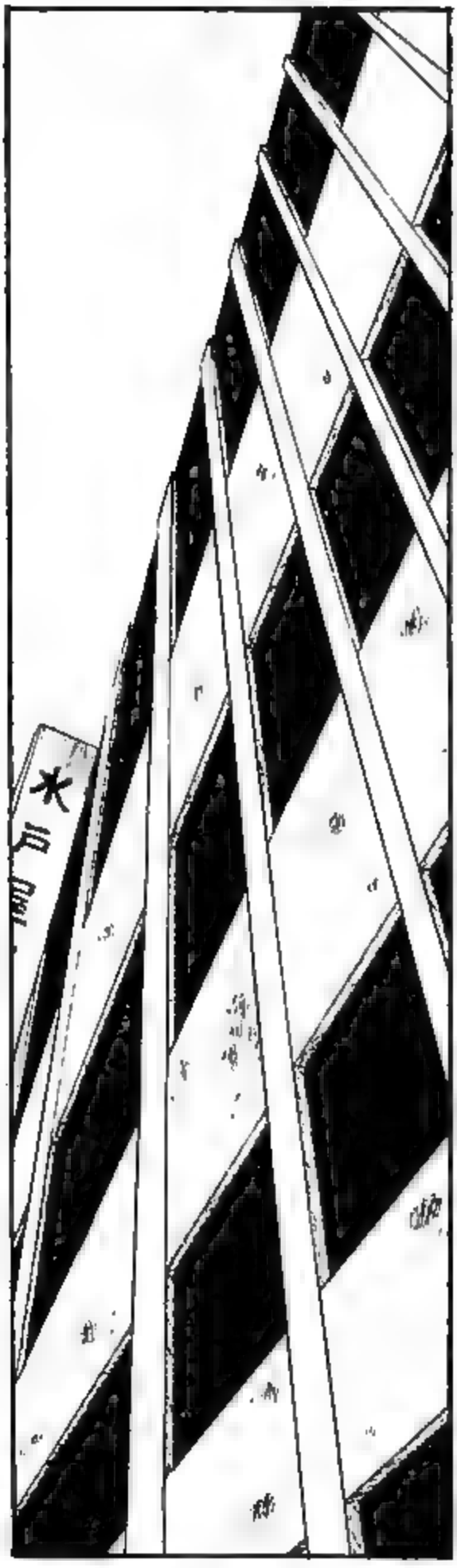
人物のひとり
ですからな
……
フフ……
なかなか
切りだし方が
うまいの……
戸川万吉
という男

水戸会長に
とって
若さを保つ
薬のひとつ
ですか……
それとも
目の上の
たんこぶ
ですか…
フッフフ
大人ぶった
口をきくのう

両方だと
したら……
どうする
会長の
その中途はんぱさが
やがて
命取りに
なるやも
しれませんぞ
……

薬は薬でも
危険をはらんだ
劇薬です
あの男…
自分の限界は
ないと
信じこんで
いる
気に
くわんか
……
気にくいませんね
……
わたしは 自分の
道に ざせつした
人間です……
他人の力に
よって……
フ…フフフ
……
つまり競争に
まけたわけか
……
自分の道は
自分ではないか
他人が 関係
あるのか……

他人なぞ関係なく
まったく 意識せず
自分の道を進める
人間は……
ばかか
子どもだ……
他人の力によって
自分の道に
自信をなく
した人間の
気持ちを
あの男に
あじあわして
やりたい……
勝利者でなく
敗者の
気持ちを
……
で……


木田屋

このわしになんの用事じゃ

会長の名と……
金を貸していただきたい……

いいだろう……
自由に使え……

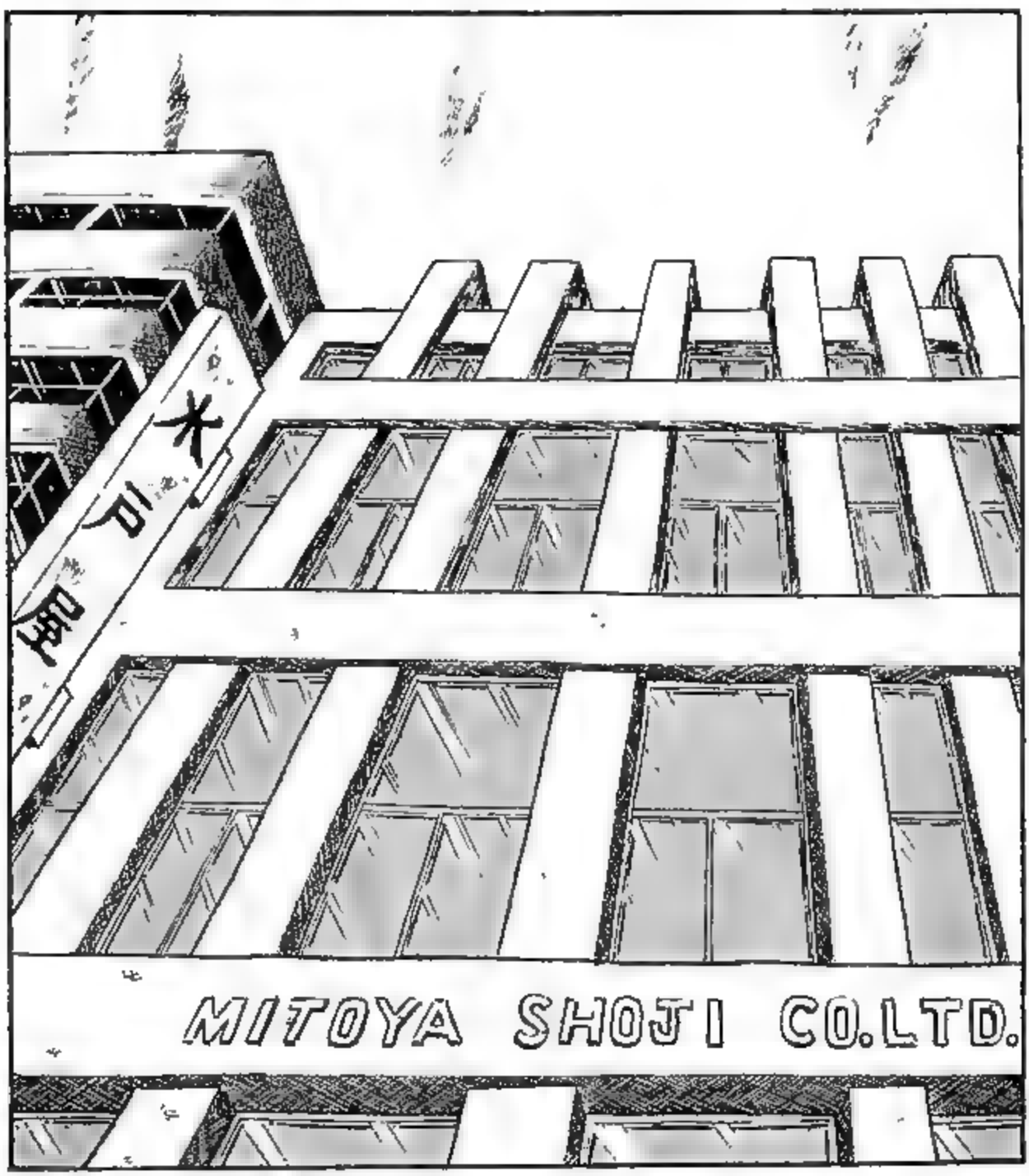
万吉…

今度のけんか…
きさまにとってはひとつの前進ぐらいにしか考えておらんかもしれんが……

ふふ……かんぜんにブチのめされるやもしれんぞ……

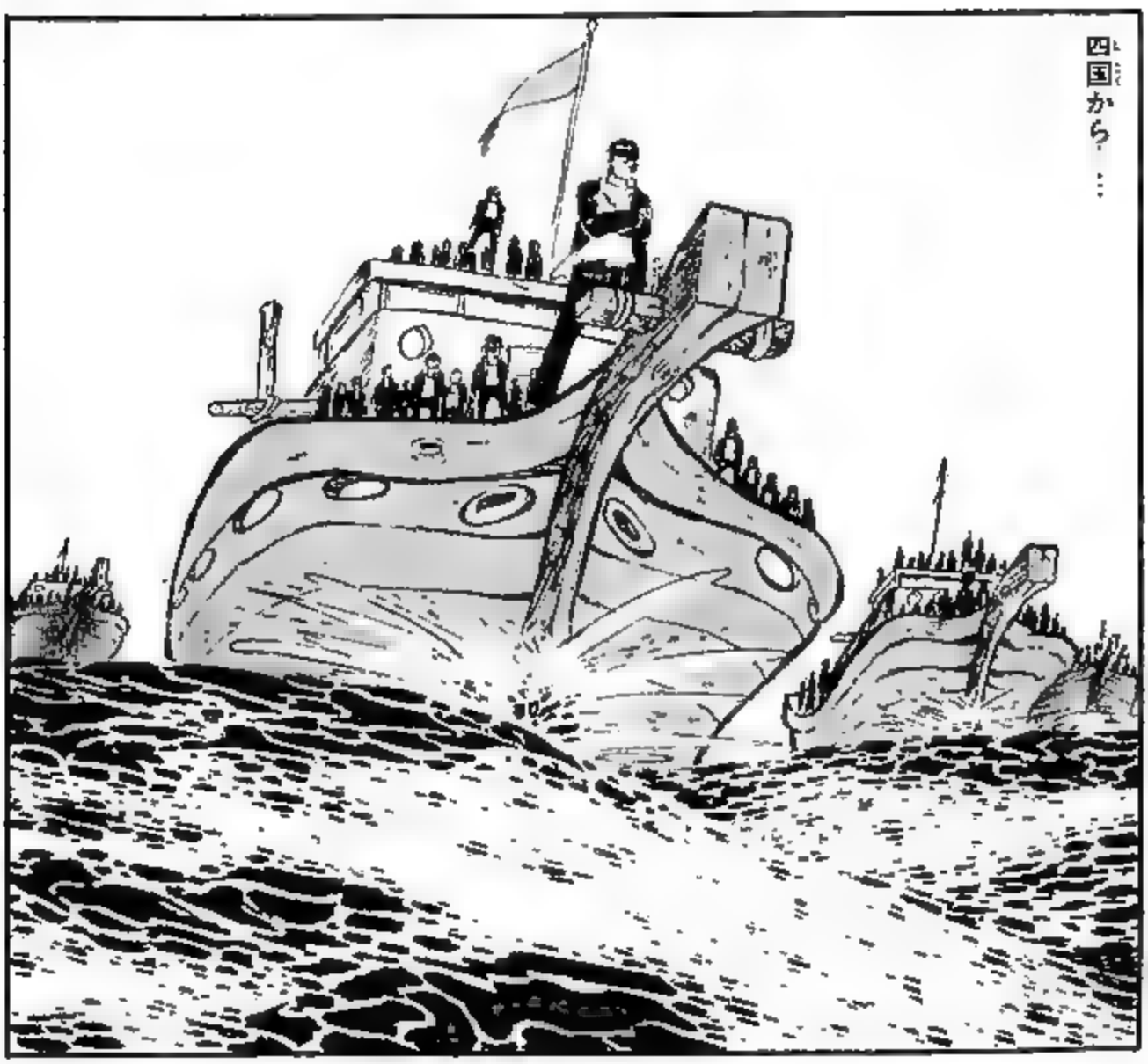
あの男……はじも外聞もなく……根本からおぬしにくいこんでいるかもしれん

おぬしの
人間に
ほれることも
あるまい……
最初っから…
わりきって
おる……
おそろしい
男を 敵に
したものだ
な……


MITOYA SHOJI CO.LTD.

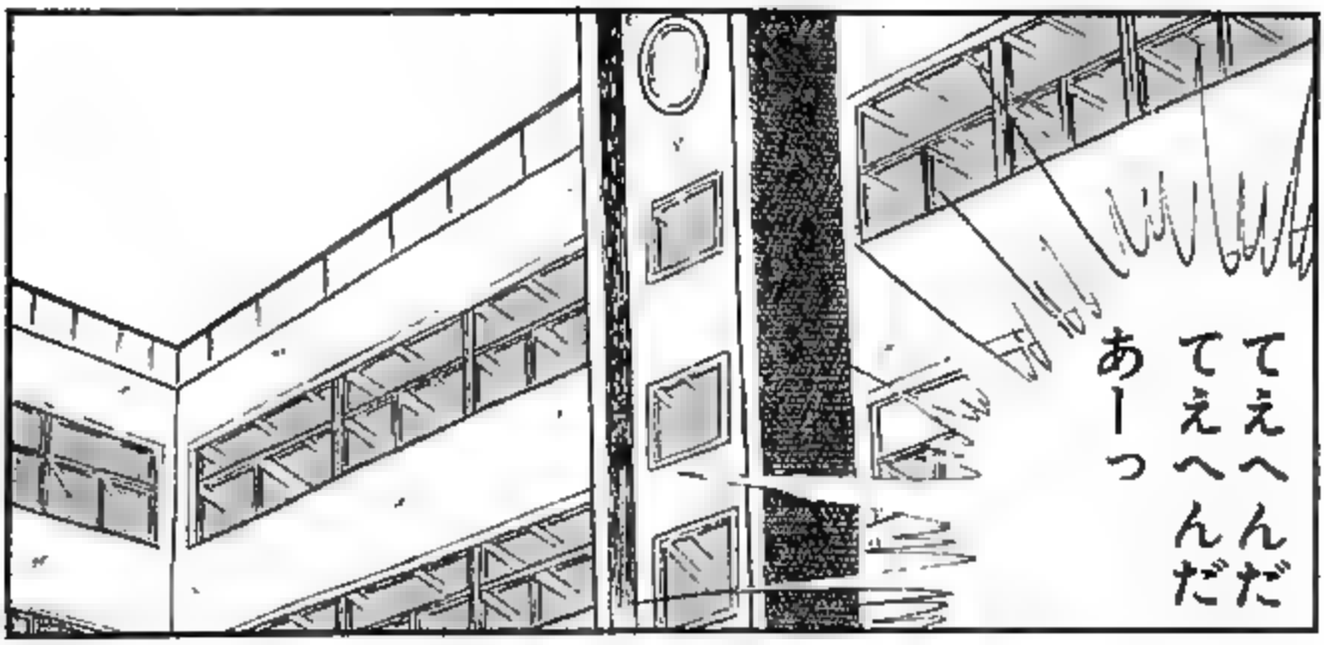
いくぜえ
――っ
おお
――っ

九州…


四国から…

中国からも

そして
西海万吉一家が……


てえへんだ
てえへんだ
あーっ

万吉一家も
動きだした
らしいぜ……
ムウ～～～
……
いったい
おれたちは
どっちへ
つくんですかい
ばかやろう
～～～～

おれたちの
おん大将は
大島光克さん
だ……
その大島さんが
どっちにつくかで
おれたちも きまるん
でえ――っ……

へえっ
その大島さん
ですけどね
なんだ……
どうした…
いま さっき
大島さんの家に
堀田側の
佐々木とかいう
野郎が 入っていった
そうですぜ……
となると…
おれたちは…
堀田側か
……
大島

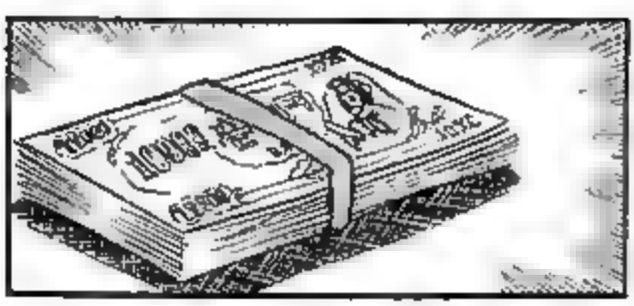
いいだろう……
このけんか……
おれも どっちかへ
つかずば
なるめえと
思っていたが……

万吉が 先に
ふっかけたと
いうんだな……
しゃら
くせーっ

そういう
でしゃばった
野郎は
がまん ならねえ
からな……
あんたらに
つくぜ……

ありがたい……
なんだ……
ひとつたのみたいことがあるんだが……

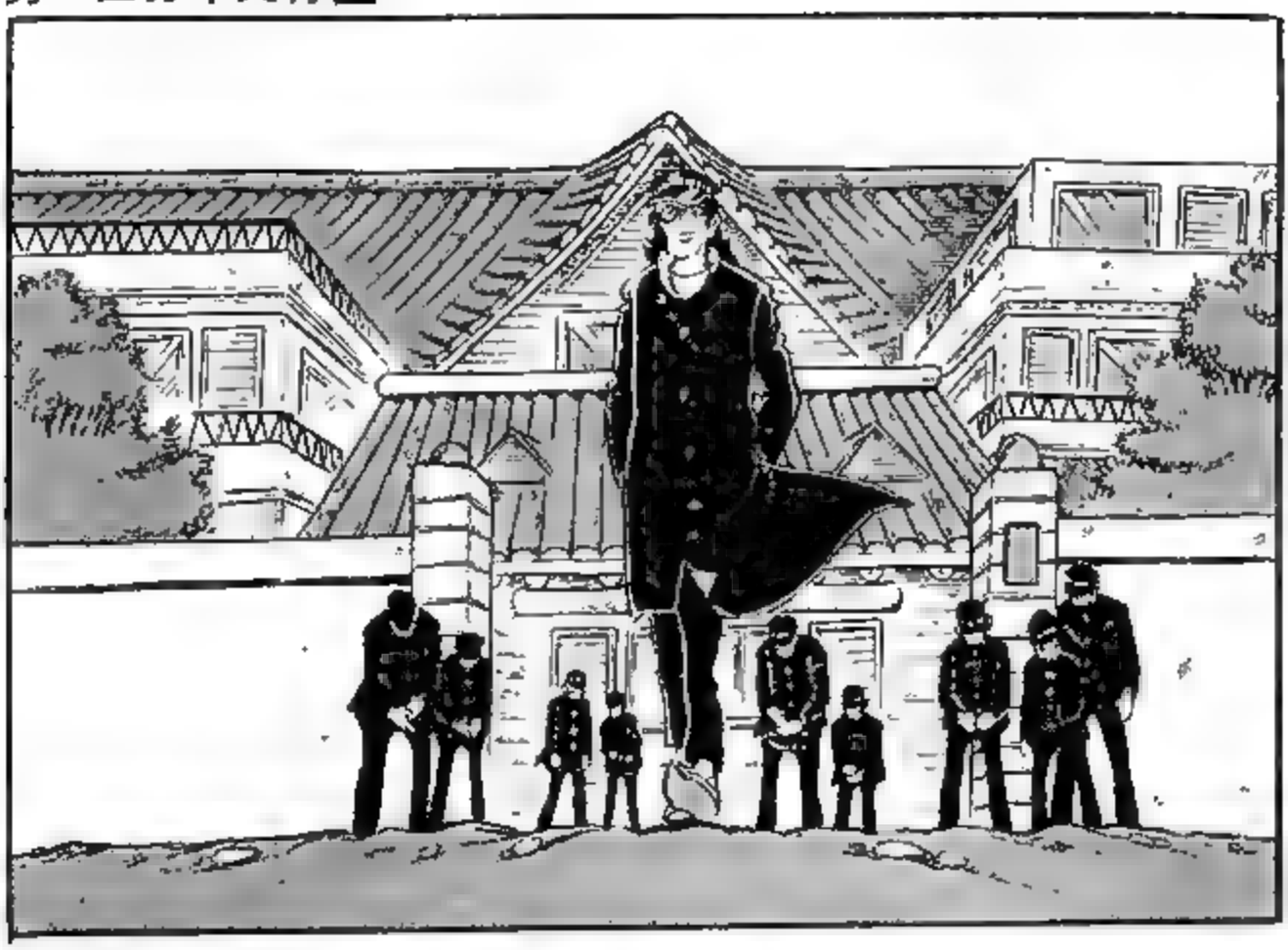
いざ決戦になるまで……あんたが堀田側ということは……
ふせておいてもらいたい……
よかろう……



なめるのかおれを……

これは　いざ動くときのための資金だ……
なにい～～～

こういうことであんたにめいわくがかかったらしのびない……
あくまでこっちはたのむ側だ…
このけんかとおなじで攻撃ではない……
あくまで守りだからなおれたちは…
ムウ〜〜っ
やろうどもこのお方を玄関までお送りしろいっ!!
へっ



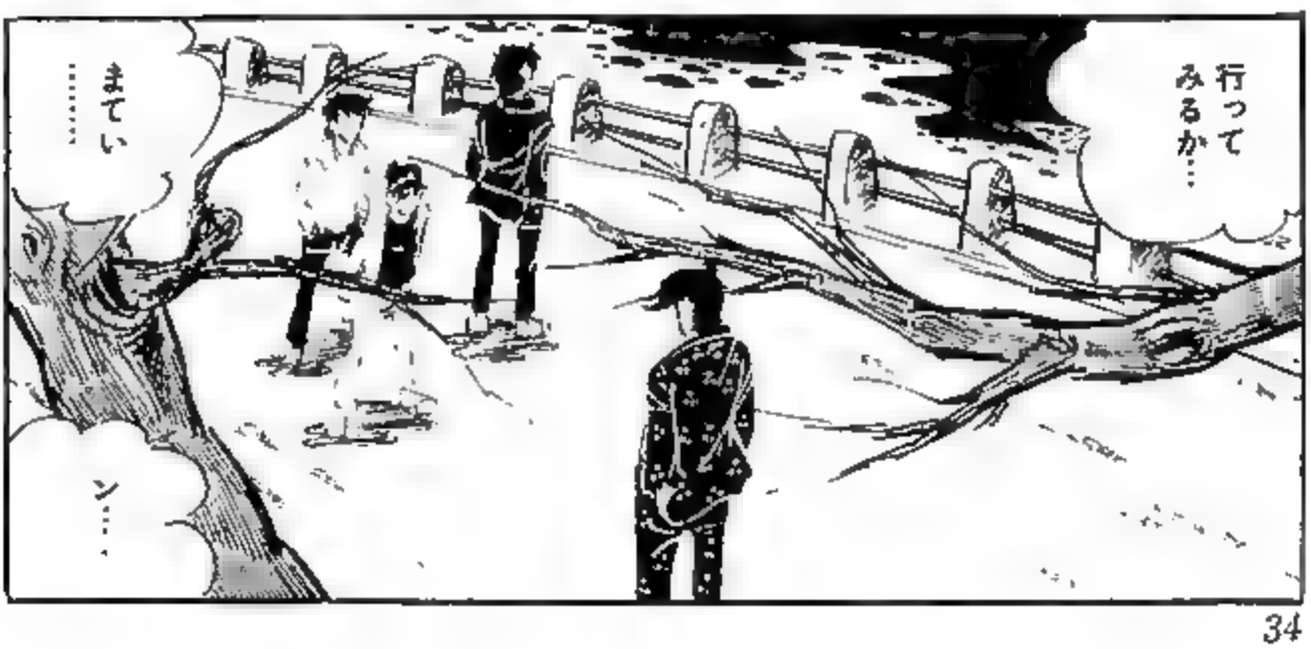
ふふ……

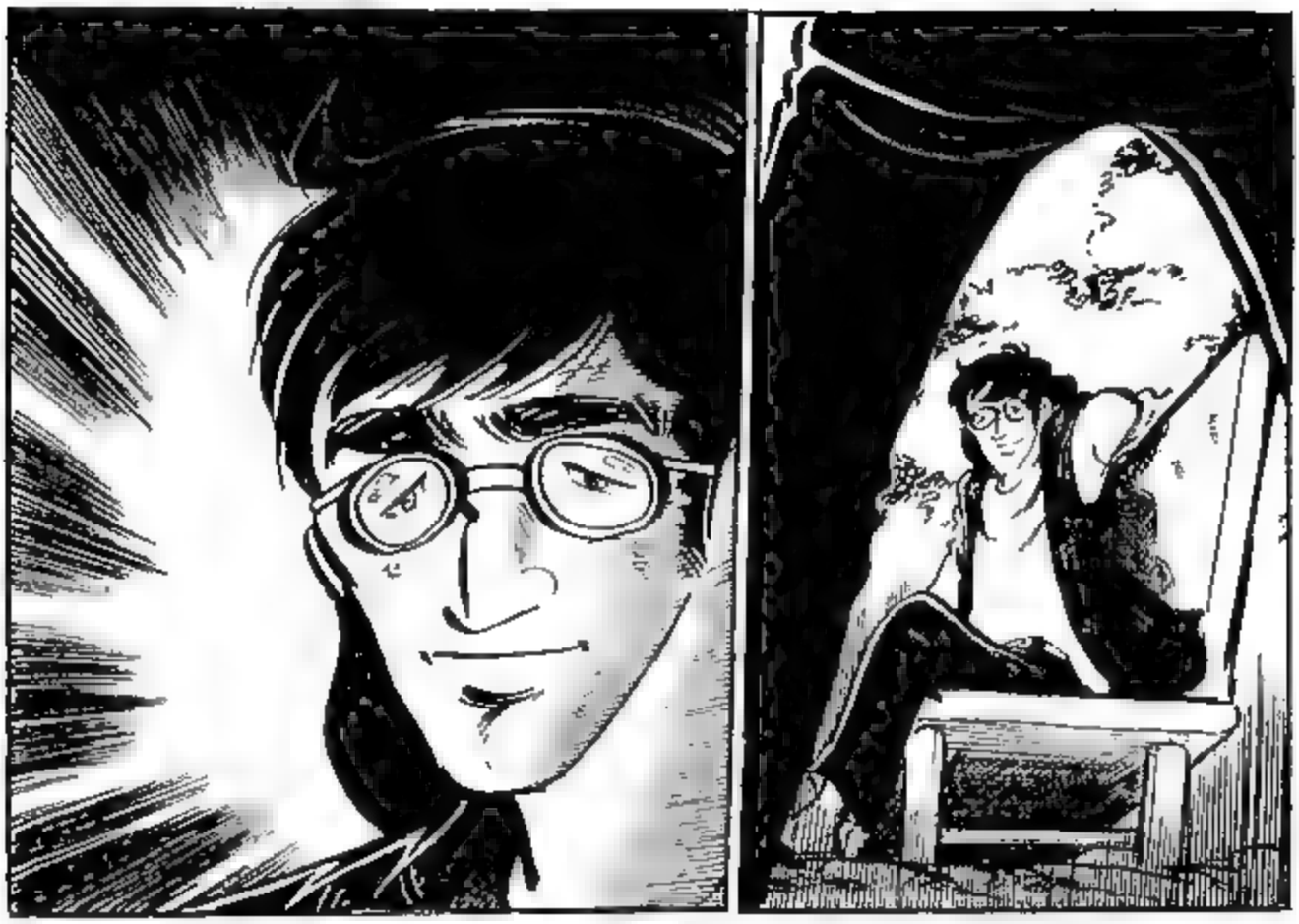
ははは……

うわあっ
はは
はあっ
ははは

フフ……
なるほどな…
川畑とか
いう男
そんな
ことを
ぬかし
やがった
か……

へい…
野郎…を
仲間に
するにゃ
なにか…
ほうびが
いりますぜ


行って
みるか…
まてい
……
ン……



てっ……
てめえは
注射屋……
ふっふふ
……

おまえら……
しらなかった
な……
この先生……
わいらの
味方じゃ
へえ～～っ……
ほんとかあ
――っ
ぜんぜん
しらなかった
ぜっ……

万吉さん……
あてにするな
……
ああ～～ん
……
なにを……
このけんか…
こっちは
攻めていくほうに
……なっとる……
そうなると…
大義名分が
たたん……
わしらのほうが
悪役だ
悪役に立ってのけんかほどやりにくいものはない…
そんなもん……
関係あれへんでわいには……
あんたに
関係なく
とも……
他人は
左右される…
なっ…なんで
おれたちが
悪になるん
でえ……

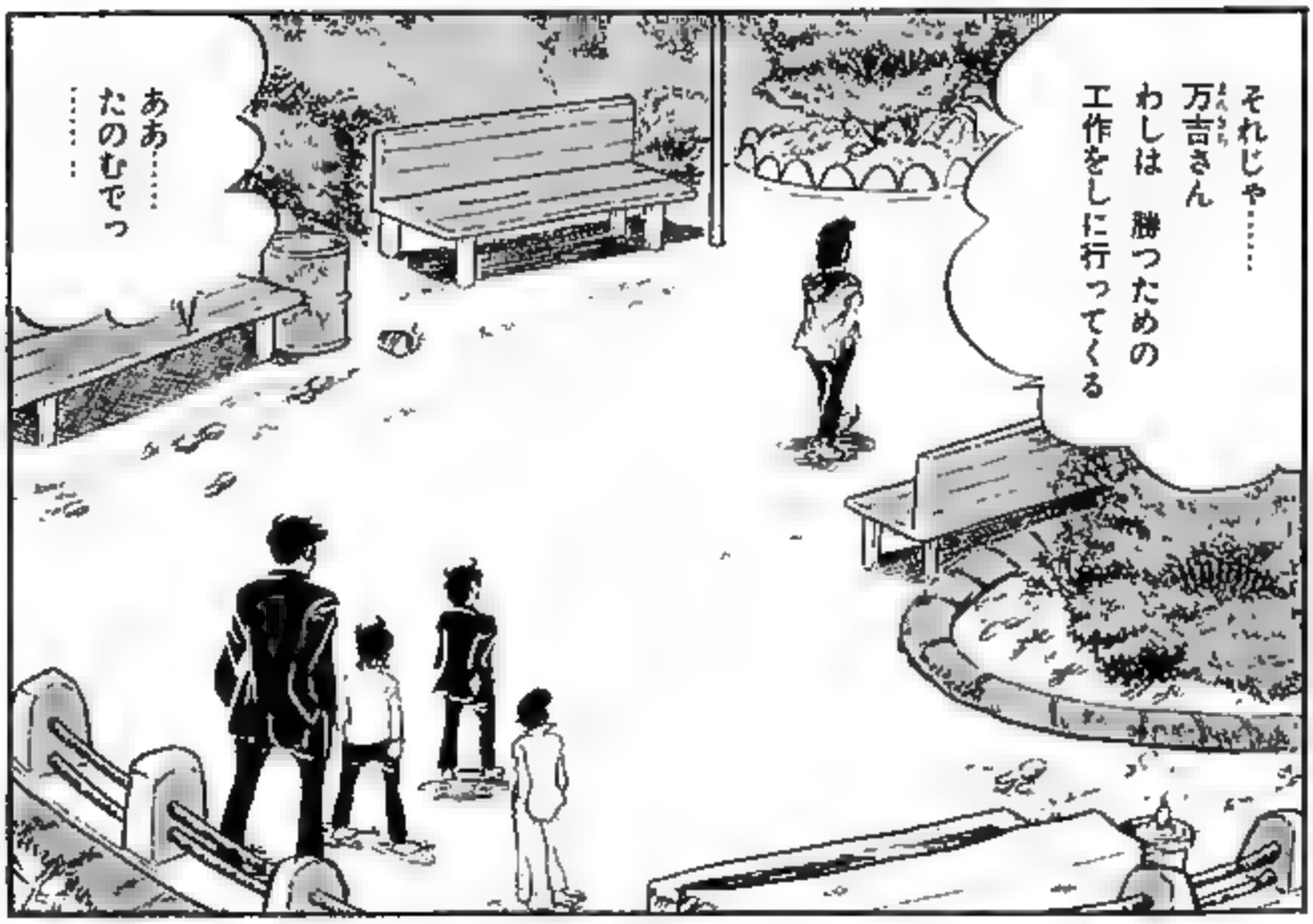
けんかするのに
りくつなんか
いるけえっ
強いか弱いか
それだけじゃ
ねえか……
けんかと 政治は
ちがうっ……
政治
……？
これは
けんかではない
政治だ……

わかった…
あんたの
いうとおりに
するで……
よし…
もはや 北陸の
なになにだとか
名古屋のなになに
なぞ あてに
するな……

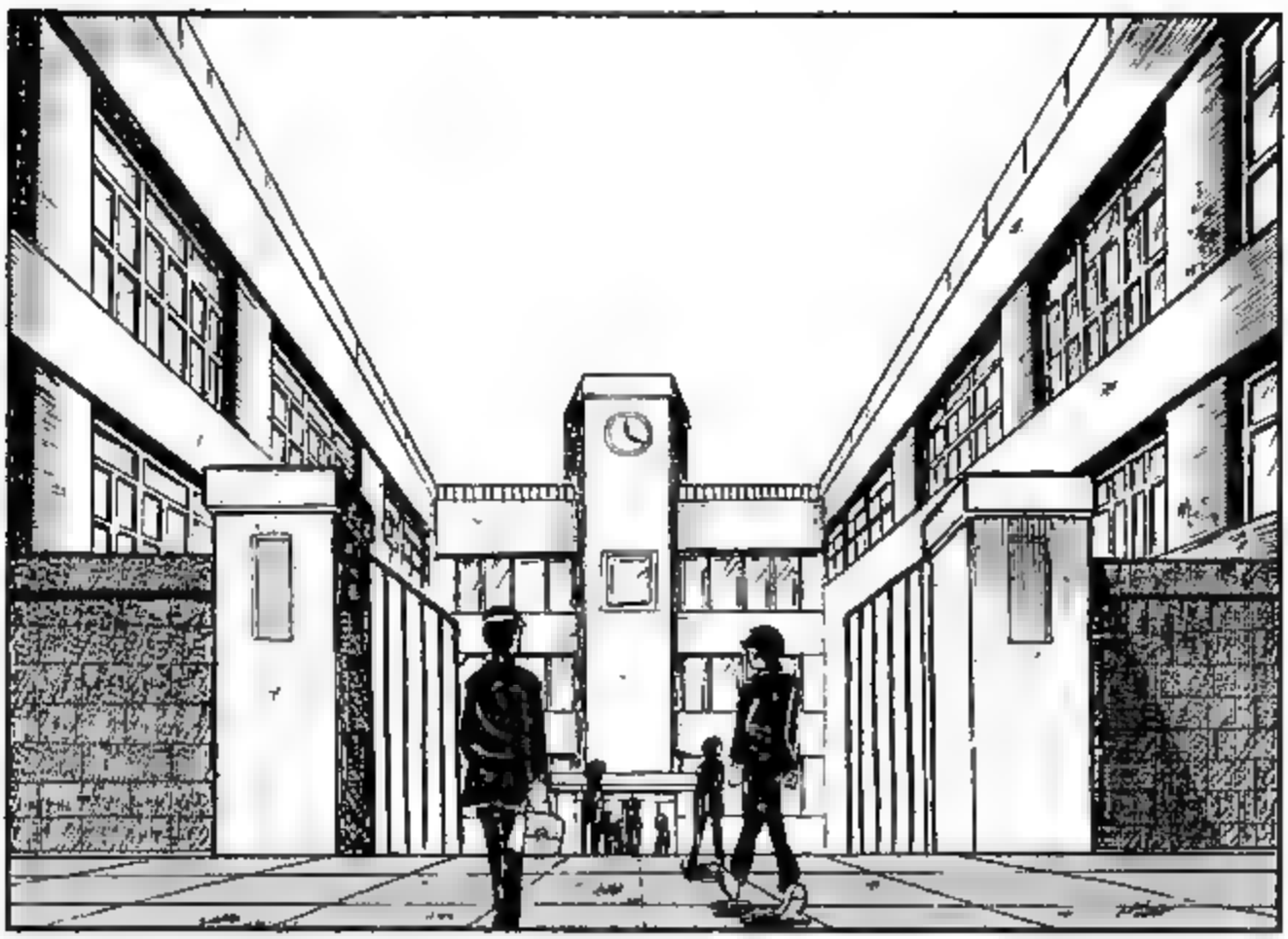
ぜんぶ
むこうに
くれてやるん
だ……
チンピラ
学生は
ぜんぶな……

そうしなければ
わしらに
正義がたたん
……
しっ……
しかし
勝てるのか
それで……
いくら大義名分を
たてたって……
負けちまえば
どうにも
ならねえぜ……
佐々木の
いうとおりにすると
いったはずだぜ
いうな……

ふっふふ……

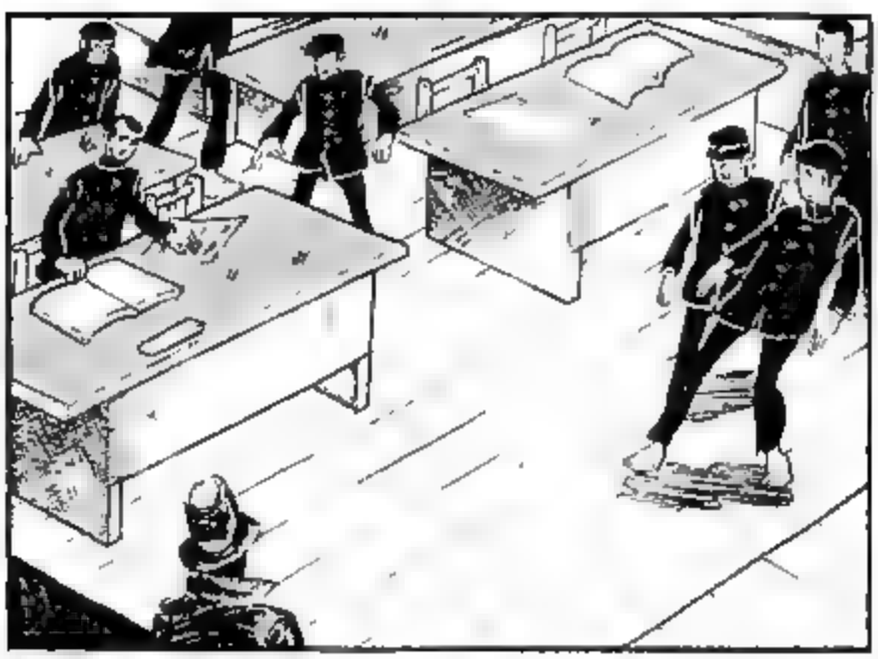

それじゃ……
万吉さん
わしは 勝つための
工作をしに行ってくる
ああ……
たのむでっ……

おっ……
親分……
野郎 信じられ
るんですかい……
なにもいうな
わいの体を
あずけた男じゃ



どけ…
どけっどけーっ
ひゃ…
わっ…
川畑さんの
おとおり
だぜえーっ

ばか……が……
あんまり乱暴に
するんじゃねえ……
へっ……
へえ……



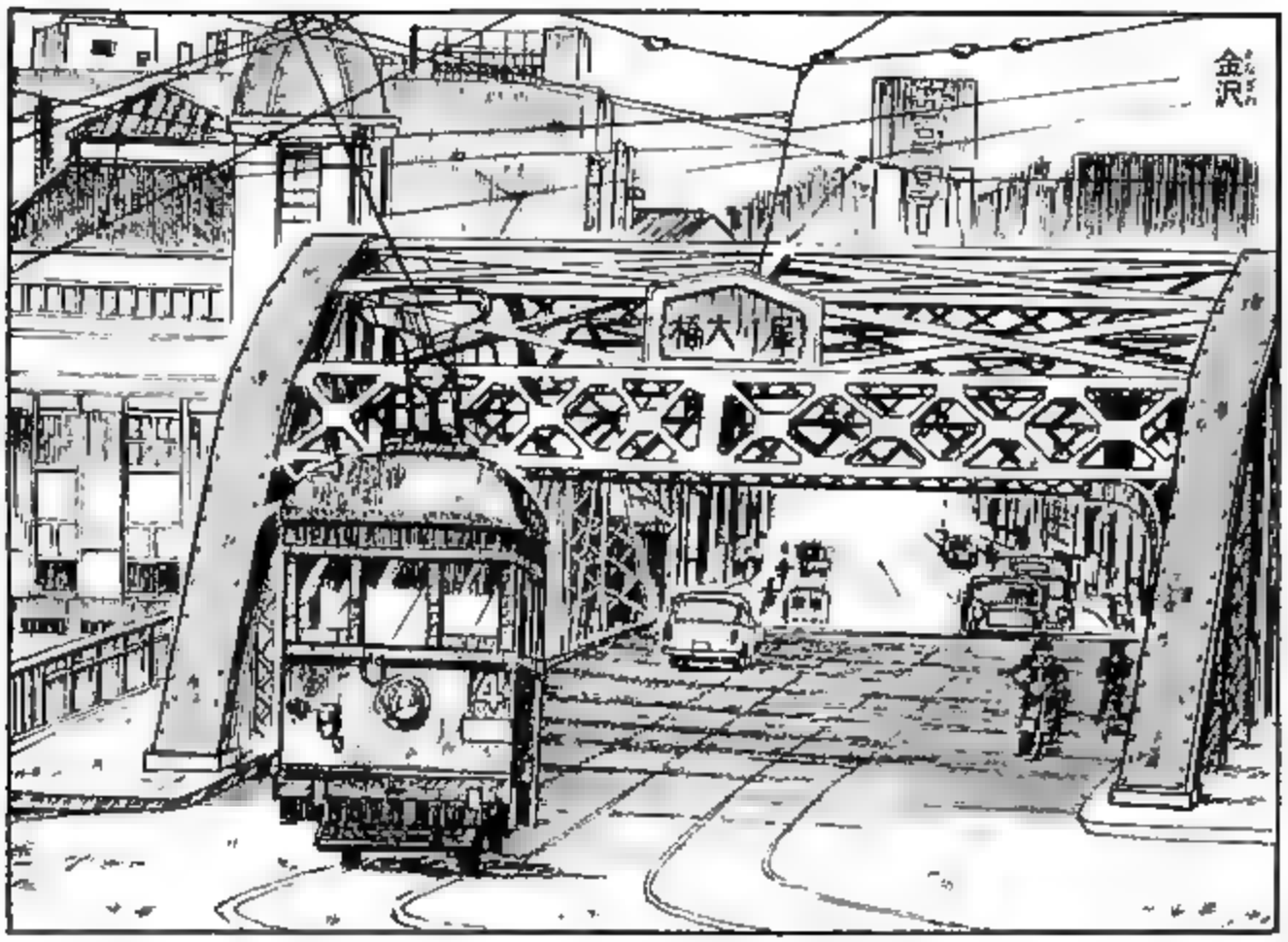
ガッ
ラッ

万吉(まんきち)めは
こんな……
わしの所へ……

どうぞ
うむ……

まったく…
なめた
野郎だ…
しかし大将……
いったい どっちへ
つく気なんスか……
ふふ…
勝つほうへだ……
ン……
うっ…
だったら
堀田側だな……

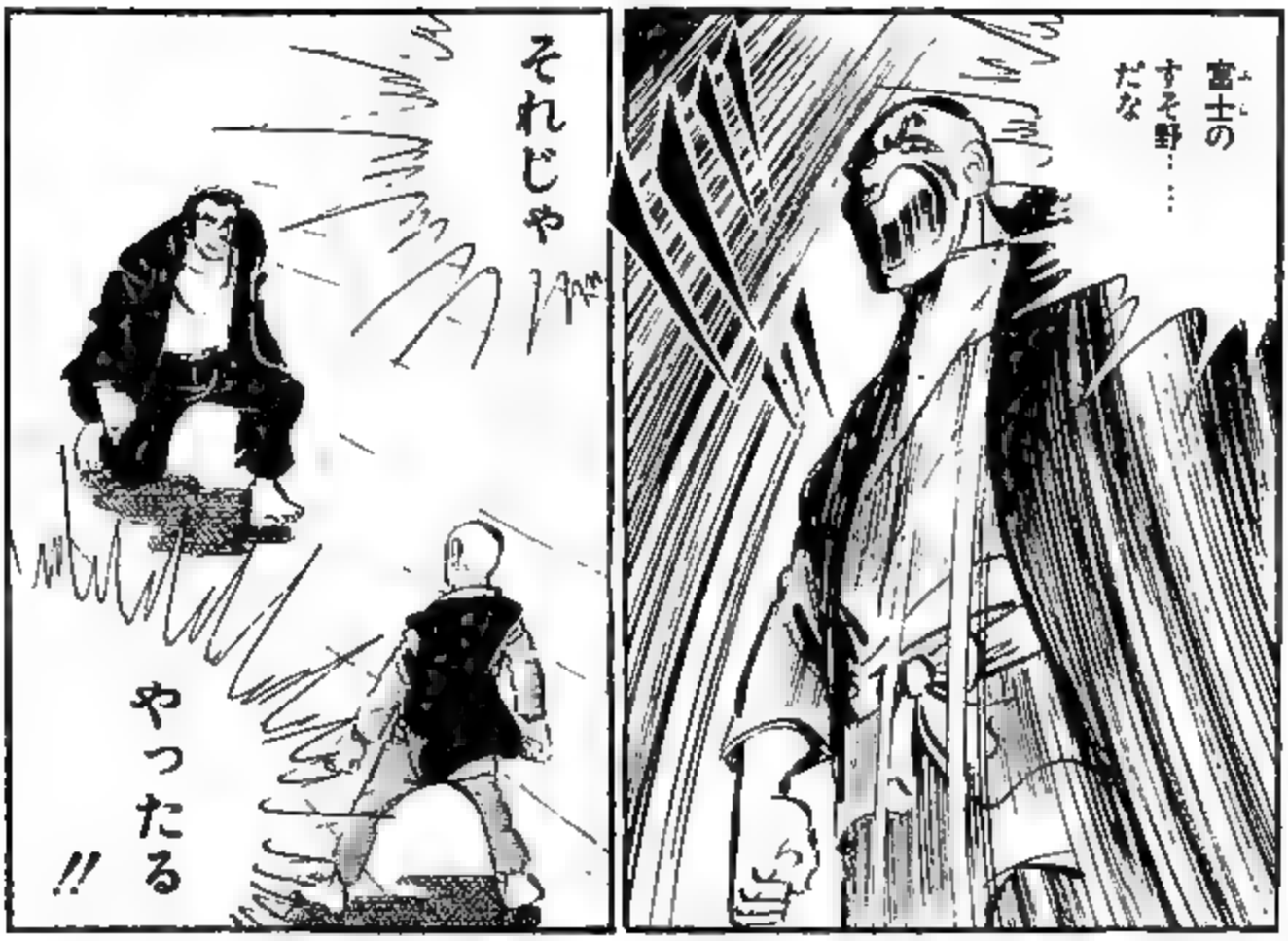
だれだ
てめえーっ
!!
堀田側へ
ついて　勝った時……
西のほうは……
あんたに　すべて
あずける……
ふふ
……
話しが
はええな
あんた……
文句
あるまい
……
ふっふふ…
はあ
ははは
――っ


金沢
橋大川犀

たのんます…

神島道

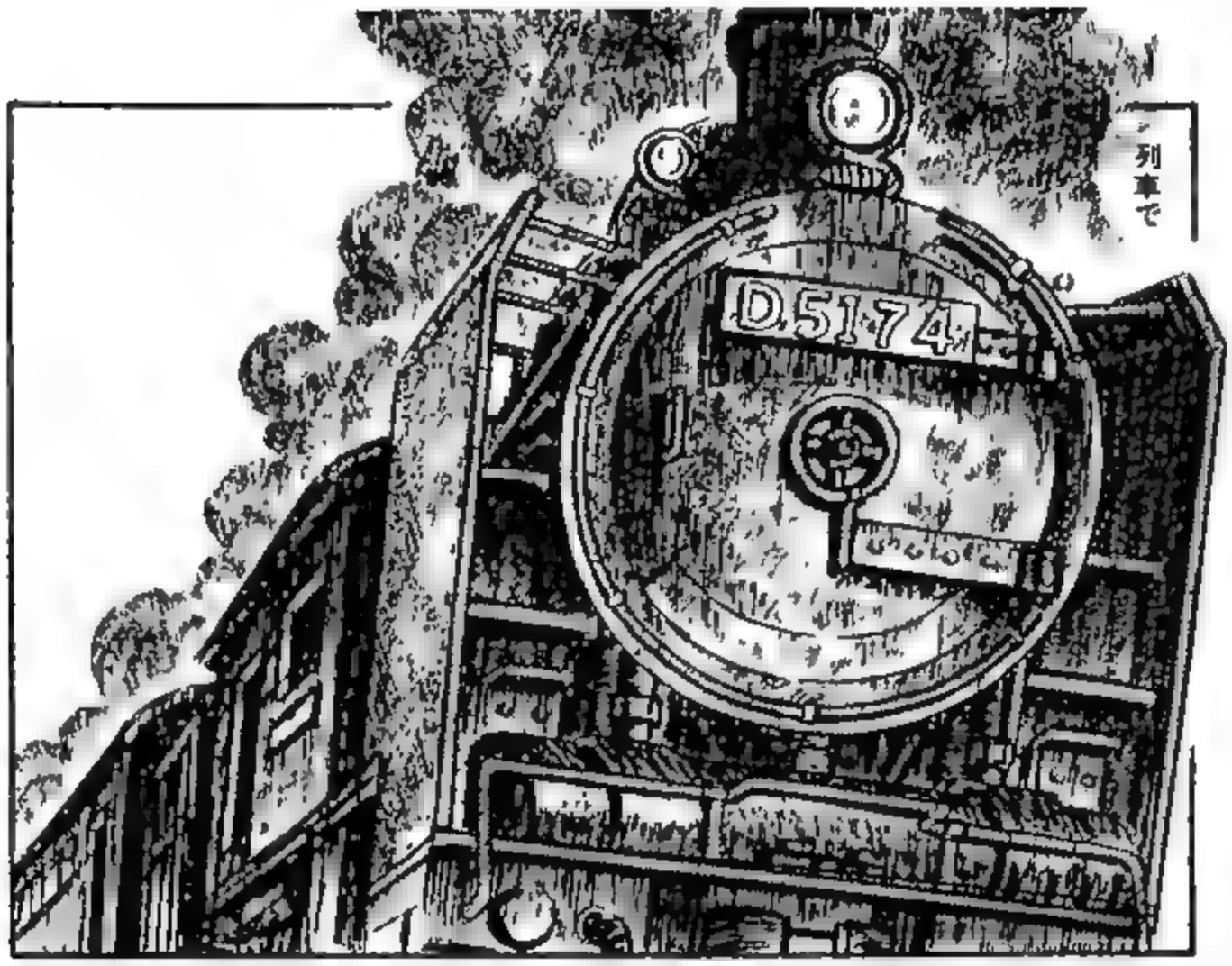
日本征覇をねらってくる くそなまいきなガキを……
このままほっといて いいもんですかね……
神島さん……
奴のほざいとることを 聞いてますかい……
てめえの進む道は他人などにじゃまさせん!
ただそれだけだ……
それだけで!日本征覇をねらっとるんですぜ……
他人などはどうでもいいんだ……あの野郎め……
中部の熊坂はおれの友だちだ……
場所は……

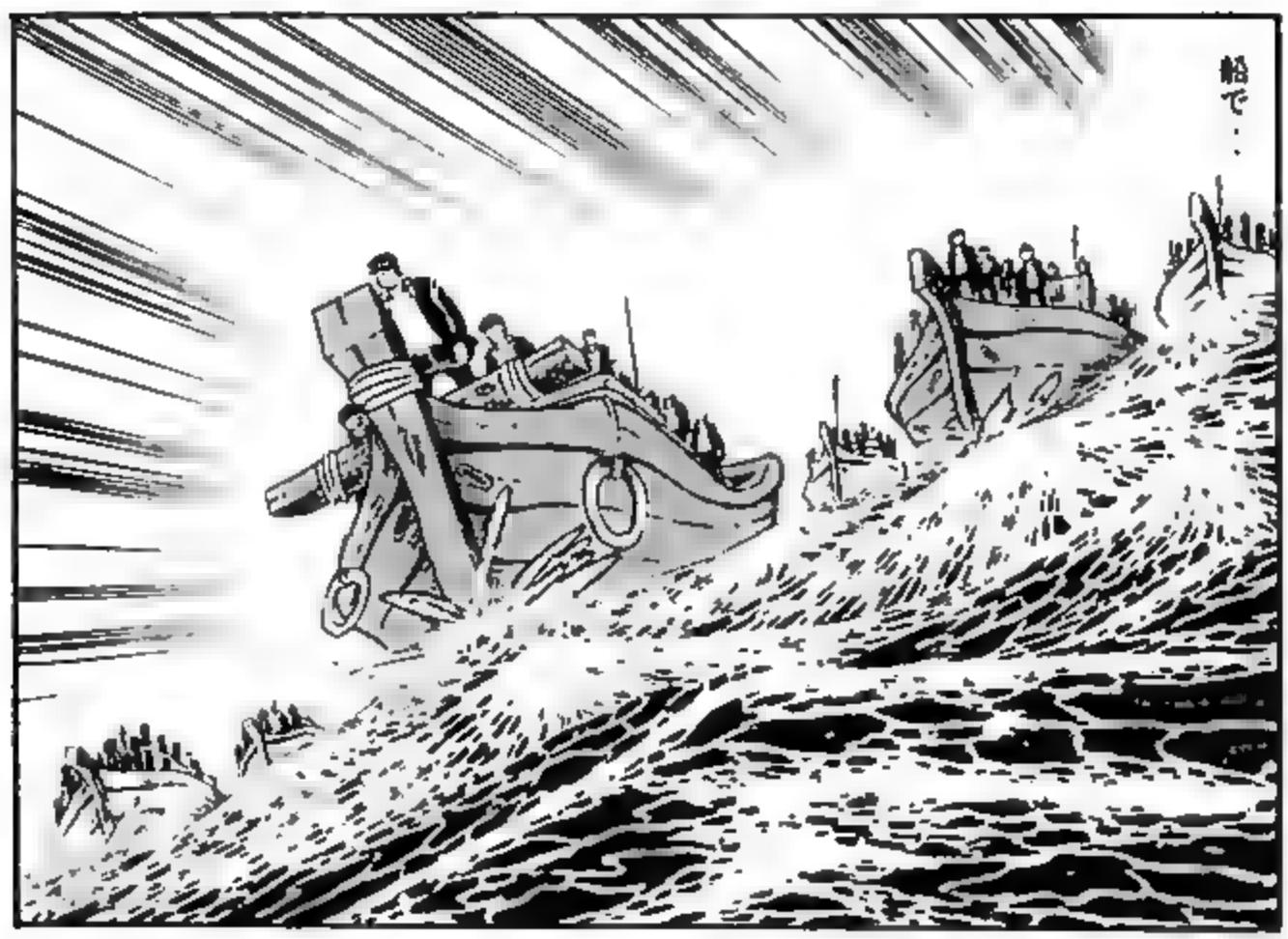

富士のすそ野……だな
それじゃ
やったる!!

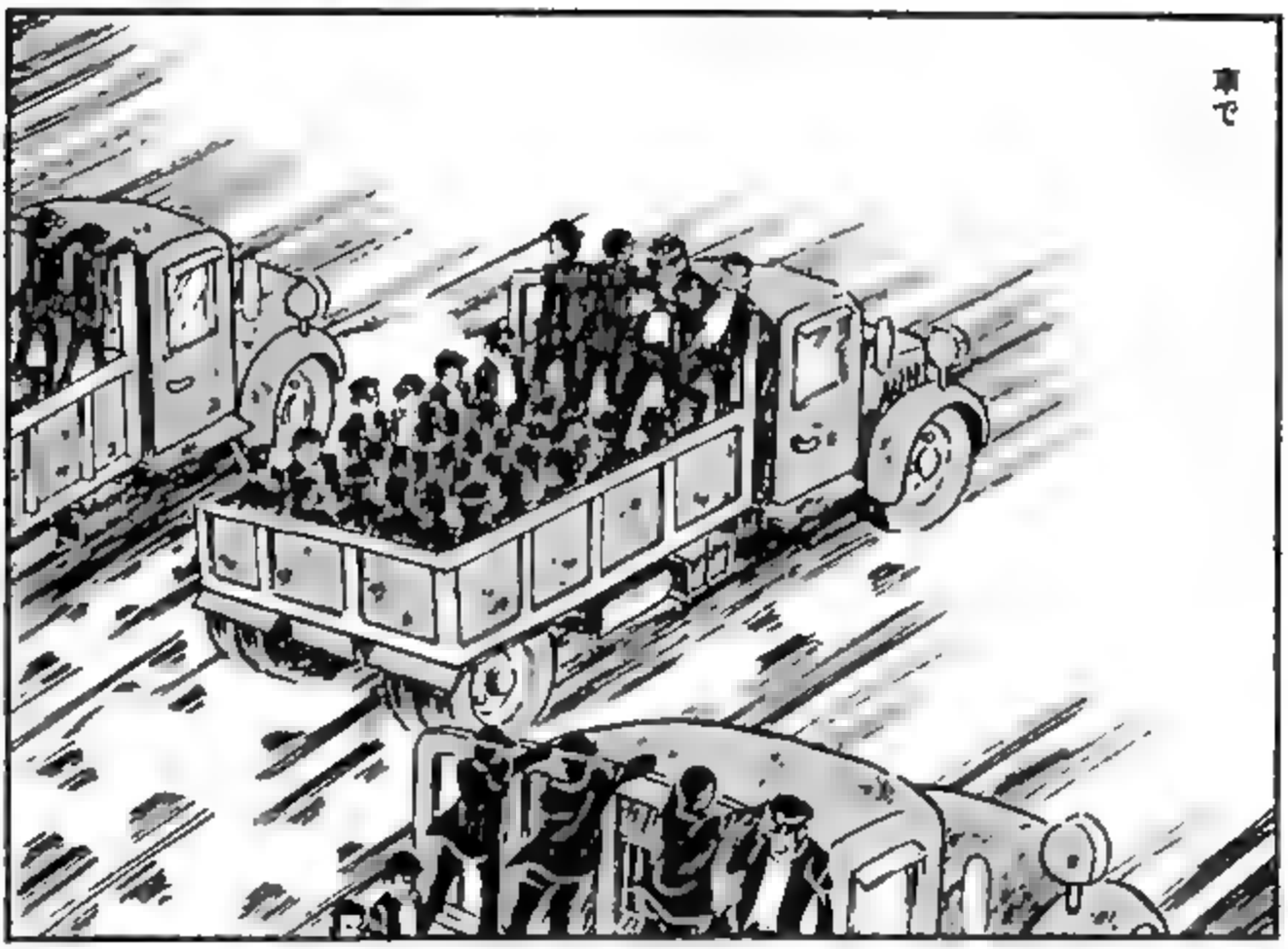
たたきつぶしたるぜっ
くそったれがあ——っ

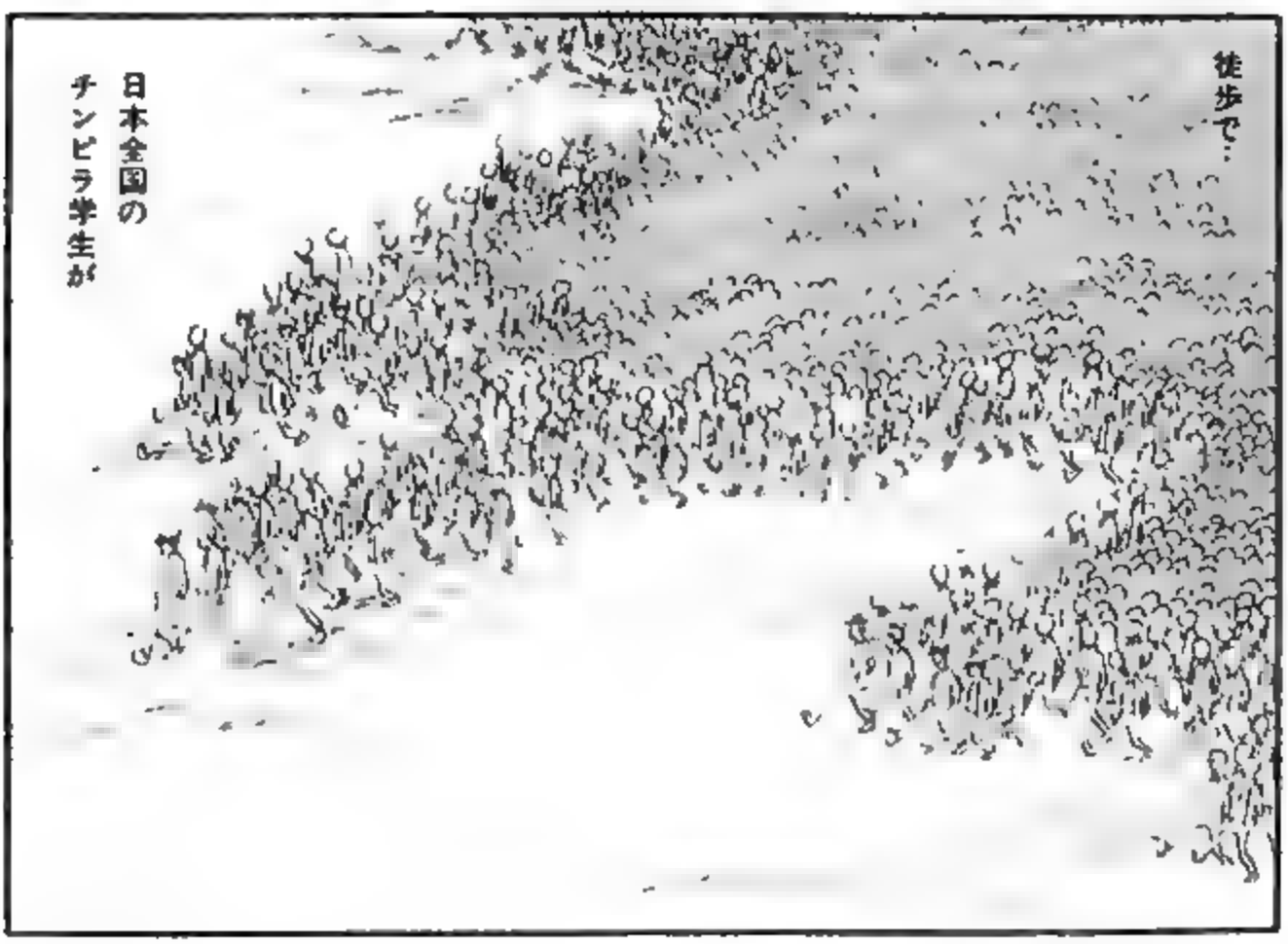
したくせえ——い

おお!

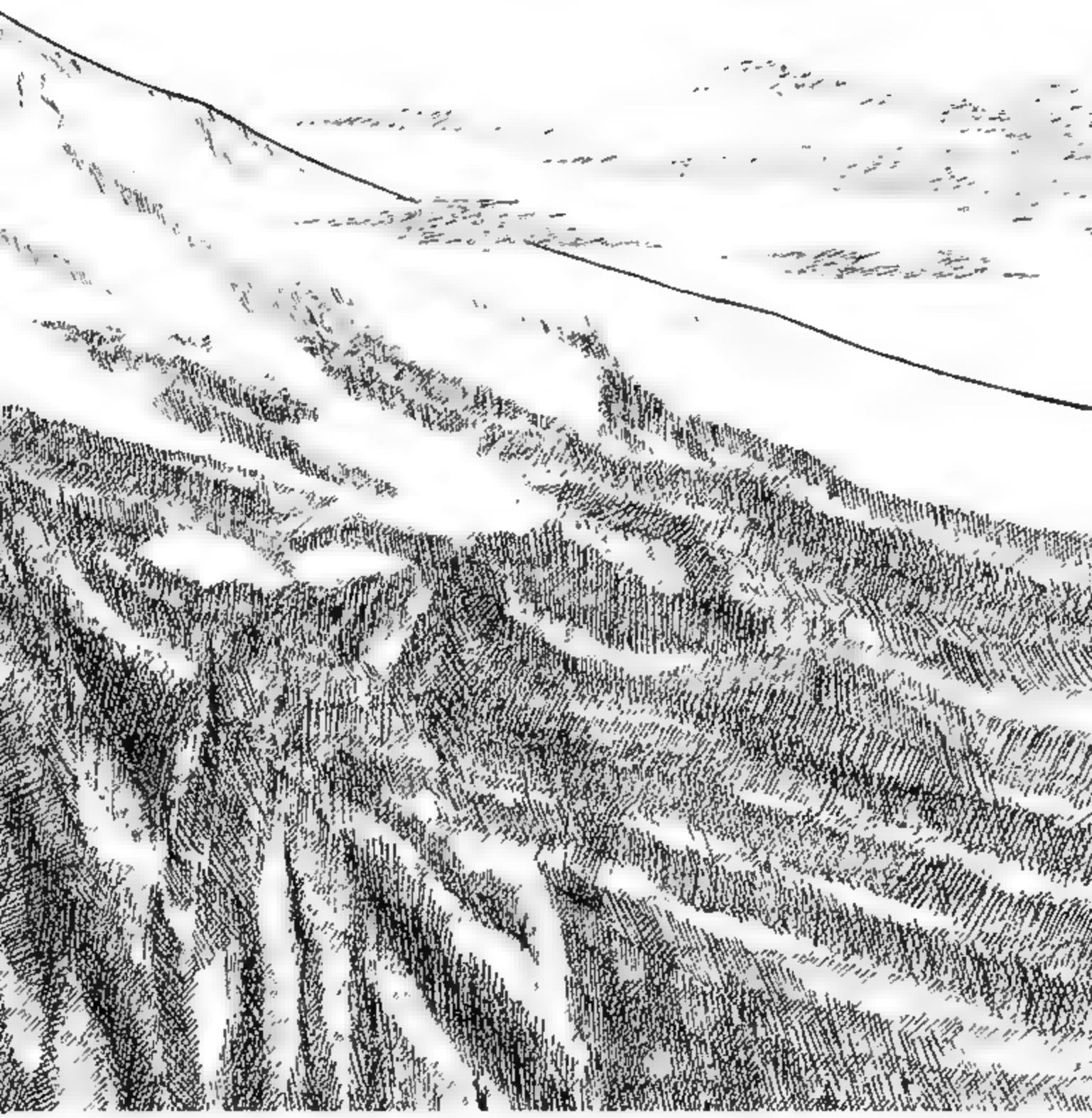

列車で
D5174


船で…

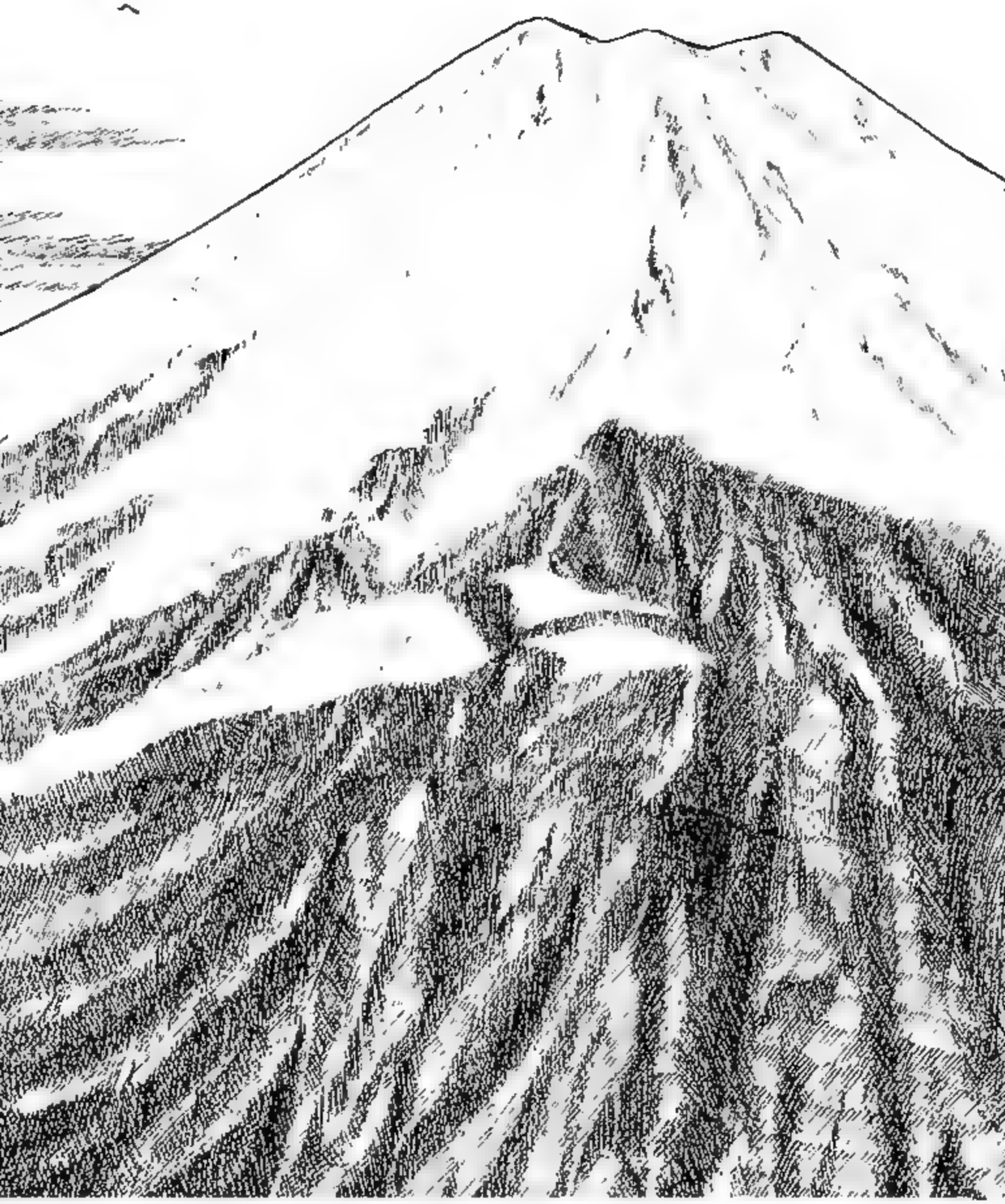

車で


徒歩で…
日本全国の
チンピラ学生が

いっせいに
"ブーン"蜜蜂……



富士のすそ野へ
進みだした

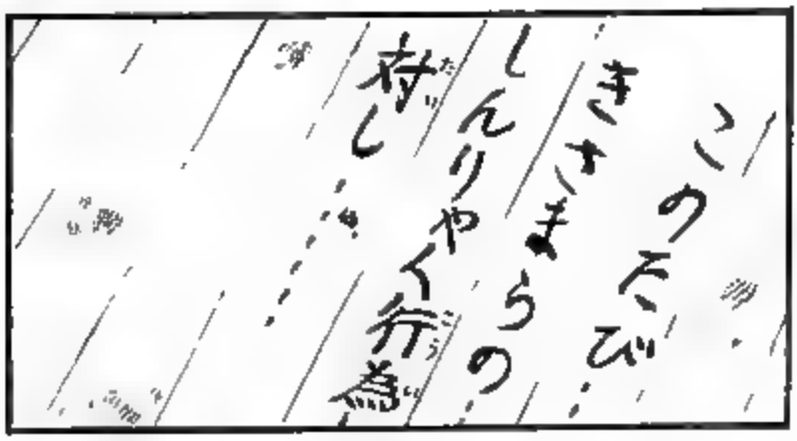


親分……
堀田側が
先に ここへ
ついたら
やばいぜ

菊村たちがつくまでいったん……もどったほうが……
ふふ……

すがすがしいぜ
え～～～～っ……
まったくすがすがしい気分だ……

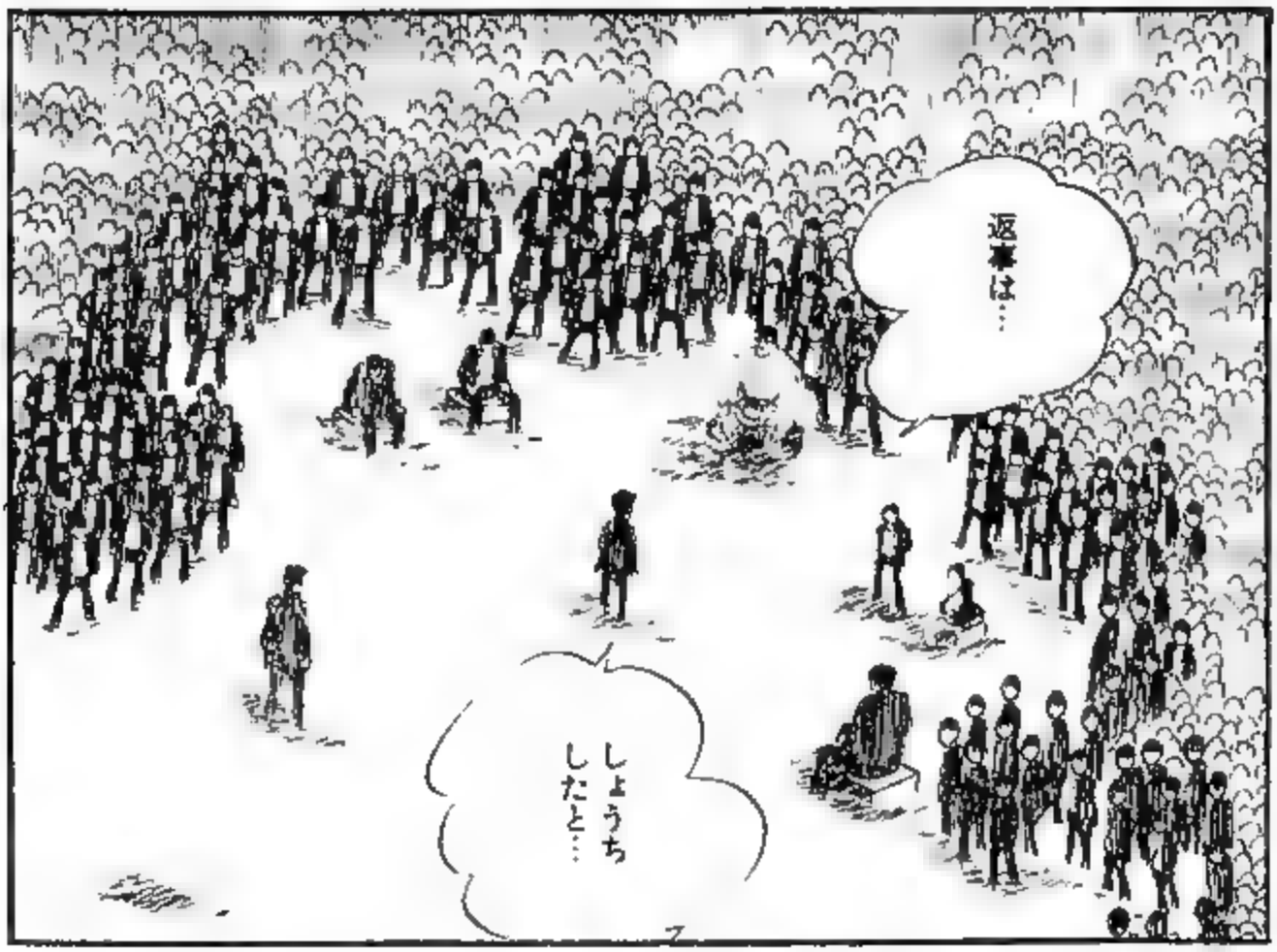
げんか光……



いつだって
きょうは
しんりゃく分為
好し……

われら……感田名家中に立て……
これをぜおくせん為に立て……
決戦の場所
富士すそ野……
一、元号
一、時
昭和四十六年
日の出時

その前夜の巻


返事は…
しょうち
したと…

でっ…

万吉のガキ
いま　とこに
おる…
へい…

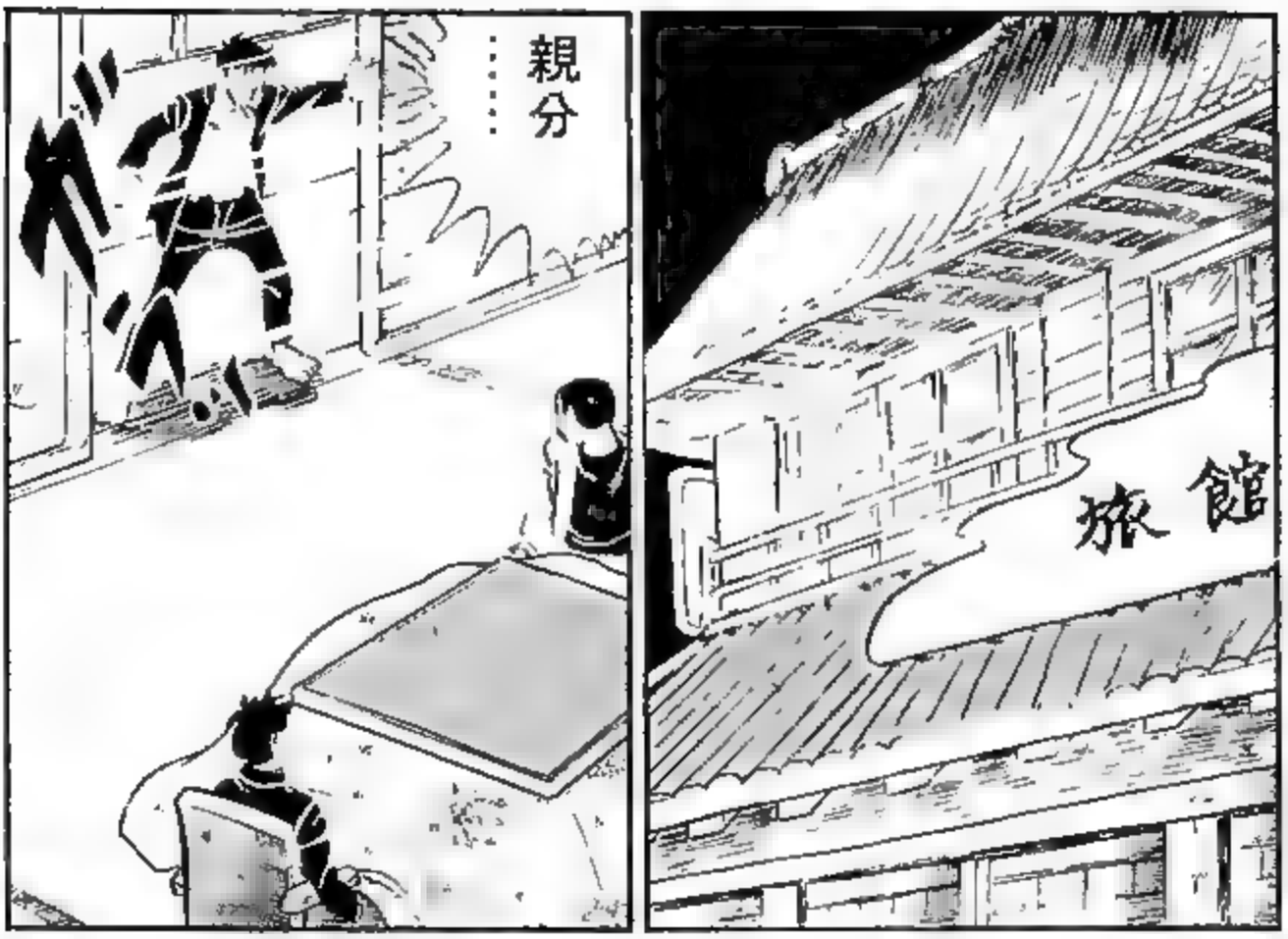
富士山の
近くの旅館に
……
銀次ほか
ふたりで…

ふっふふふ
……

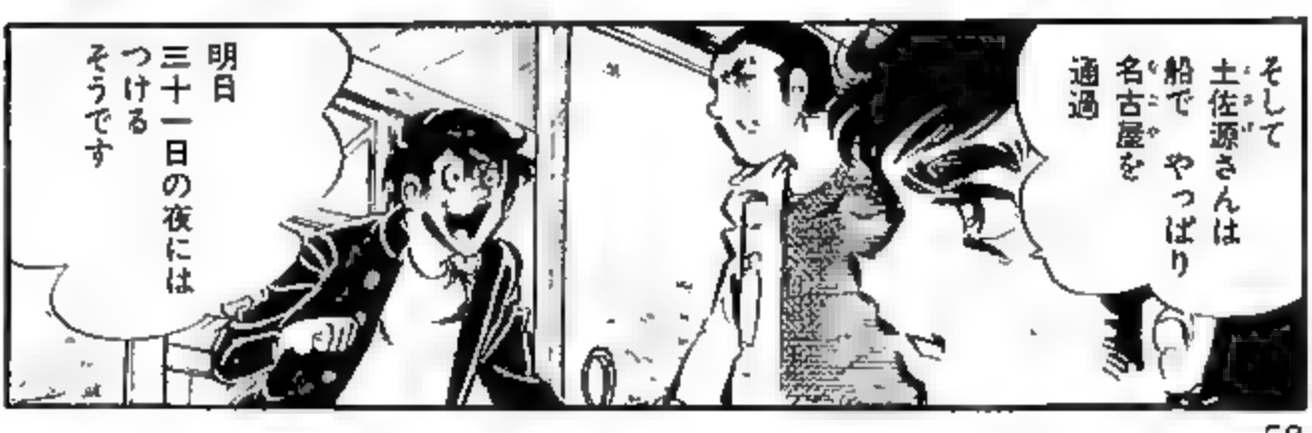
北陸の神島……さん
そして中部の熊坂さん……
関東の大島さん……
名古屋の川畑さん

あんたら四人が加わってくれたおかげで……だまっていても勝てる……
だがたたきつぶすだけではものたりん

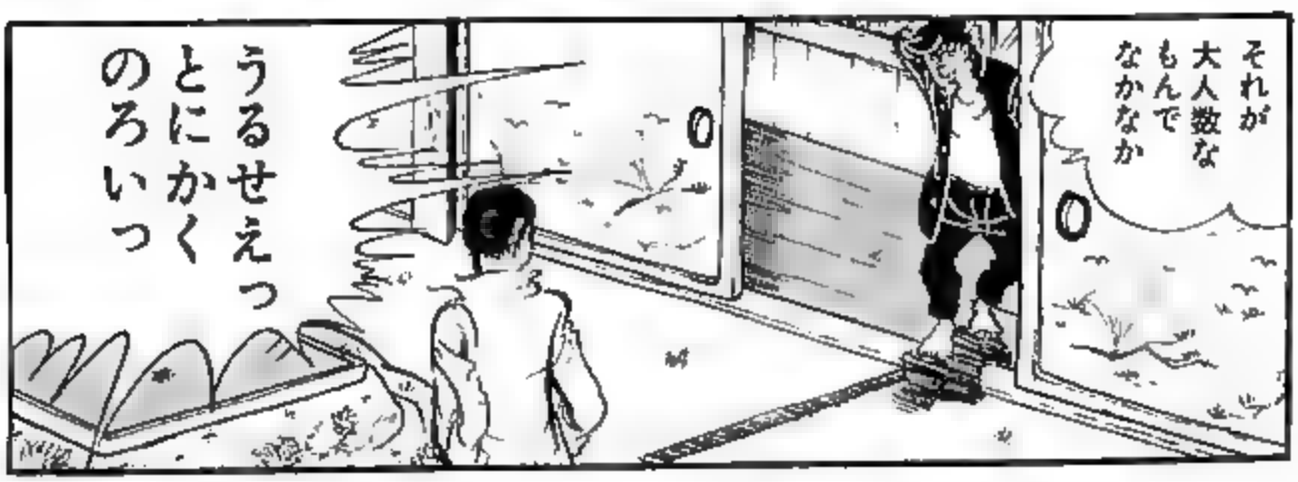
川畑さんに熊坂さん
あんたらに特別たのみたいことがある


旅館
親分……
ガーン

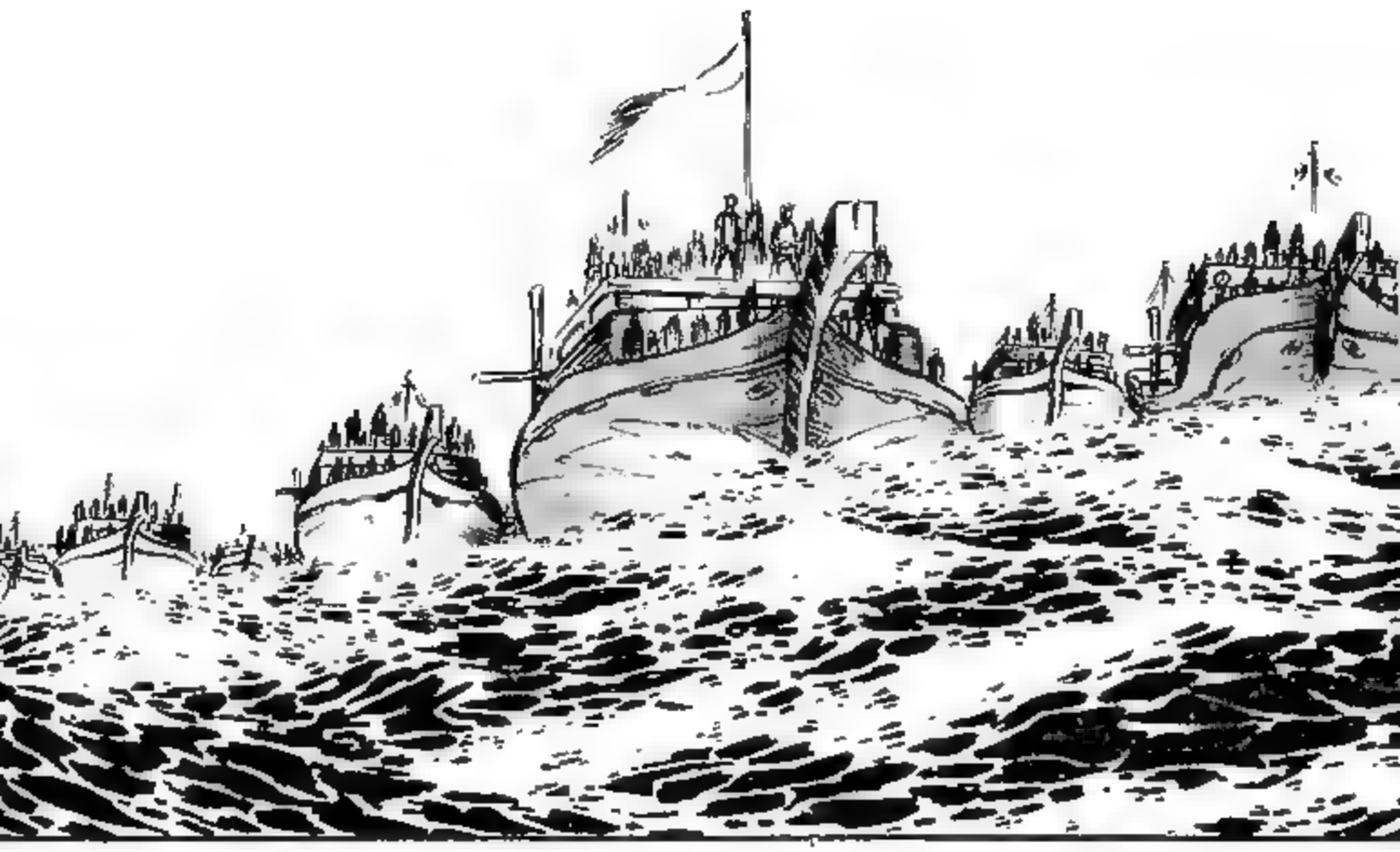
なんや…
そうぞうしい…
へい…
菊村さん達は
山崎さん達と
合流して
トラックで…
いま…
名古屋を
通過した
そうです


そして
土佐源さんは
船で やっぱり
名古屋を
通過
明日
三十一日の夜には
つける
そうです

ばかやろう——っ
三十一日の夜じゃおそい　けんかは元旦の朝だぜ
つかれとっては不利じゃ
一日ぐらい休まんとな……
もっといそげと伝えろっ


それが大人数なもんでなかなか
うるせえっとにかくのろいっ

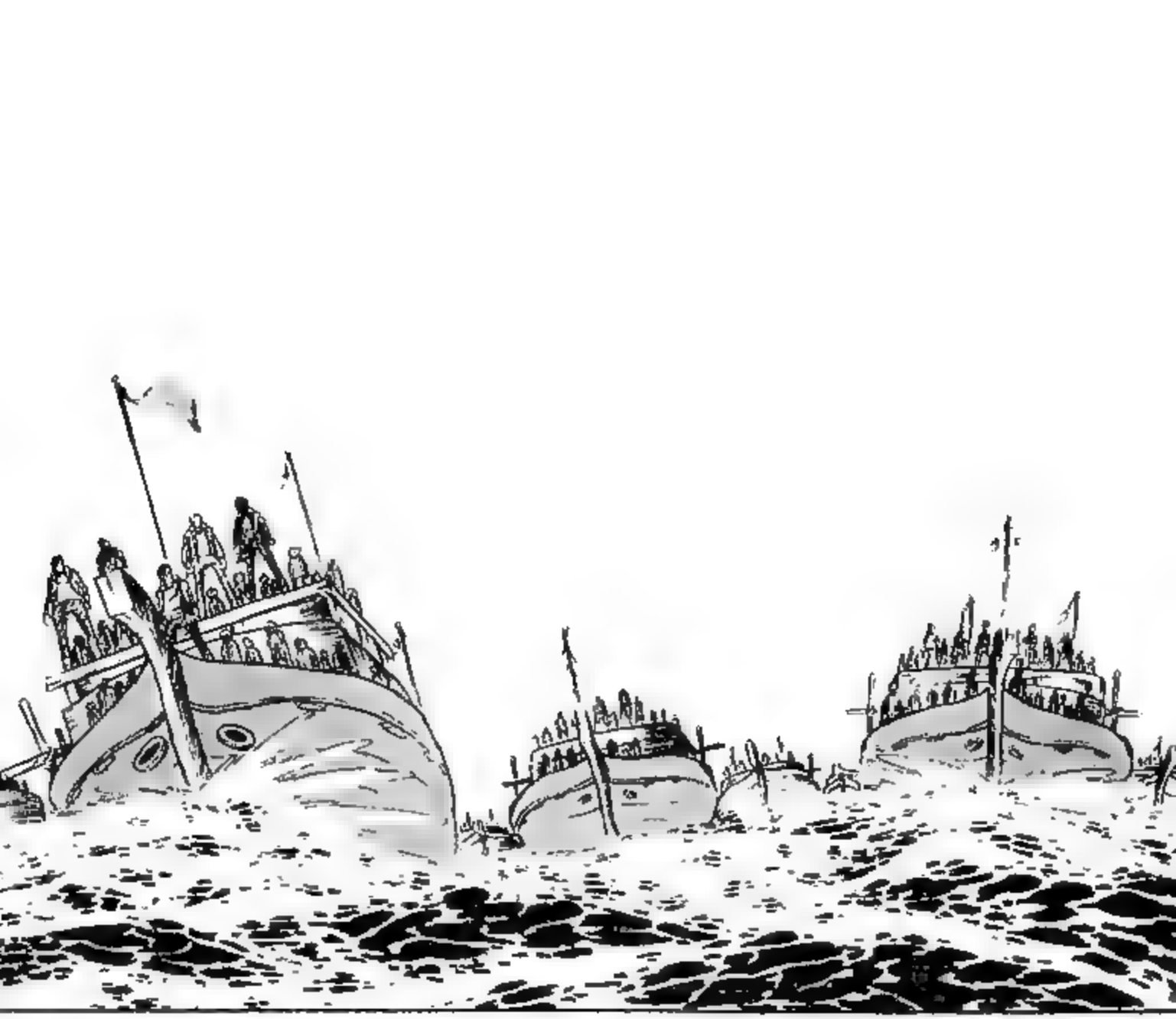
あせるな銀次……
へっ…へい
あせったところで…
神経がつかれるだけそんじゃ



へい
四 五時間ほど……

おいっ
あと どの位かかるんじゃ

むうう……



おお
――っ
やった
ろう
わいーっ

おんどれら
かくごは できとるやろなあっ

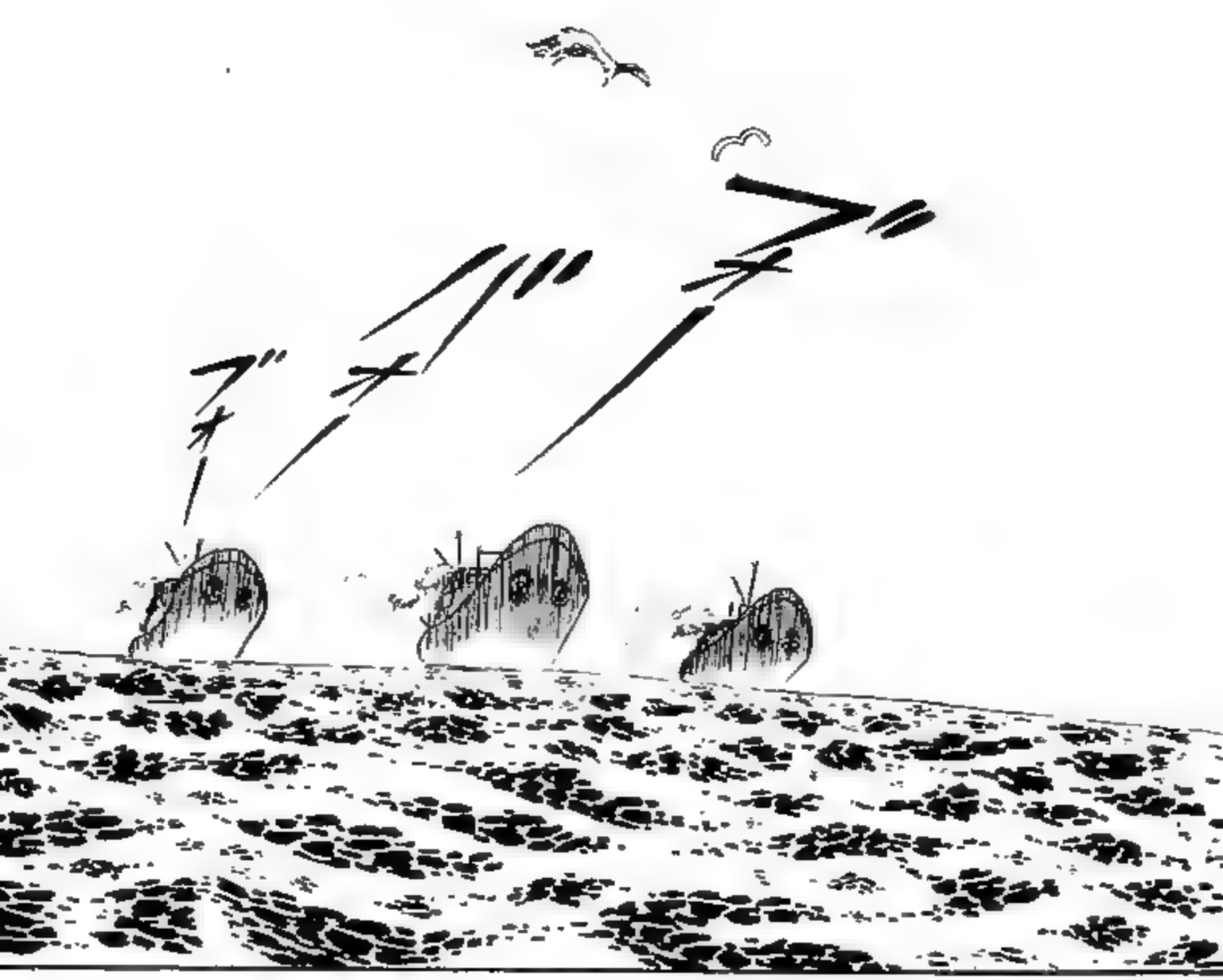
ふっふふふ
きおった
な～～～っ
四国の
山ざるども
……

みんな
したくは
いいかっ
……
おお
――っ

敵は
木造船だ
かまう
ことはない

かたっぱしから…体あたりでたたきつぶせーっ
富士(ふじ)へは一歩たりとも進めるなーっ
おお——っ

たっ……
大将……
あっ
あれは……
ン……
ケッ
ほっとけ
……
そんなもん
かまっとる
ひまあるか…
うっ


ブォーン
ブォーン

やっ…
やつらあ…
……

堀田側の
連中かっ
……

おもしれえ——っ
さっそく
海の上で
一発やったる
かいっ
まっ…
まずい……
にげろ
にげるん
だーっ
なっ……
なんでん
ね……
けいきよく
腕ならしに
やったり
ましょう
でっ……
あほんだ
ら〜〜〜っ
わいらの
方は
輸送船
奴らの
方は
いわば
戦艦……
人数を
のせとらん…
こんな所で
みち草
くっとったら…

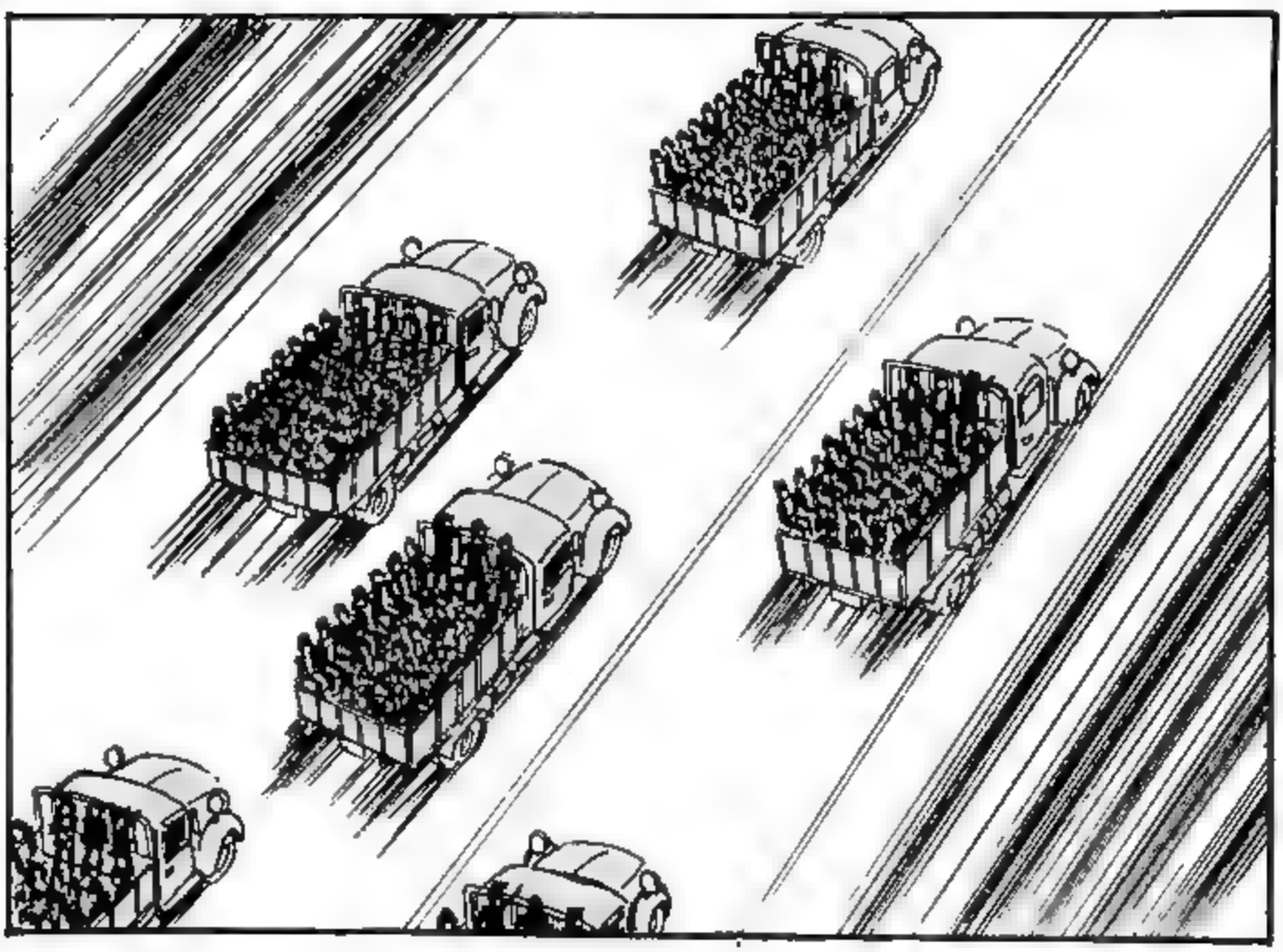
富士へむかう
人数に……
えらい
差ができち
まうぜっ…

昭和四十五年
十二月三十一日
くそっ
たれがあ
――っ
なにを
やってる
……
なにをやって
やがるんだ
あのやろう

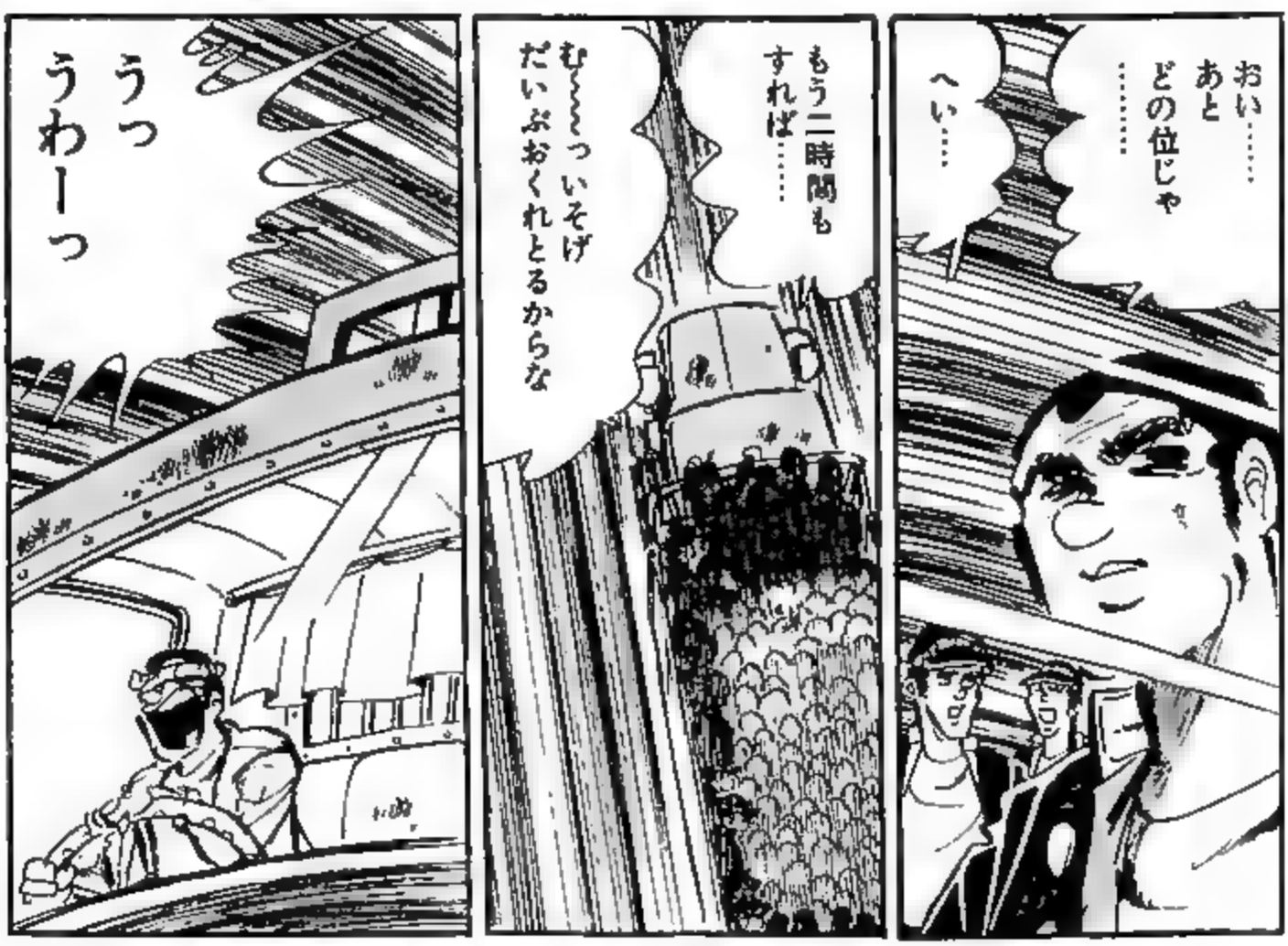
けんかは
明日……
あしたなん
だぜ
ちいく
しょう
——っ
おちつけっ
銀……
だ……
だって
親分……

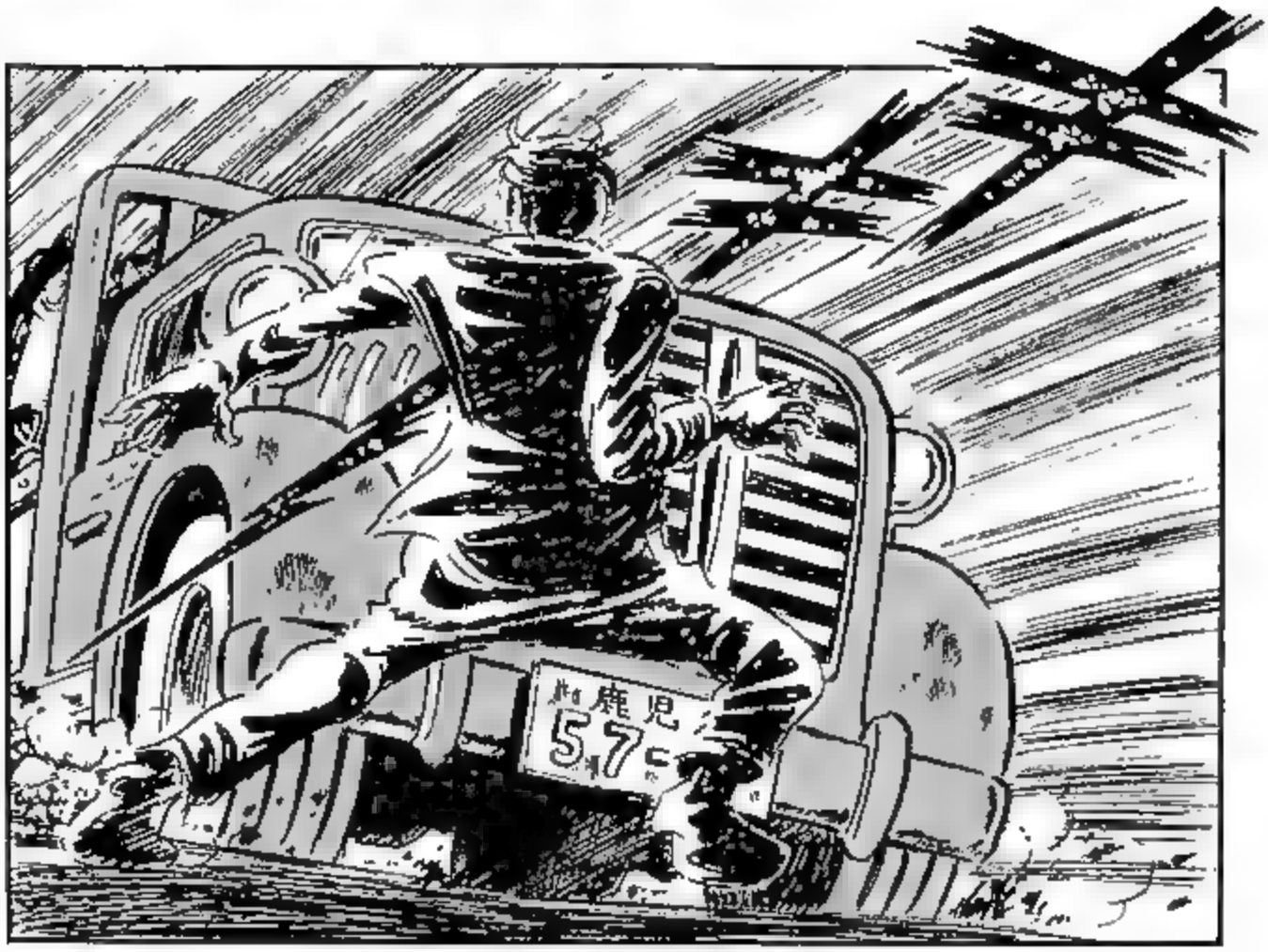
それより
佐々木は
まだこんか
……
ケッ……
あてになりますかい
あんな野郎ーっ
ふっふふ……
旅館

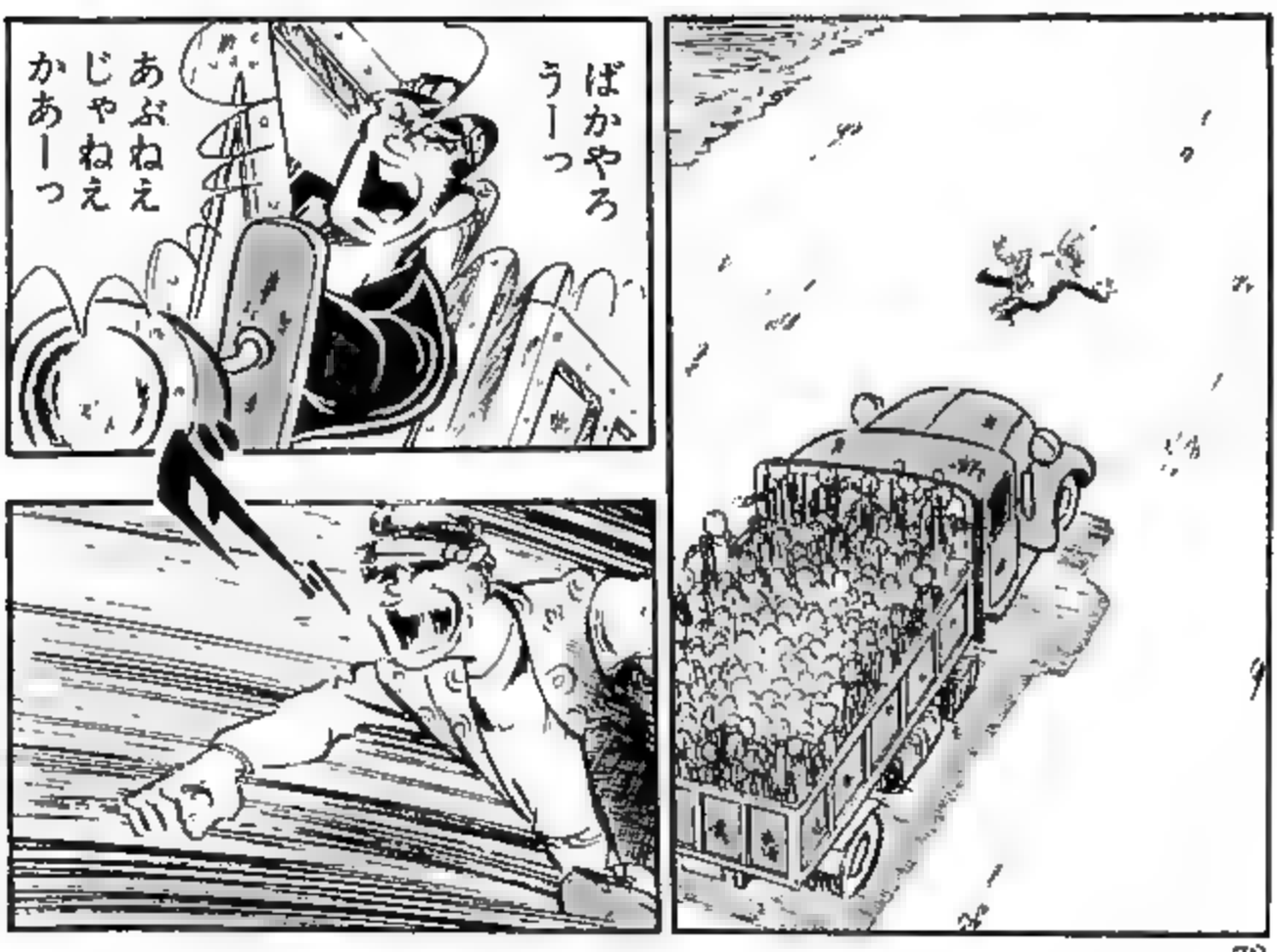
54-23



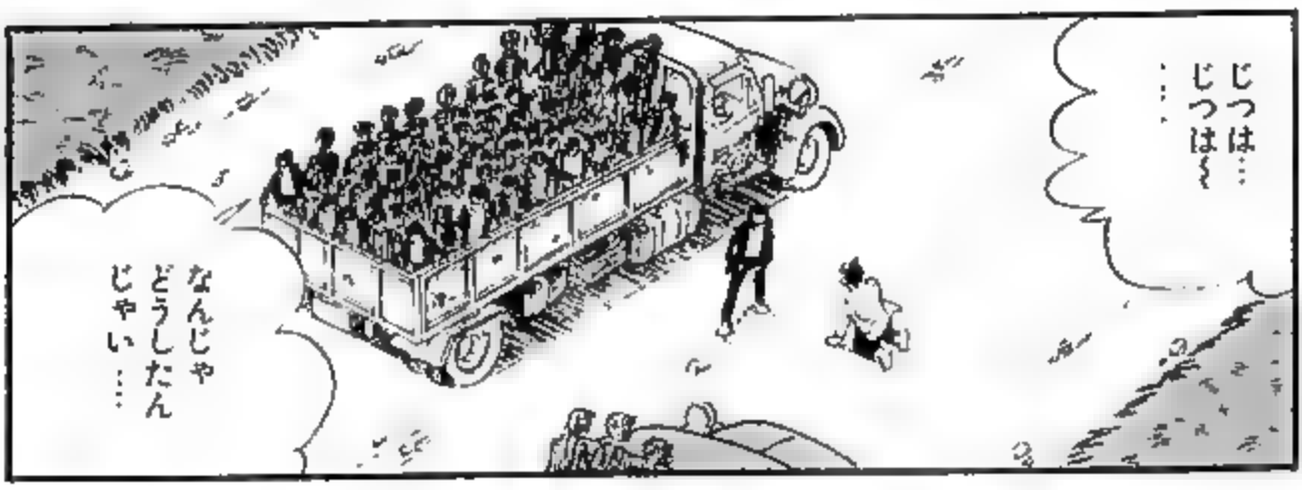
70-18


おい……
あと
どの位じゃ
……
へい……
もう二時間も
すれば……
む～～っいそげ
だいぶおくれとるからな
うっ
うわーっ


鹿児
57


ばかやろうーっ
あぶねえじゃねえかあーっ

おねがいです
おねがい
します
みなさん
助けて
ください
っ
ン…
なんや
……
助けて
ください
ーっ

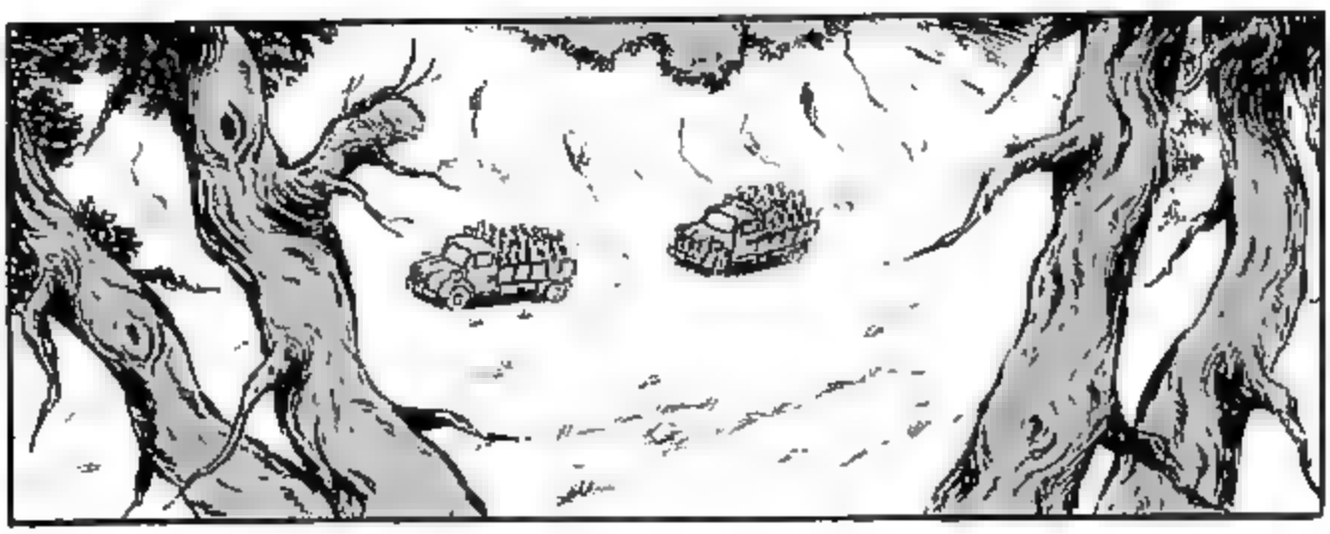

じつは…
じつは~
……
なんじゃ
どうしたん
じゃい……

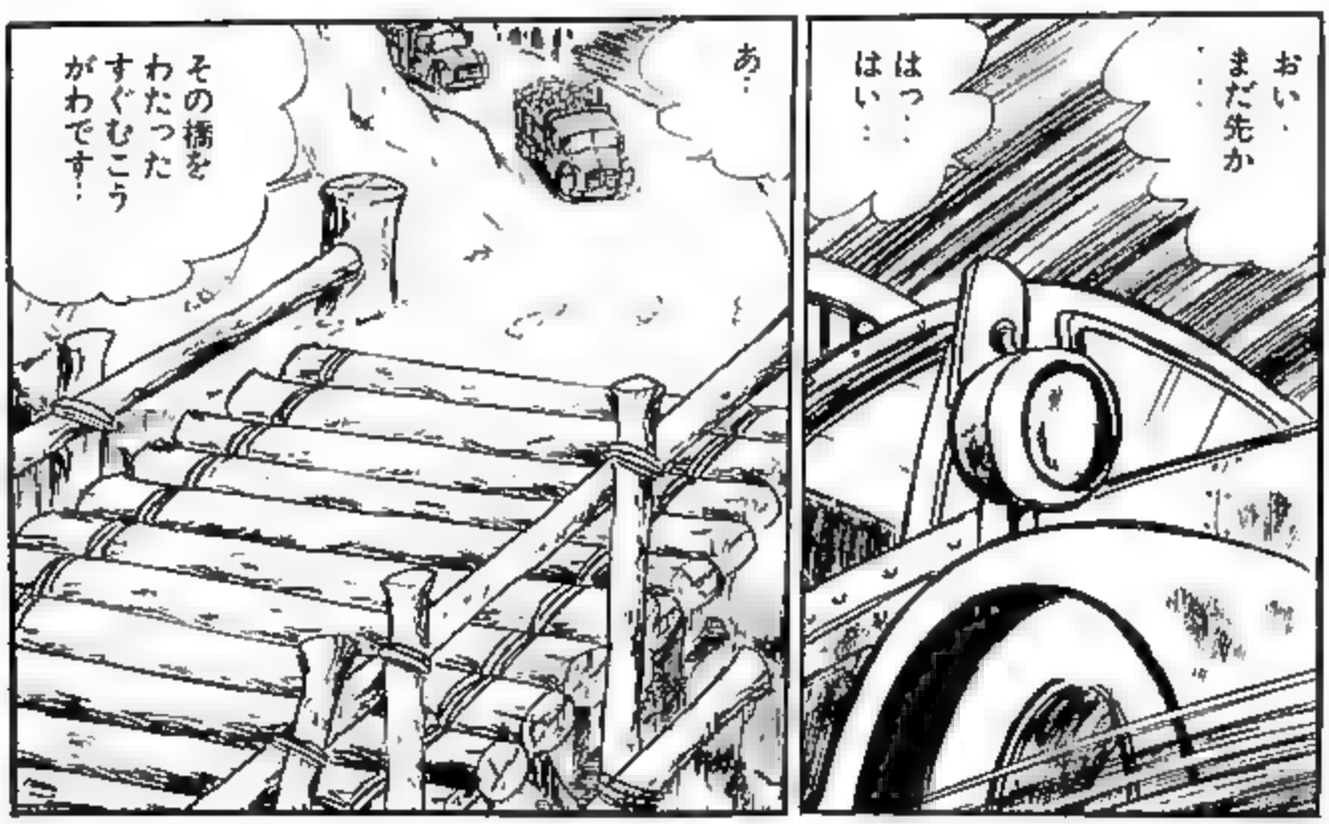
なっ
なにいーっ

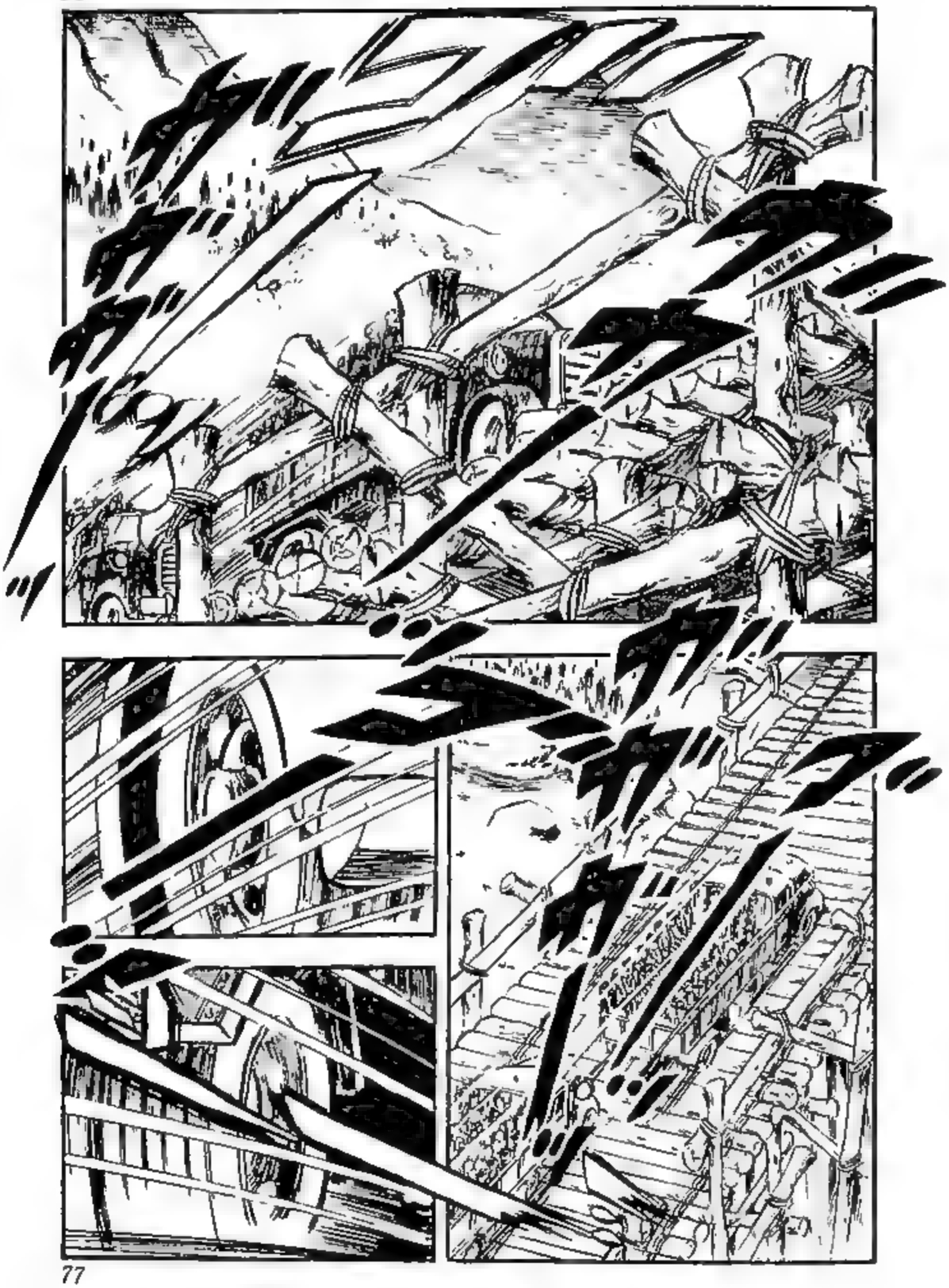
がけくずれで
家ぞくが
生きうめに
なったあーっ
いそがんと
いそがんと
死んでしまいます
あんたら
なんの用事で
どこへ行くのか
しりませんけど
これだけの
人数だったら
たのみます
助けてください…

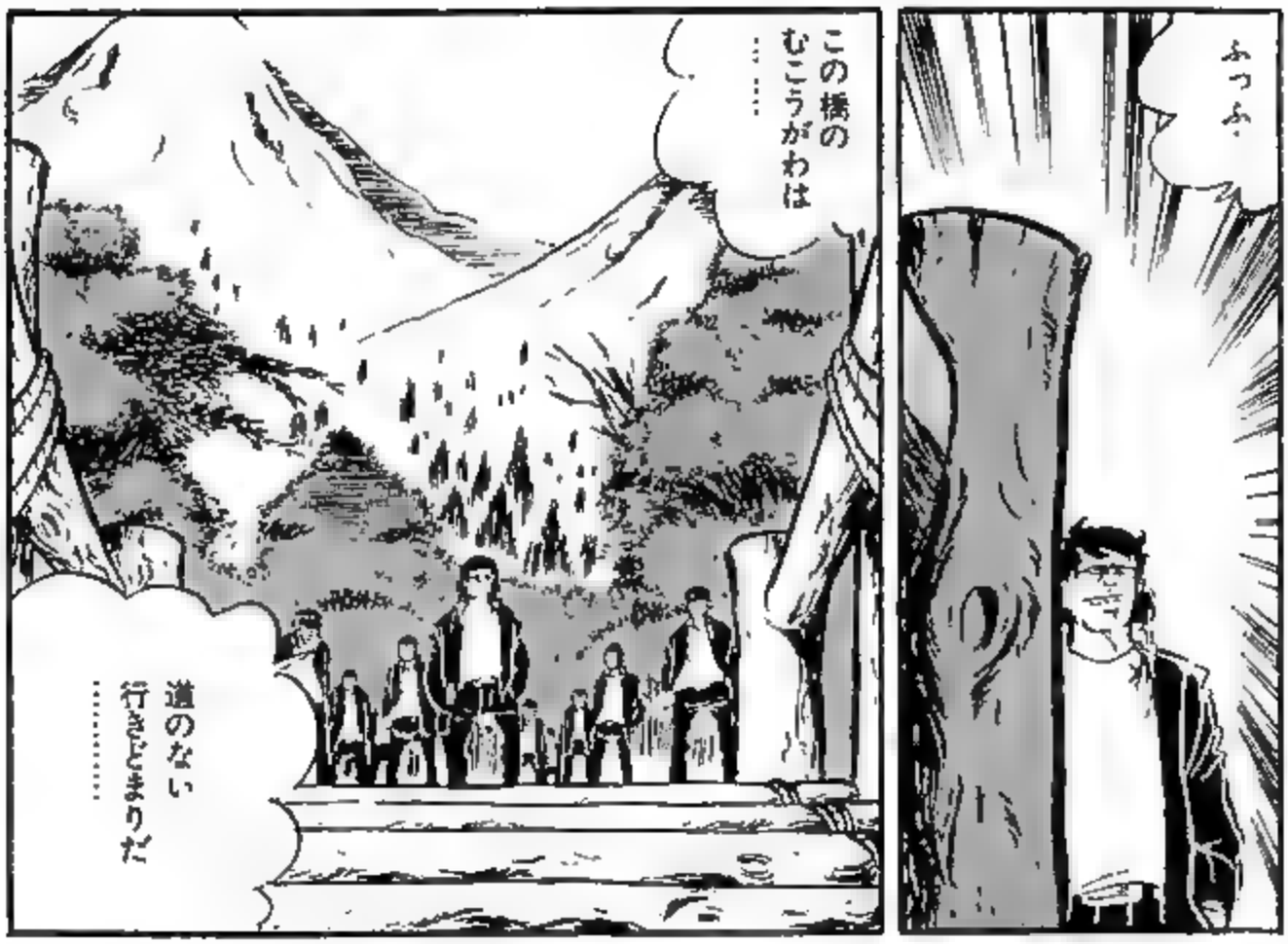
どうします
……
ムウ～～
……
菊村さん
……
こいつあ
こっちの方が
先だぜ……

なあ～にこれだけいりゃ三時間ですんじまう
人間の命の方がだいじだぜ…
ふふ
さすがきさまら万吉一家だ
よくいった
案内しろい!!
あ…ありがとうございますっ




おい、
まだ先か
……
はっ…
はい…
あ…
その橋を
わたった
すぐむこう
がわです！



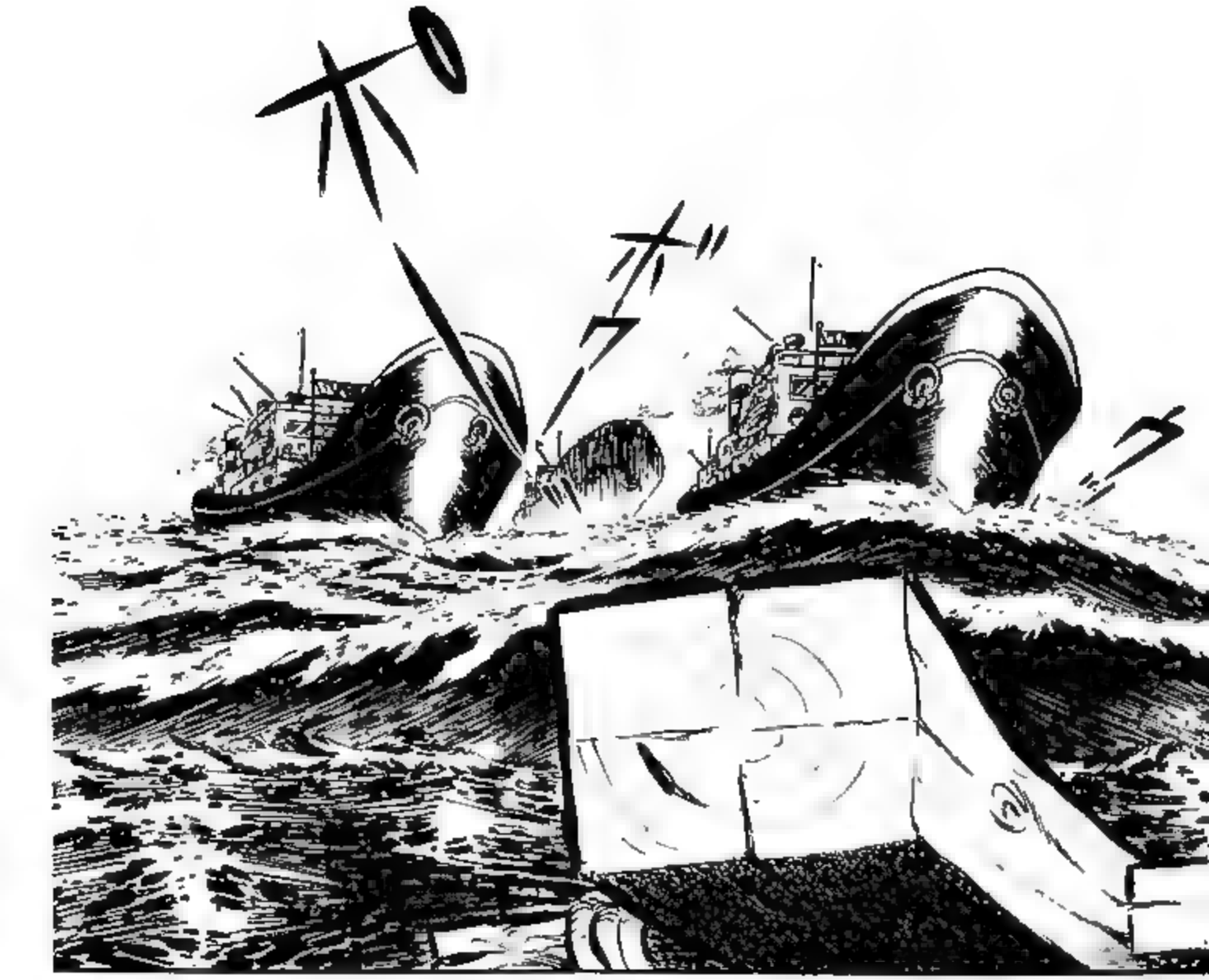

ふっふ
この橋の
むこうがわは
……
道のない
行きどまりだ
……

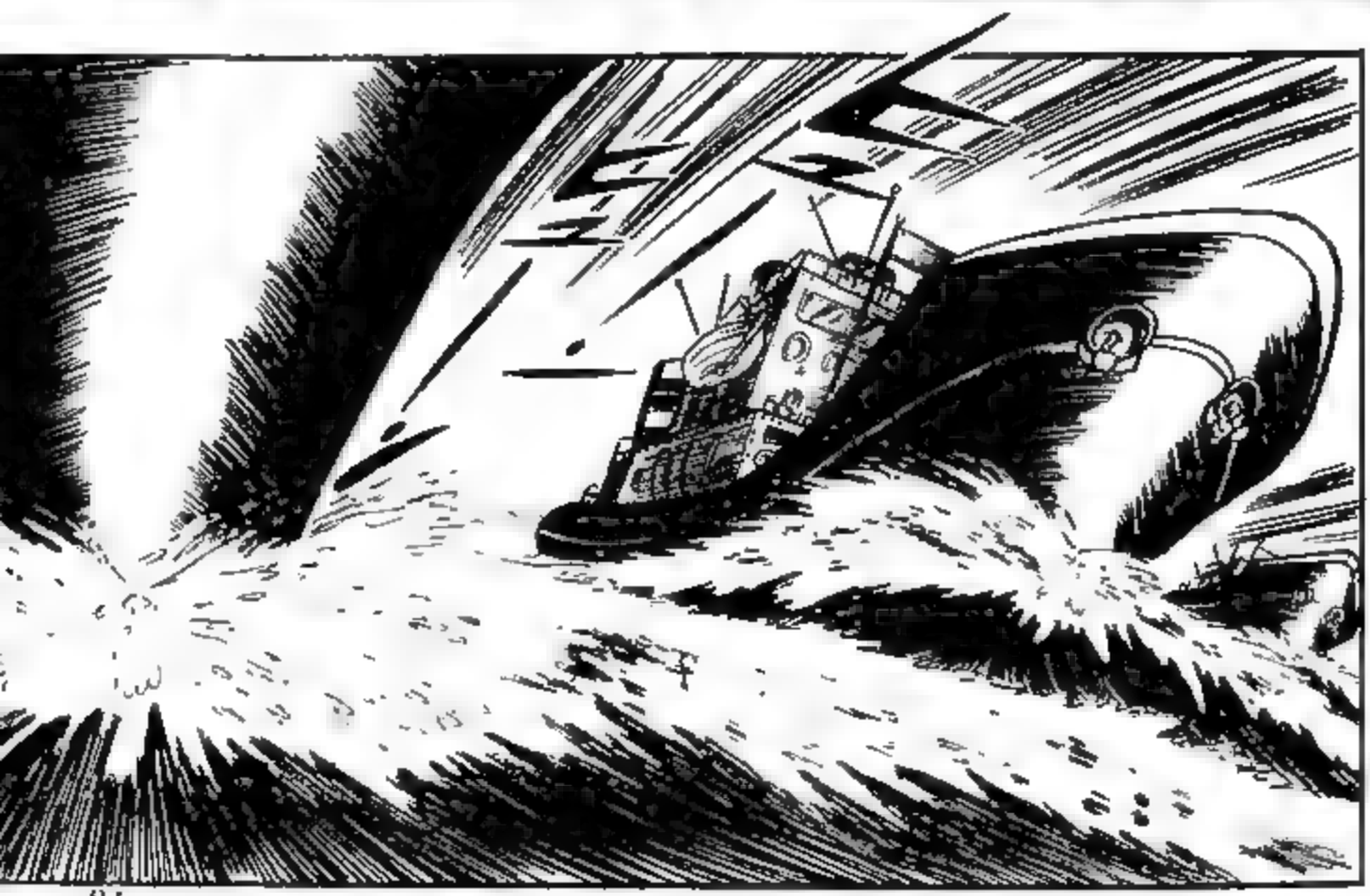
そして
この橋を
わたらねば
もどることは
できん……
やろうども
この橋を
ぶちこわせえっ

おおーっ
やったれーっ

除夜の鐘鳴るの巻

にげるんじゃあ――っ
にげろにげろ――っ





だめだめ
大将
奴らの
ほうが
数段
足がはええ

にげきれ
ませんぜ
——っ
くそう
——っ

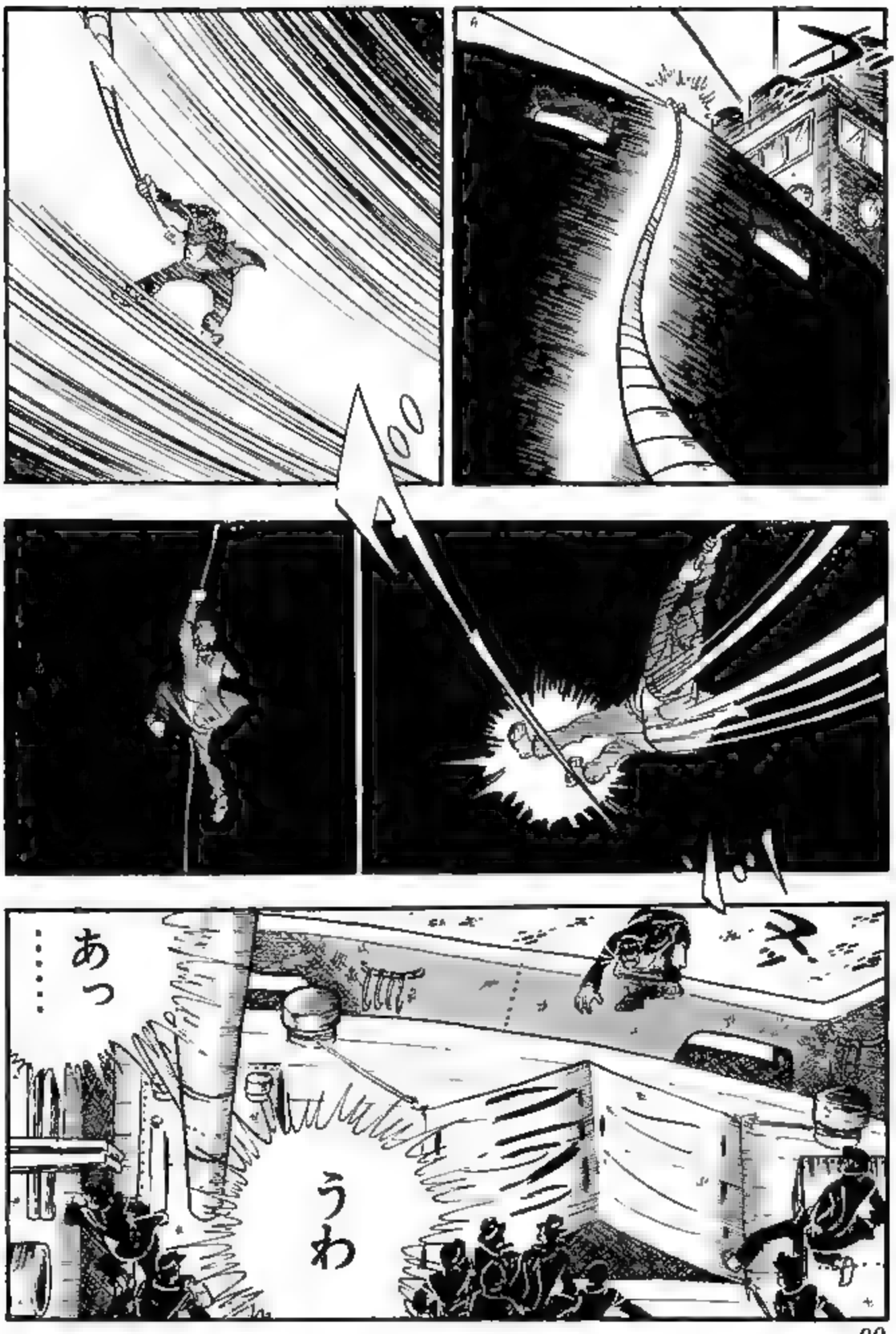
うわあああっ
だめだあっ

10
くっそ——っ
大将はやくこっちの船へ
ふはは
はは
わあ
はは
はーっ

いけっ
やっちめえ
――っ
おお
――っ

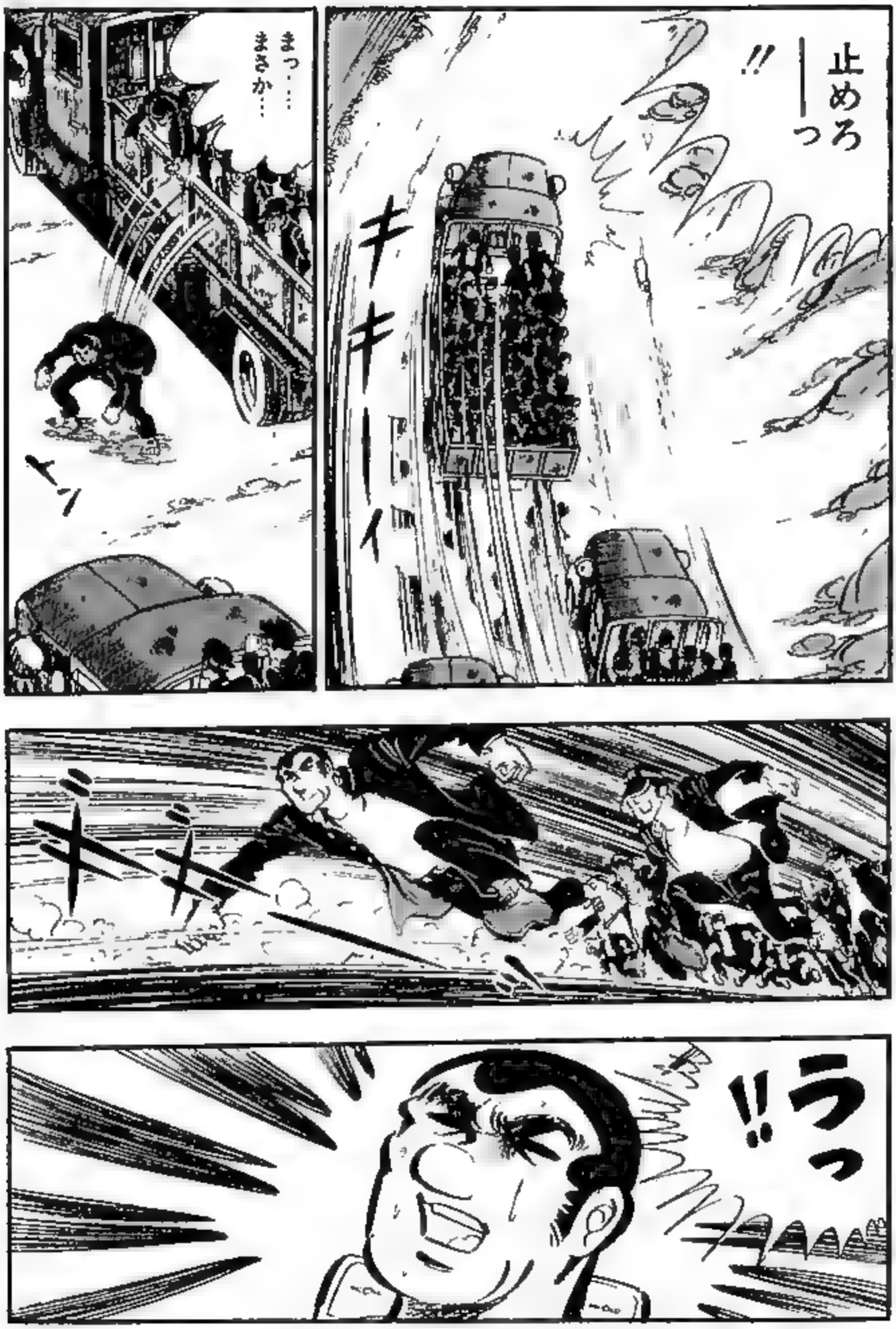
わあ
――っ

やろう〜〜〜
なめやがってえ——っ
土佐の漁師をなめやがってえ
ぶち殺してやるぜ!!


あっ……
うわ

おんどれらあーっ
ガ!!
うわーっ
うおおおーっ

うおお——っ!!
なんじゃなにごとたいっ


まっ……
まさか…
止めろ――っ
!!
キキーイ
うっ
!!

やろう
——っ

しっ…
しまっ
たあ
〜〜〜

きさまあ——っ
よくも
うわあ——っ
す……すいません
かんべんしてください……
ひりやり
あの人たちに
おどかされて……

やかましい
おれたちは
おれたちは
これから
天下わけめの
大事が あっ
たんだぜっ!!

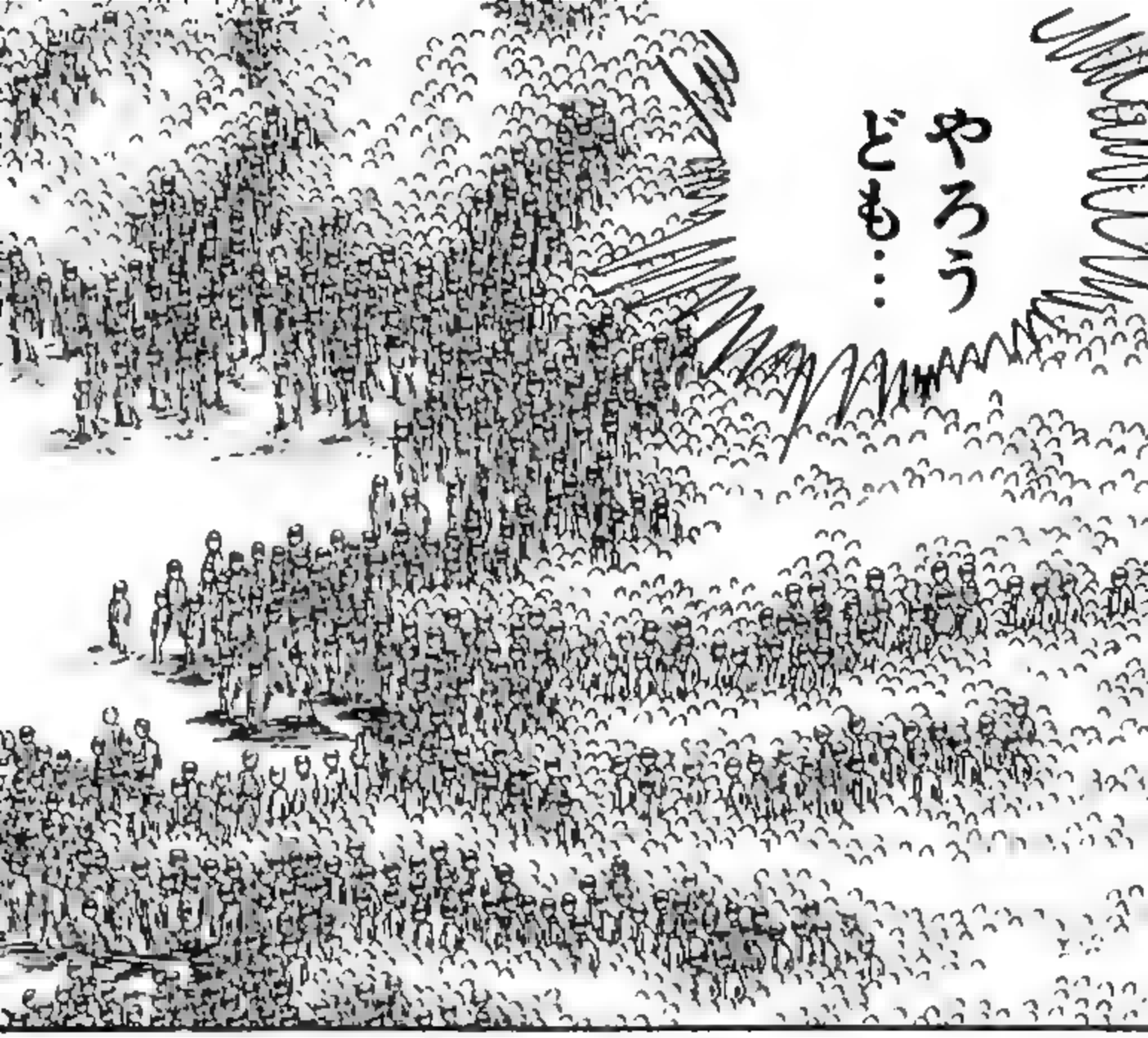
それとも
てめえーっ
わあ——っ
よせっ……
わいらの
ぬかりじゃ……
その人を せめた
ところで……
同じことじゃい

旅館
池田屋
うううう……
きたか
あーっ

それがいまだにかげもかたちも……
くう～～～
わあーっ
堀田側のうごきは
へい…富士の四キロてまえの広場に全員集結してます……
まもなく富士へむかって出発するようです
そうか……

神島さんが……
一千人だ
川畑さんと熊坂さんからあずかった人数が
三千人！
そして大島さんあんたが……
二千だ……
しめて一万五千……
ふふ……これで　いちおう全部そろったわけだな

万吉方は
七千ほどか
ふふ……
勝ったも
同じだぜ…
いや……
万吉方は
千人が
いいところ
だ……
なにい
ほんとか
……
ふふ……
はじまって
みれば……
わかる…
除夜の
カネか
……
ふふ
……

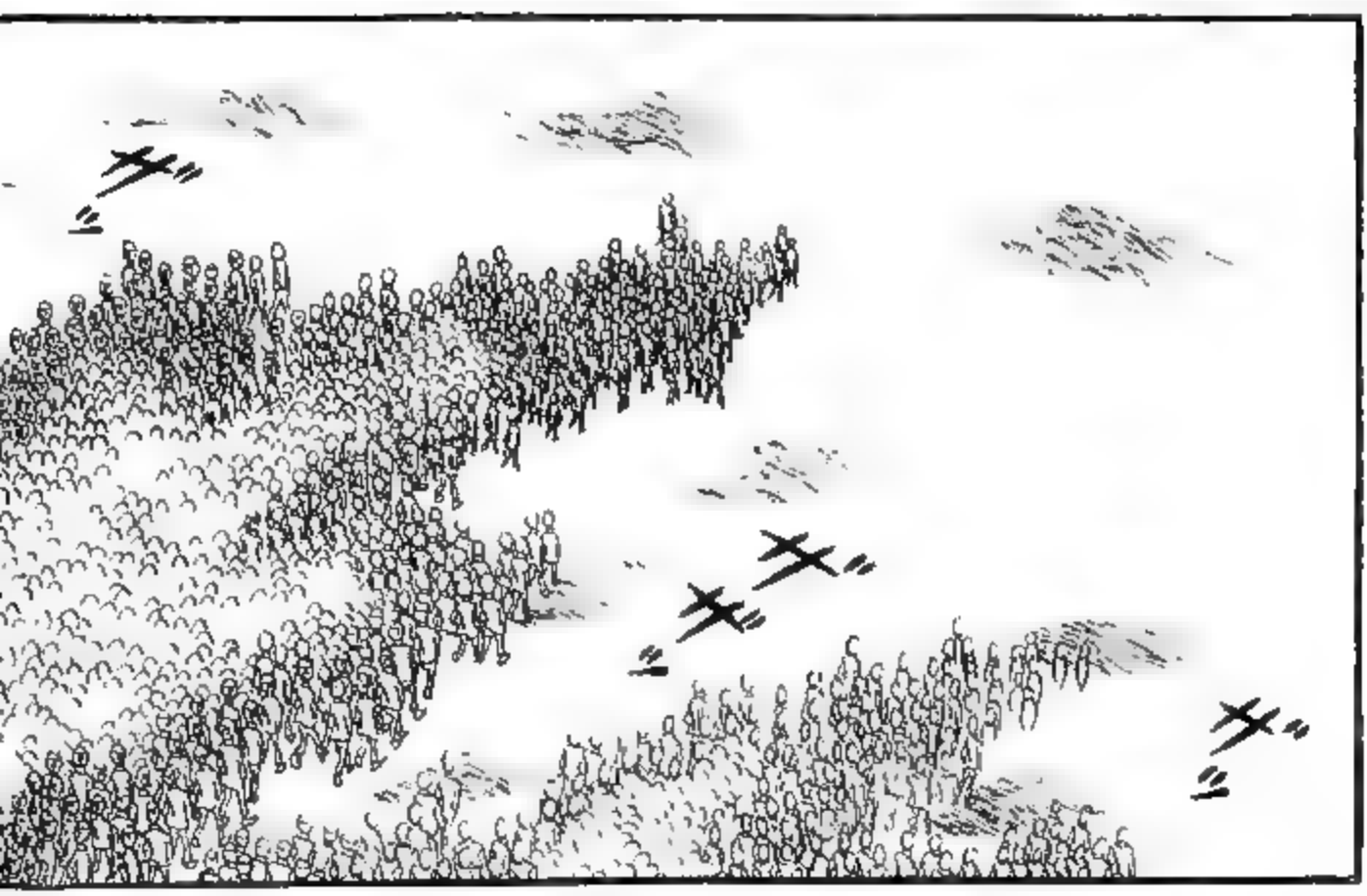

やろうども…

めざすは
富士の
すそ野

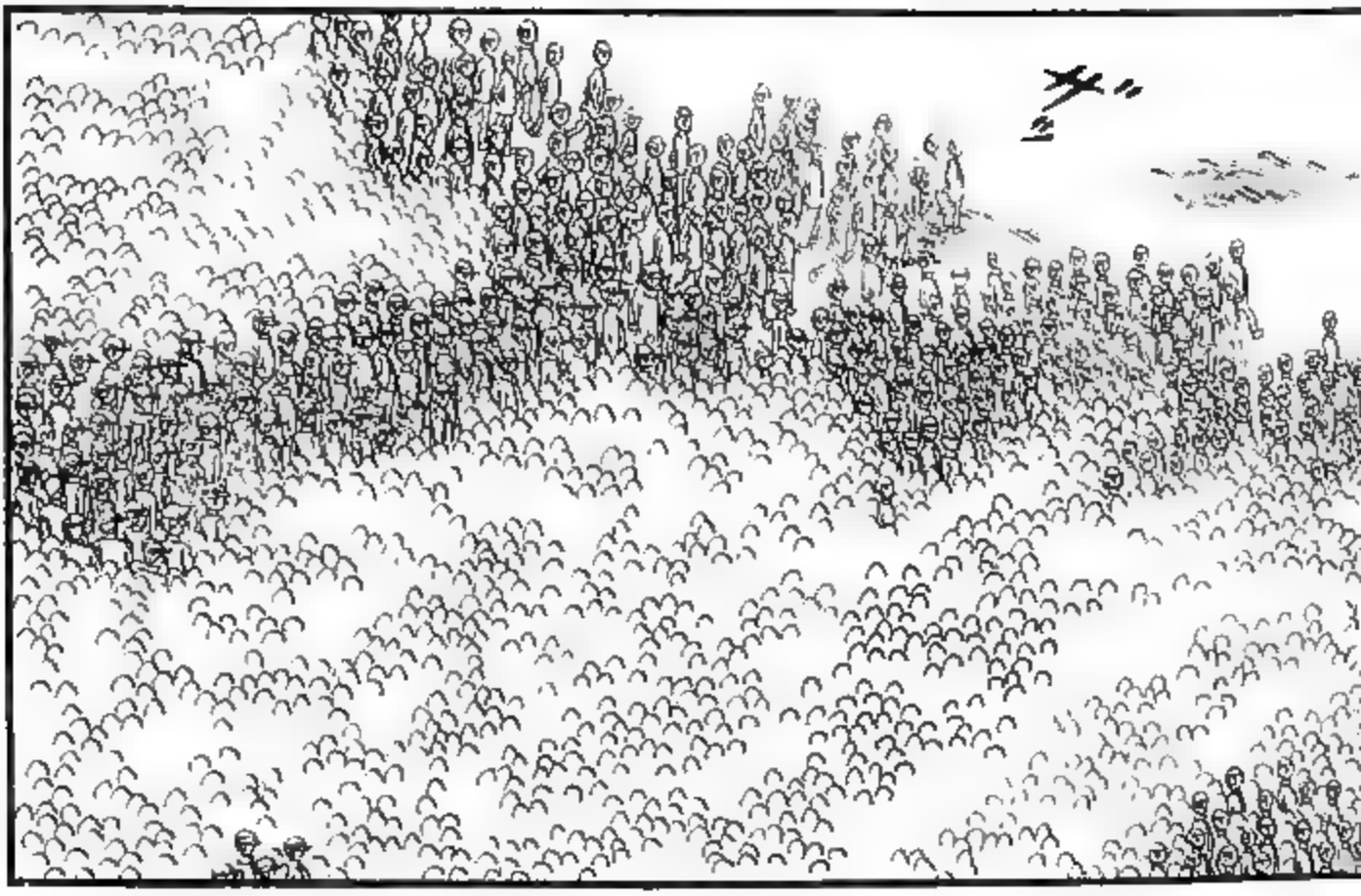
行く
ぜーっ

目的は
戸川万吉(とかわまんきち)を
ぶちのめす

ー!!



おお



旅館

万吉の重さの巻

うおお
――っ

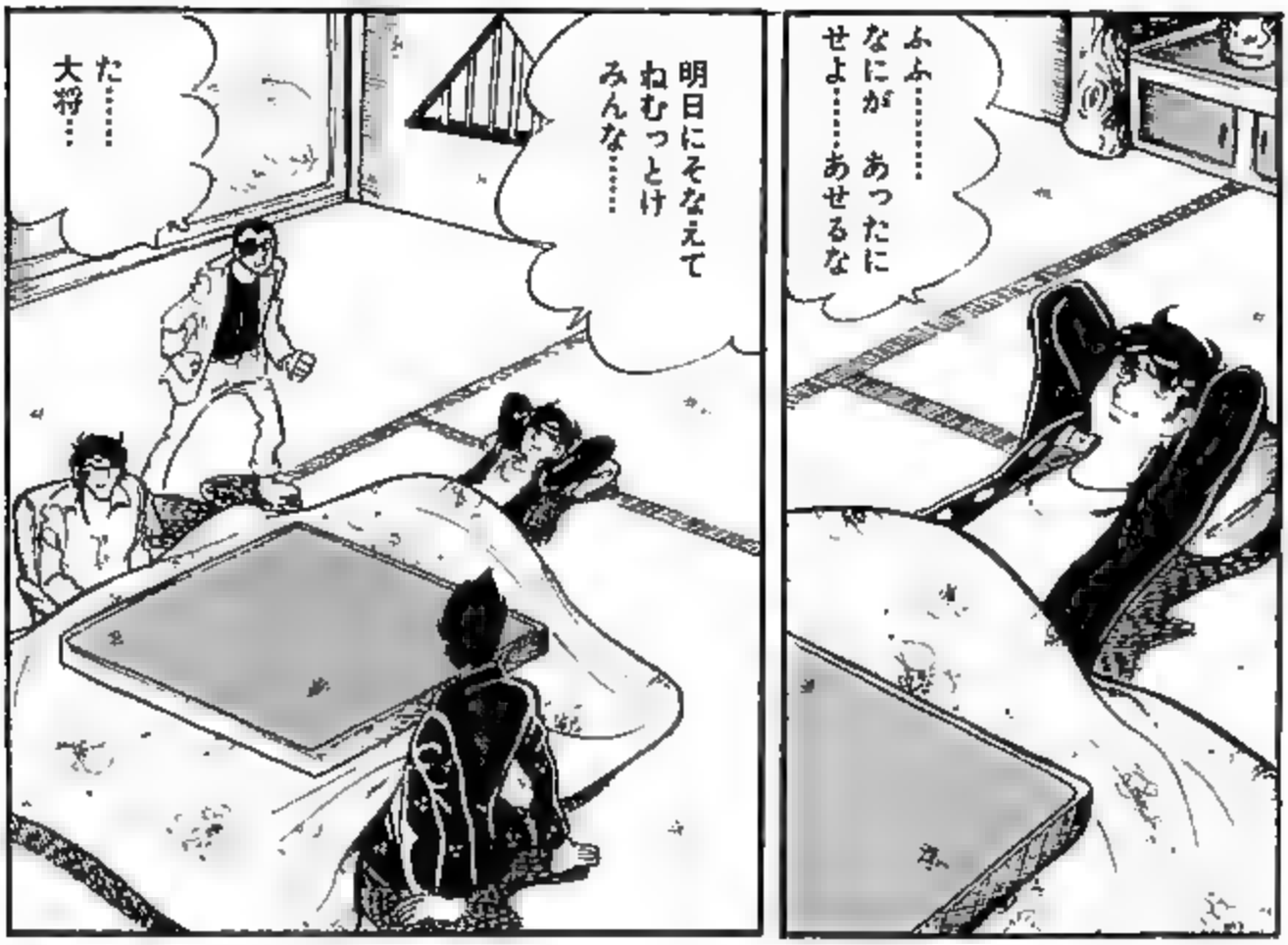
くそったれがー

まだ一匹も
きやしねえ
じゃねえか

どうなって
やがんでえ
ちくしょうっ

おかしいぜ
……

こいつあ
なにか…
あったな


ふふ……
なにが あったにせよ……あせるな
明日にそなえて
ねむっとけ
みんな……
た……
大将…

ふっふふ……
ン…
佐々木かっ……

さすがだな
万吉さん……
あと……
四 五時間で
一世一代のけんかが
はじまるってのに
……

しかも じぶんの 兵隊が こんという のに……
たいした 落ちつき ようだ
ふふ…
わいには 先生…
あんたが いるや ないけ……

このけんかに 集まる人数… 両方で 約……
三万…

その中で 万吉さん…

あんたひとりがめだたねばならん……

ケ……そんなのあたりまえじゃねえか
万吉親分が日本の大将になるけんかだぜ

それなのに……
なにをやってやがんだあいつらあ～～～

あんたひとりで三万人をのみこむんだ

戦わずして勝つ……

戦わずして勝つ……
三万人という人数……
ただけんかだけに集まるのはもったいないぜ……
三万人の重さとあんたひとりの重さと……
どっちが上かためしてみろっ
ン……

きたあっ
きました大将…
きたかあーっ
なっなんじゃい
そっそれが……
万吉一家の千人だけでんね……
なっ……なにい～～

ばか
やろう～～っ
相手は
ほかの四人もついて
一万五千人だぜっ
どこだ！
へい……
おもてに
いまっさ……

佐々本……
このけんかは
実さいの
乱闘は
やつらに
まかし……
わかるか
万吉……
ああ……
やっちまった
ら……
ふふ……
おれは
目だたなく
なる……
それが
わかっとるん
なら……

このけんかは
あんたの
勝ちだ……
三万人が
集まっても
あんた ひとりが
勝つ……
どこへ行く……
けんかは
明日やで……
ふっふふ…
戦わずに 勝てる
よう さいごの
用意に
行ってくる……

ふっふ……
はっは
はは……
ふふ……
はは……
はっは
はは……
わあっ
はは……
はあっは
はは……

このけんか……
こうして
ここに　立って
いるだけで
勝ちだぜ
堀田さん
ふっふふ
……

ふふ……
万吉
いくら
きさまでも
……

これも
佐々木……
おまえの
おかげ
だぜ……

しっぽをまいて
にげるか……
はは
はは……

一万五千人と
一千人の
戦い……
どっちが
有利かぐらい
きっしは　つくだろう

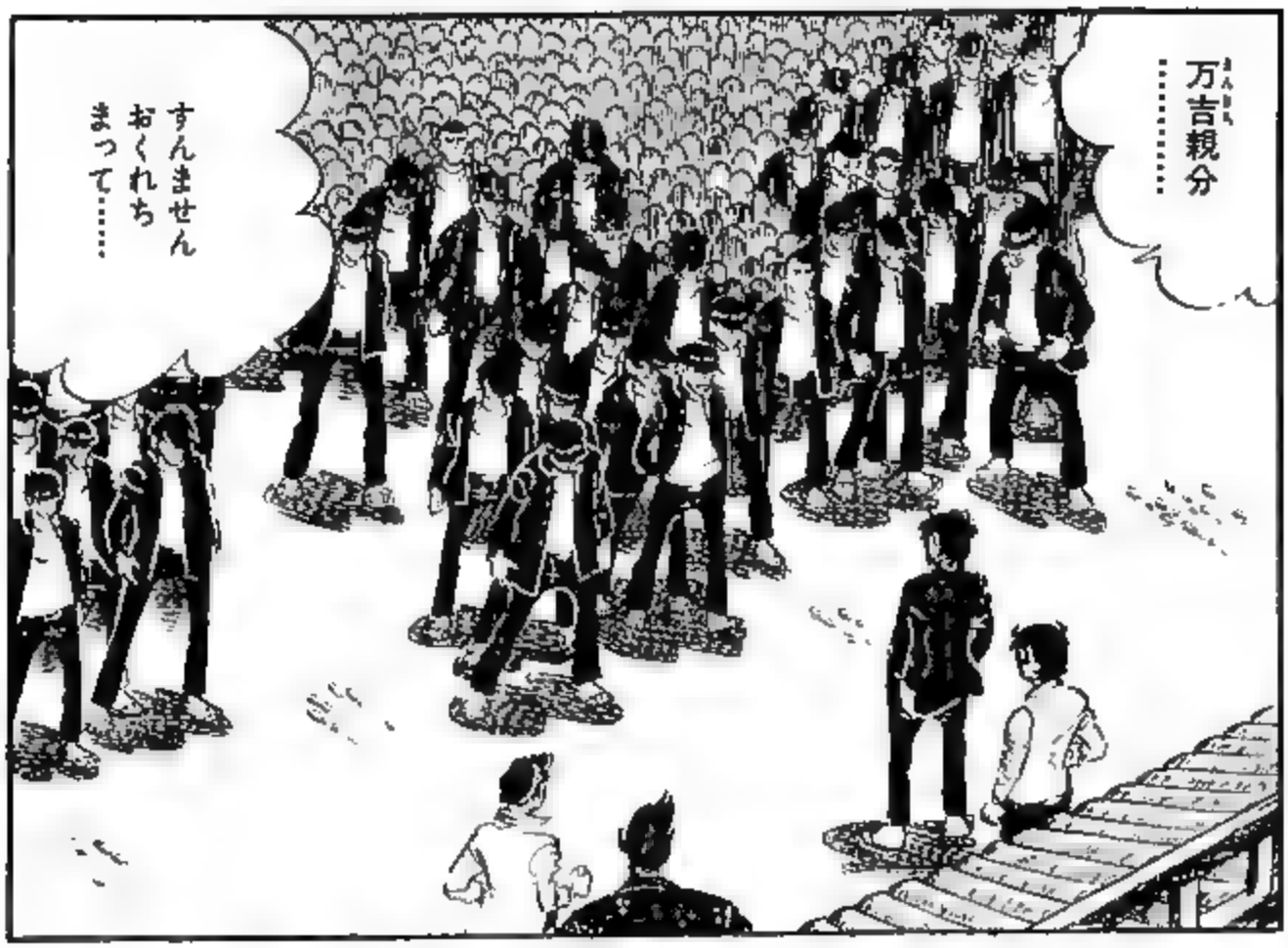
はっは
は……
ふは
はは……

ははは
はは
うわあっ
ははは
は〜〜っ!!

日の出まで
あと どの
くらいじゃっ
へい……あと
一時間
ほどでっ……
よおーし!!

ええかーっ
日の出までに
こんかったら
わいらの
勝ちじゃ
ニヒ
!!

たとえ
きたとしても
たたきつぶし
たれ――っ
おお


万吉親分……
すんません
おくれち
まって……

気にすんな……
それより菊村たちはどないした……
へい……それなんですけど……菊村はんたちは車やし……
とっくについていると思ったんですけどね……

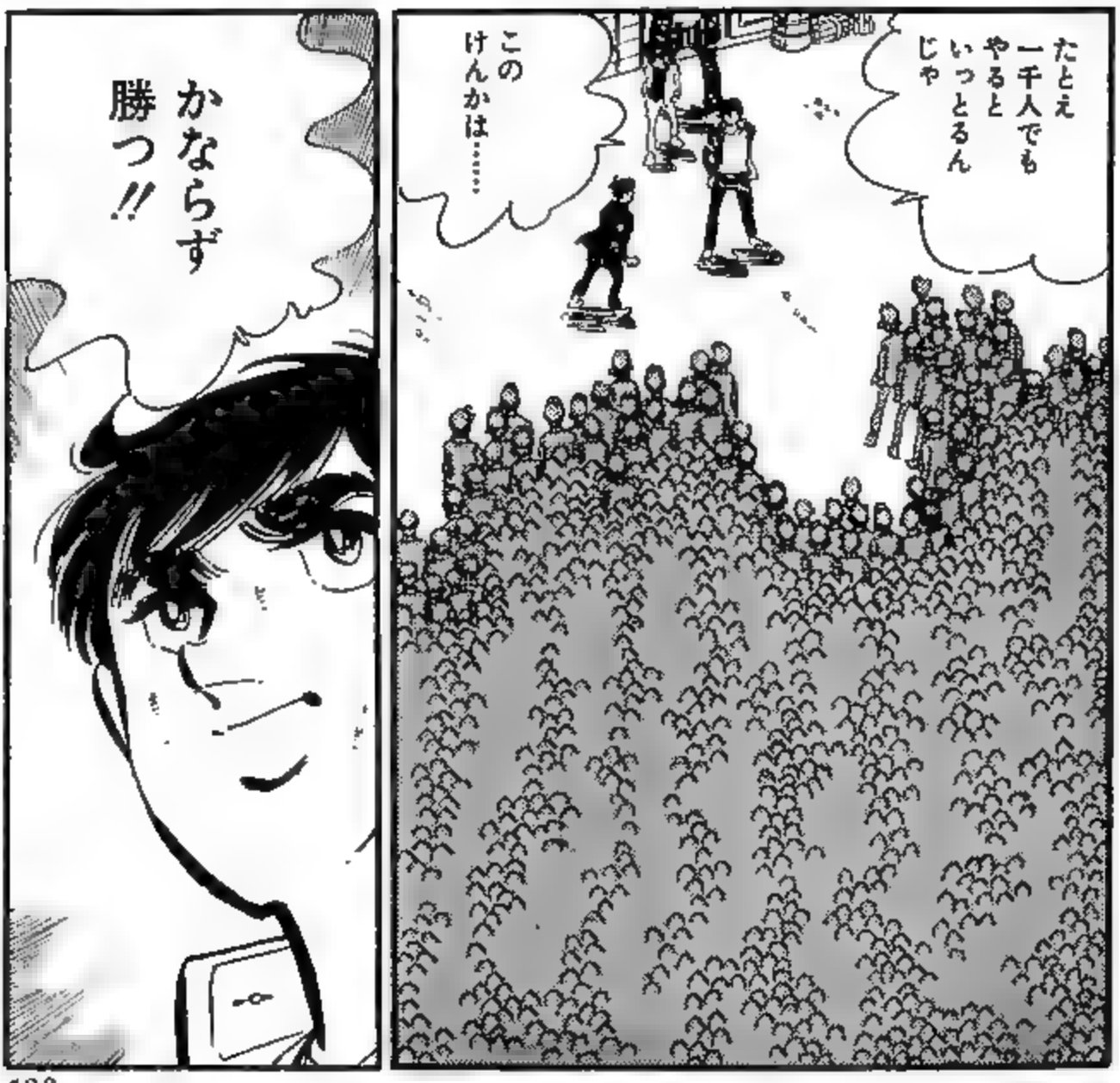
親分……
なにか
あったぜ……
なにか
あったんだあ～～～
こいつあ～～～っ
ふふ……
はっは
は……
こいつあ
もうすこし
時間をみて
こっちの兵隊が
集まるまで
まったほうが……

時間に
おくれたら
負けやで
……
しっ……
しかし大将
奴らの人数は
一万五千だぜ

これだけの
人数で
いったい…
どうやって
やはり
まった
ほうが……
そうや
で……
大将

銀・島田
ヘルス…
へい
……
へっ…
わいといっしょに
死んでも
ええかい
やぼなこと
いうな
親分……
よし……
なら
みせてやる
男の
ほんまの　けんか
ちゅうのんを……
一万五千人と……
わい一匹……
どっちが重いか
な……

すると……
またダイナマイトかなんかで……
アホ……
おなじ手が何度も使えるか
わいは 今
勝つ けんか
しか……
やらん……
そのわいが


たとえ一千人でもやるといっとるんじゃ
このけんかは……
かならず勝つ!!

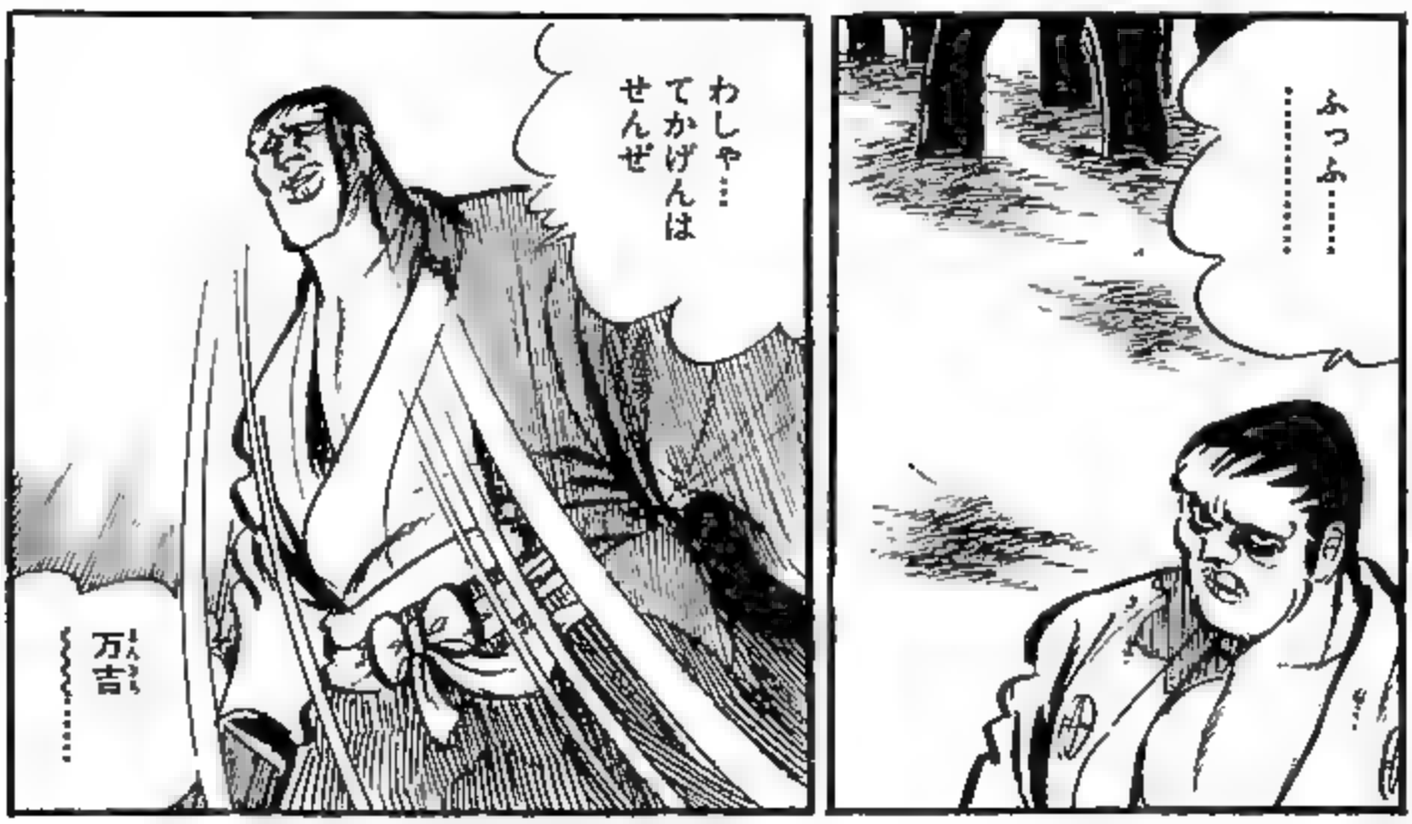
おのれらは
だまって
わいに
ついてこいっ
ちーーーっ!!

わかっとるなーっ

昭和四十六年
元旦

晴れ姿・男万吉の巻

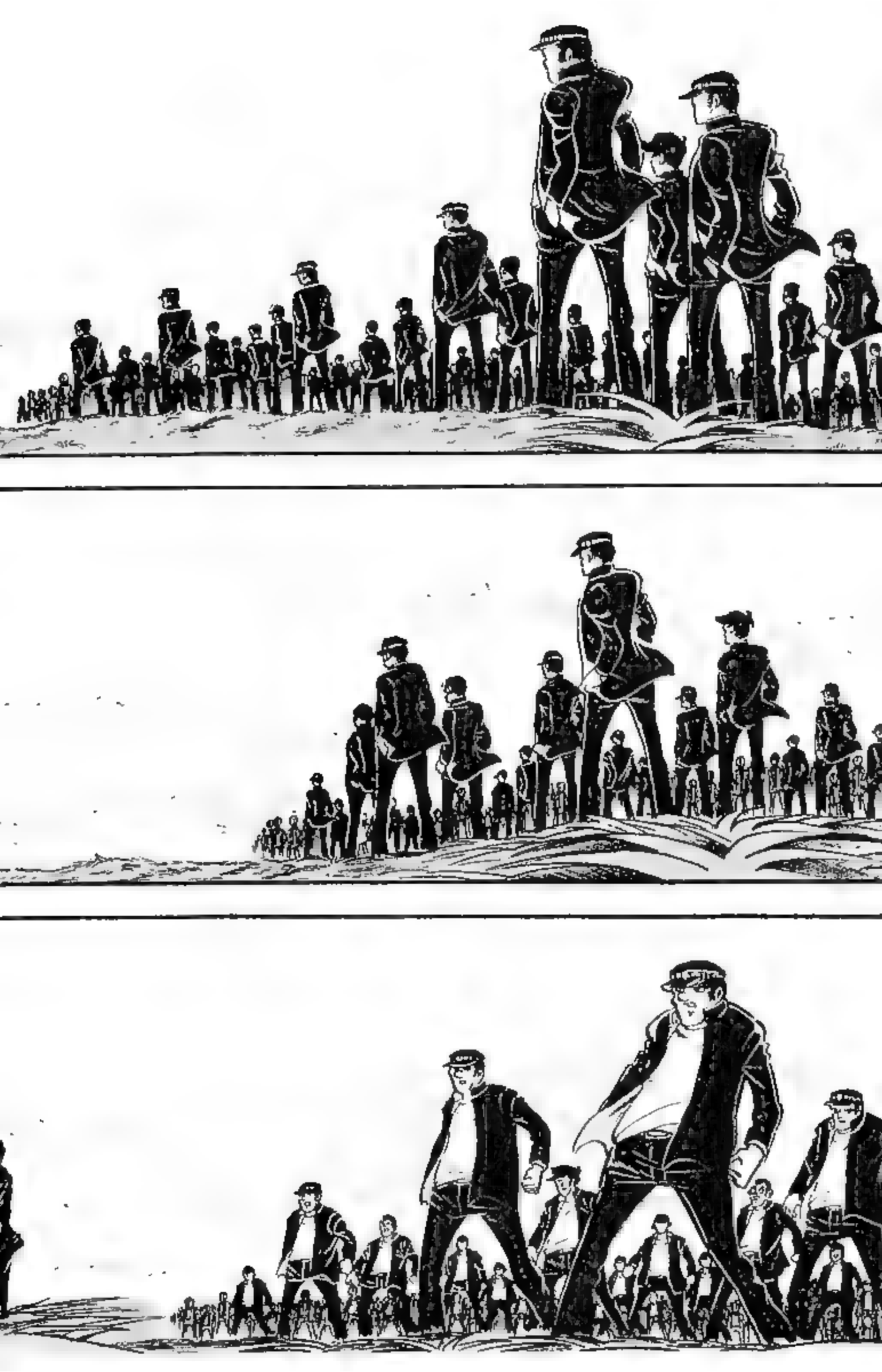
きたあ
――っ!!
きましたぜえーっ


ふっふ……
……
わしゃ…
てかげんは
せんぜ
万吉(まんきち)
……

万吉(まんきち)〜〜っ
わいは えんりょなど せんぞ…

てってい的に ぶっつぶし たるぜっ
てってい的に な〜〜っ

きた きたあ——っ!!
きました ぜ〜〜っ!!



てっ……
てめえ
――っ
本気
かっ……

なんぞ
不服かっ…
おんどれらっ
なにが
じゃいっ
……

とぼけるなっ
きっ・きさま
とぼける

やる気があるのか
なめやがって——っ

やる気があるからきたんやないけ…
くっ…
くぅ〜〜〜っ

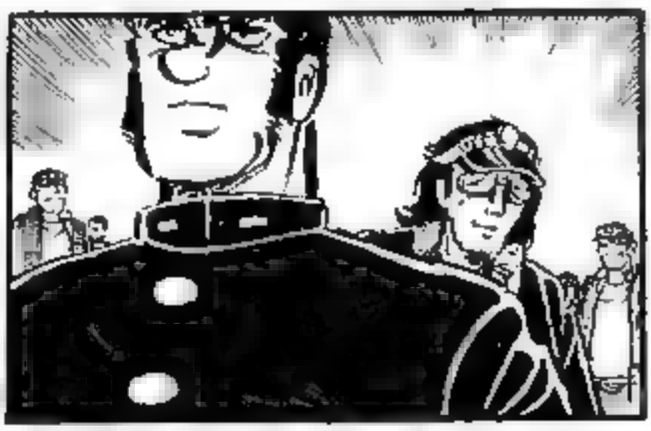
ざわ
ざわ
ざわ

おい
おかしいぜ
こりゃあ
…
たった
四人で
くる
なんて…
なんか
ある
なんか
カラクリが
あるんや…

カラクリなど
なにも
ありはせん
あって
たまる
かっ!!

う……
うお
……

さすがだな
万吉…
うっ…



てっ…
てめえは!!

敵だったか
きさまっ
敵…
…!?

なにをかんちがいしている
……
おれは最初から
……

堀田側の人間だぜ……
なにい——っ

ふふ…
一千人と一万五千……
最初から勝ち目なしとみて……

八方やぶれでてきたか万吉…
てめえかっ!!

てめえが何かこざいくしやがったんだな

ああ……

たしかに
このおれが
菊村たちの
足をとめた
そして
きさまの
息の根も
とめる…

この野郎
うろたえるな
銀次!!
このけんか…
わいの勝ちやと
いったはずだ
……

ねぼけるのは
やめるんだな
万吉…
きさまは
一千人で
むかうくらいなら
四人で
たった
四人の方が

相手のいひょうをつき・
相手をかくらんさせるつもりできたんだろうが・
たとえ一時かくらんしたところで・・・
一万五千の人間……いざ動けばどうにもならん・
おのれの度胸など……
へのつっぱりにもならんぜ……
どうかな、
ケーッ
みせてやれいーっ!!

ヒーラ

ねじ重力(うご)かへんやん

おお
!!ピーピー
ーー

うっ…
：あう
：ひっ

おう……

ふたりの
佐々木の巻

とまった……
一万五千人のうごきが

親分ひとりの声で……

とまりやがった……

だっ
だがよ…
どうするっ
てんだ…
これから
あと…

ふ
ふ
……

堀田(ほった)!!

どおれん!

なにか
策でも
あるってのか
大将よ……
……
……

おんどれ
いったい なにを
しようちゅうんや
……
これだけの
人数を
集めて…

堀田…

とっ…
とぼけるなきさまっ
おのれをぶちのめすためじゃねえか!!
わいに勝って…
どうするんじゃい…
やかましいっ
けんかをふっかけてきたのはてめえのほうだぜ!!
わしらは一致団結しおんどれの侵略をはばむために…
こうしてこの富士のすそ野に集結したんやないけっ!!

関係あるか
そんな
ねごと…
わいは
おんどれが
日本全国の
はんば野郎どもを
しょうあく
したのち…
いったい なにを
やろうちゅうんか
聞いとるんじゃい
くう・
ふふ…
いえまい
…
おのりゃあ
なにもありはせん

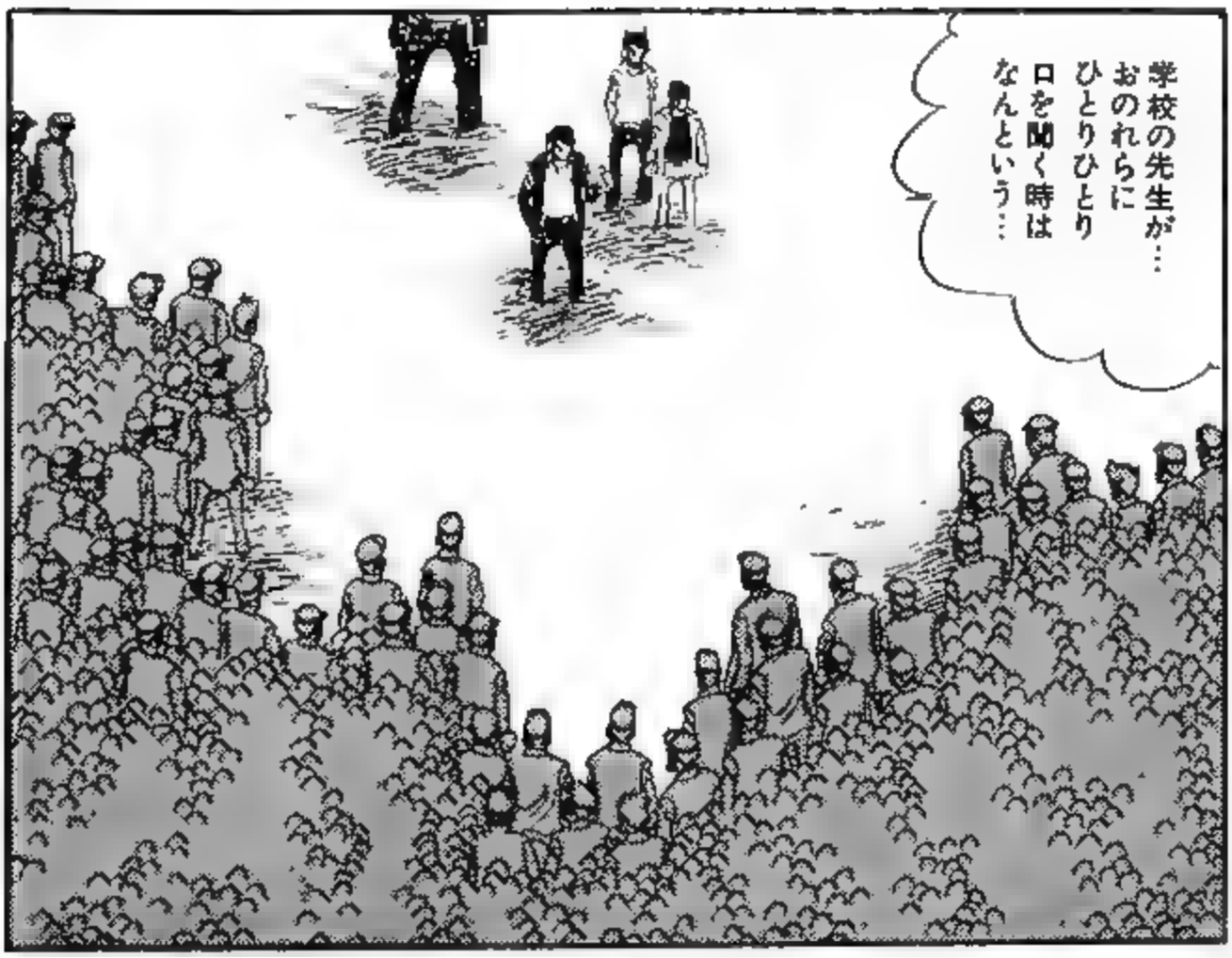
ただ…
こいつらの上に
立ち…
でかいツラを
したいだけや
…
おのれの
征服欲を
まんぞく
させたいだけ
じゃい…

くう…
ちがうか…
堀田…

なら…
万吉
きさまには
あると
いうのか…
欲望
以外に
子分を
ふやすという
目的が…

あったらぬかしてみい…
聞いてやるぜ……
ふふ…

耳の中をかっぽじいてよう聞きさらせえいっ
なんのためにわいがおんどれらをまとめようとしとるか!!


学校の先生が…
おのれらに
ひとりひとり
口を聞く時は
なんという…

きみ・
おまえ…
きさま
だ…

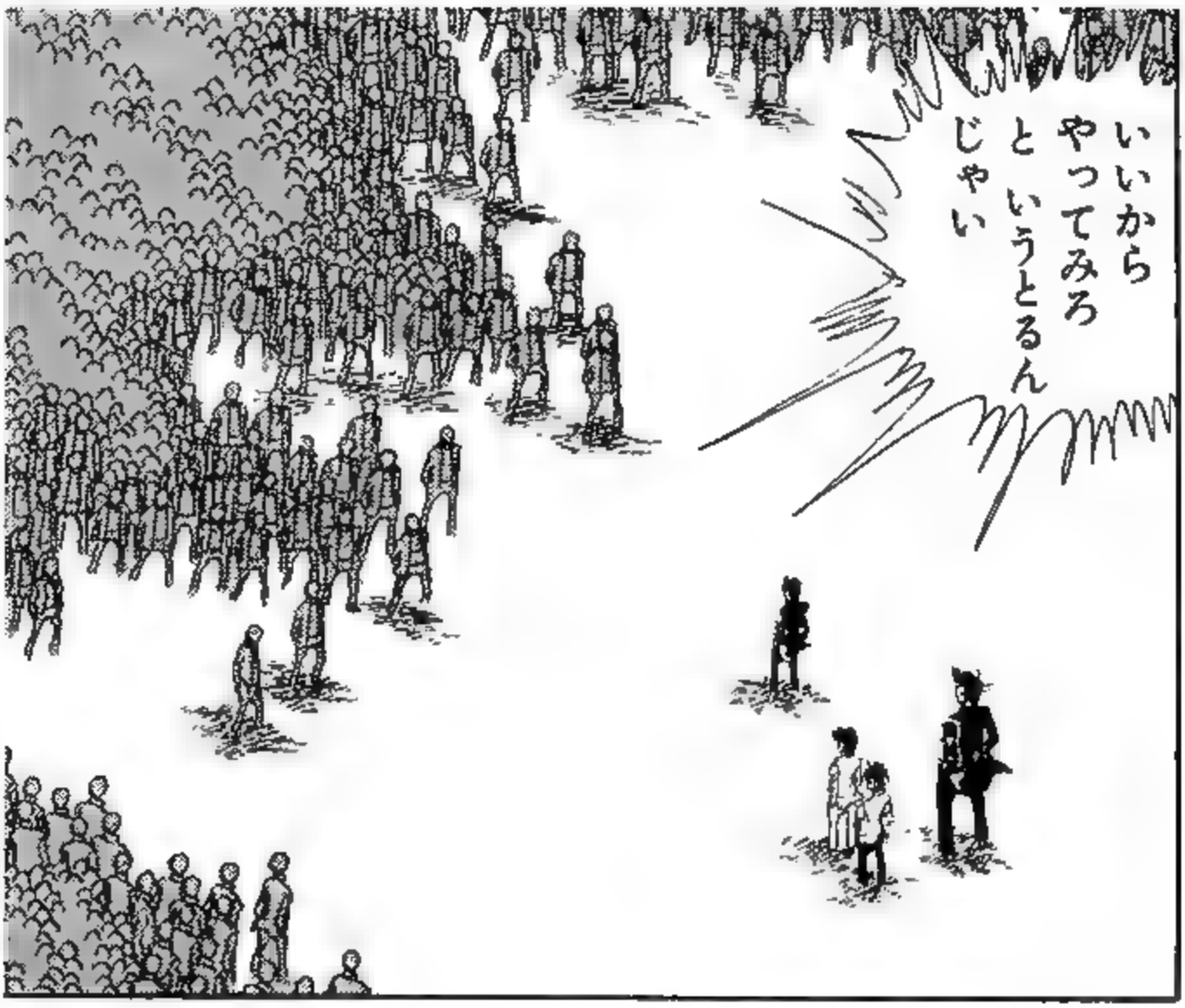
それは
あたりまえの
こっちゃ…
先生のほうが
目上やから
な……

しかしだ
……
いったん
朝礼などで
集まった
時は
なんという…

みなさん……
そういう
いい方に
かわる…

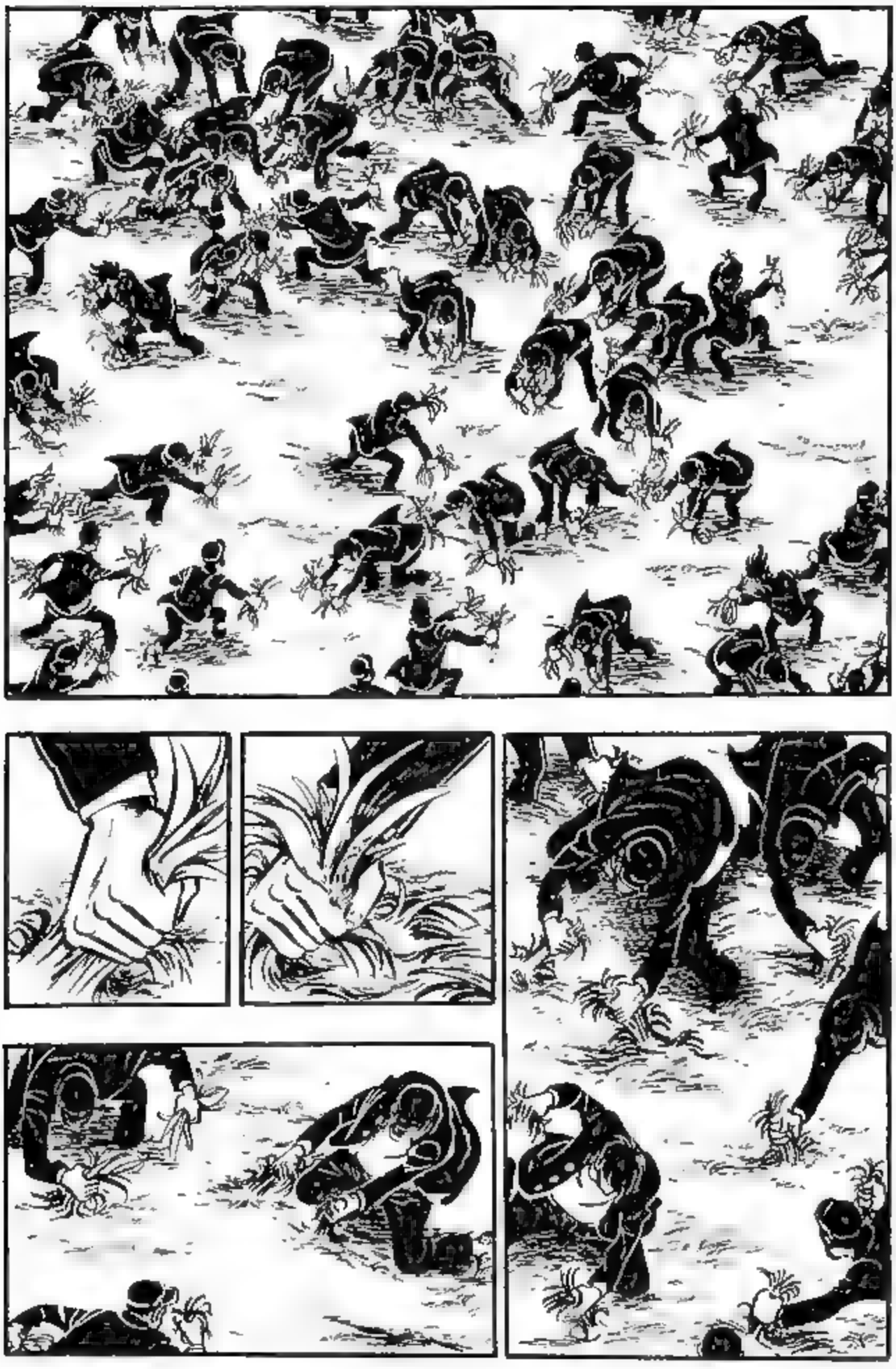
わいらのような
カスどもでも
人数が 集まれ
ば…な…

ケッ…
それだけか…
くだらねえ——っ
やかましいこの野郎
話はこれからだおとなしく聞きやがれっ
おんどれら自分の足もとの墓をむしってみい……
なっなにい〜〜〜
な…なんでや……


いいから
やってみろ
というとるん
じゃい

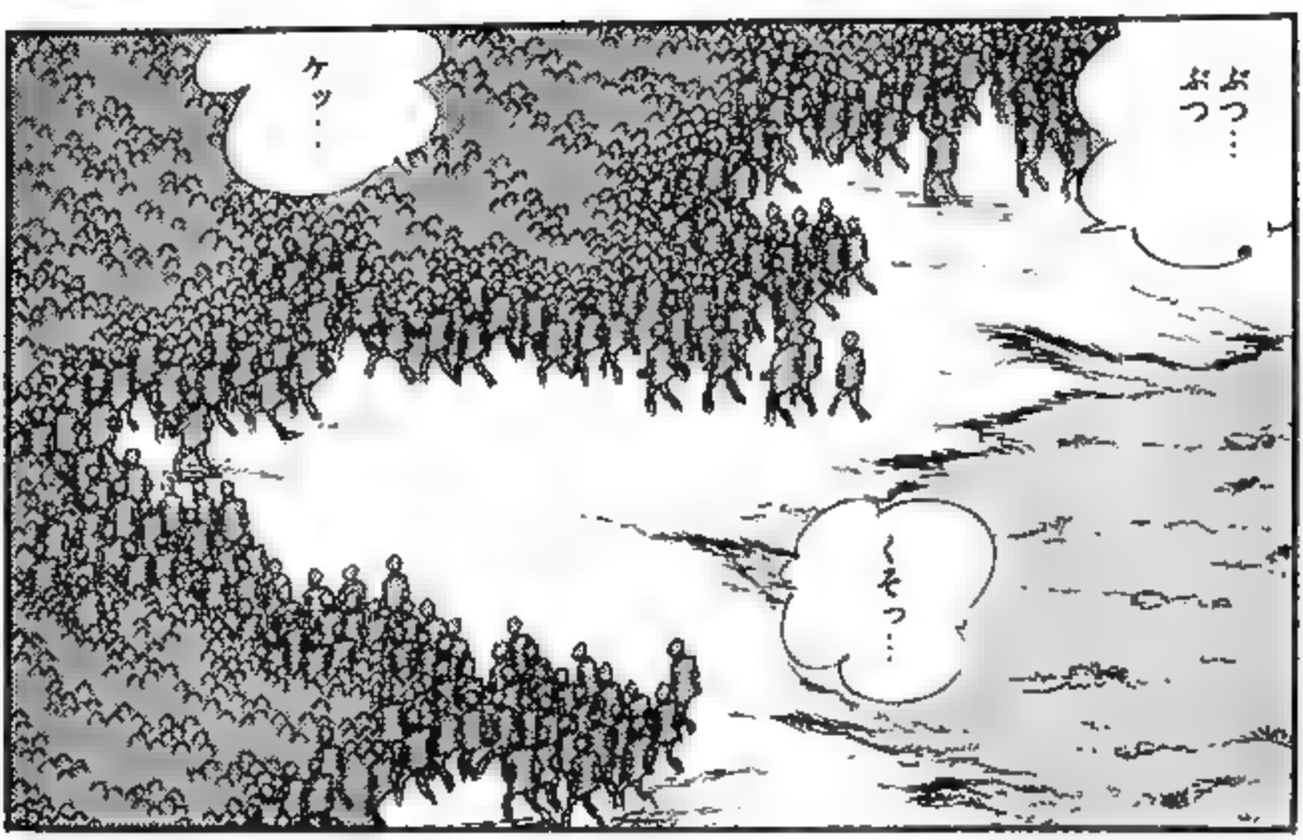
くっ…
くそっ～っ
わしらを
コケに
しやがるか
ふふ
……

まあ…
おもしろい
じゃねえか
…
やって
みようぜ…
料理するんなら
いつでも
できる…

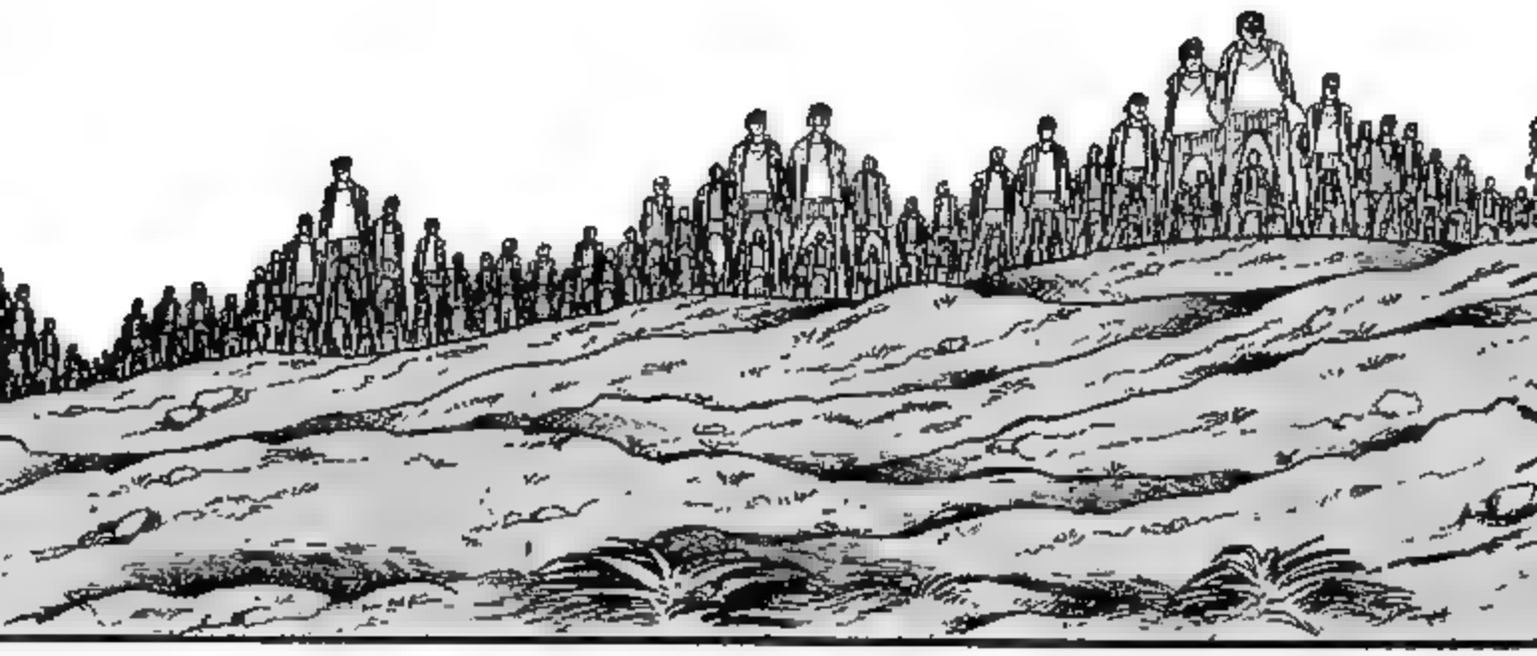


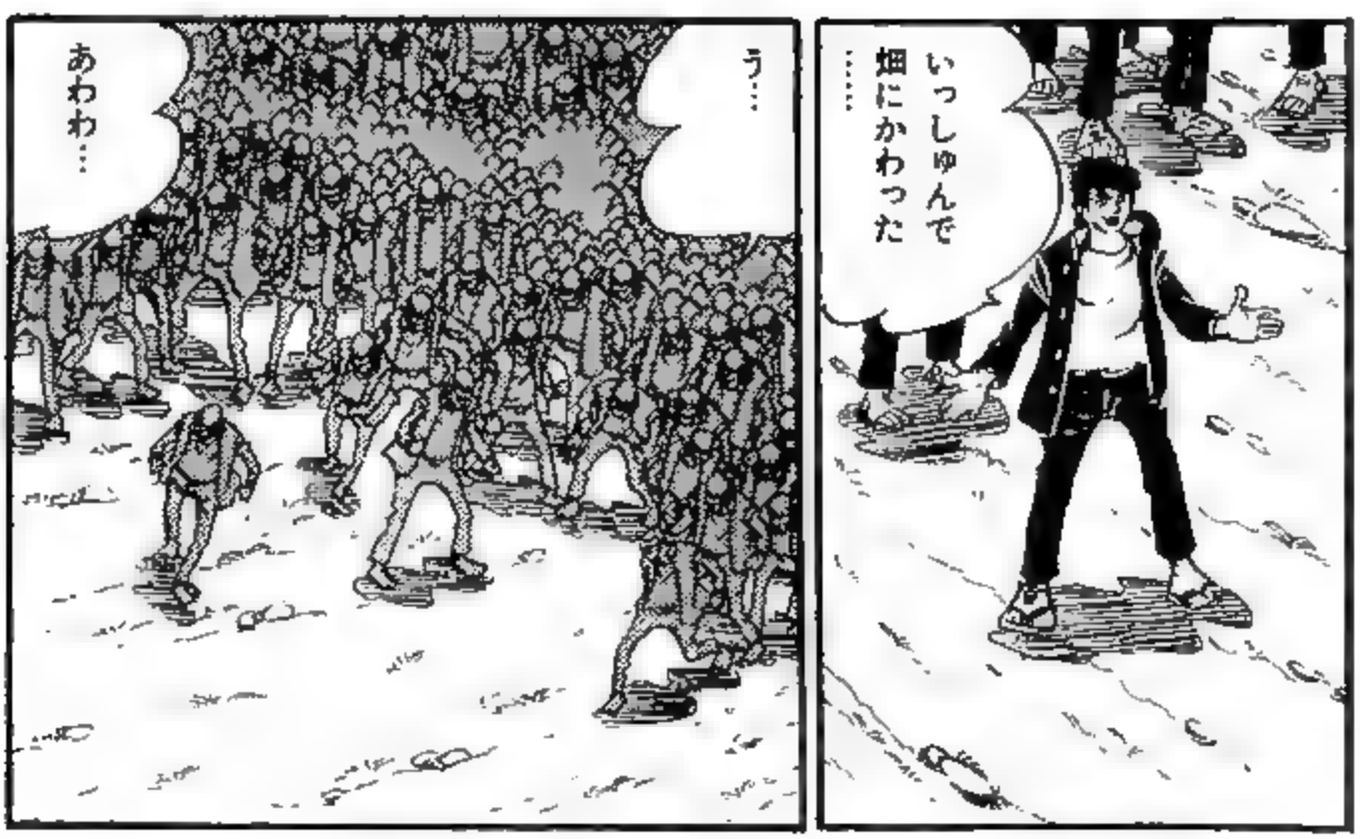
むしったぜ…
どうするんだ
これを
…

よし…
そのまま
全員 左へ
移動して
みい…


ぶつ…
ぶつ
ケッ…
〜そっ…

あ…
うおお
……
みてみい…
おんどれらが
いた
草むらが
……




いっしゅんで
畑にかわった
……
う…
あわわ…

わいが
やる
ちゅうのんは
これじゃ…
わいらの
ような
スカタンでも
こうして集まれば
なにかできる
それを
おんどれらと
いっしょに
やろうちゅう
とるんじゃい
ふふ
ははは
うわあっ
ははは
それで
終りか
万吉(まんきち)!!

きさまがいかに…えらそうにいきまいたところで…
この手をふりおろした時…
おのれのそんな夢物語もボロくずのようにふきとんじまうぜ…
たしかに万吉さん……
あんたのいうとることもっともだ……
そして…わしらの命…あんたにあずけてみるのも おもしろい……
だがな…この現実をどうする……
世の中そんなにあまかあねえ…

いいだろう…
このけんか
わいが勝ったら
……
おんどれら
わいに
文句なく
したがうか…

ああ…
わしは あんたに
すべてを
あずける…

おれたちもよ…
わしもいいぜ
あんたにそれだけの力があったらな…
ふふ
よかろう…

同じだ…方言さんよ

てめえにこの現実をつきやぶれたらな
おおぶろしきめえいっ!!

やろう
――っ

むおお
――っ

それまで
だあ
——っ
うっ…
ひっ…
わうっ…

うっ…
ひっ…
なっ…
なんだっ
……

に…
にいさん
…

佐々木
……
おっ…
おまえ
…

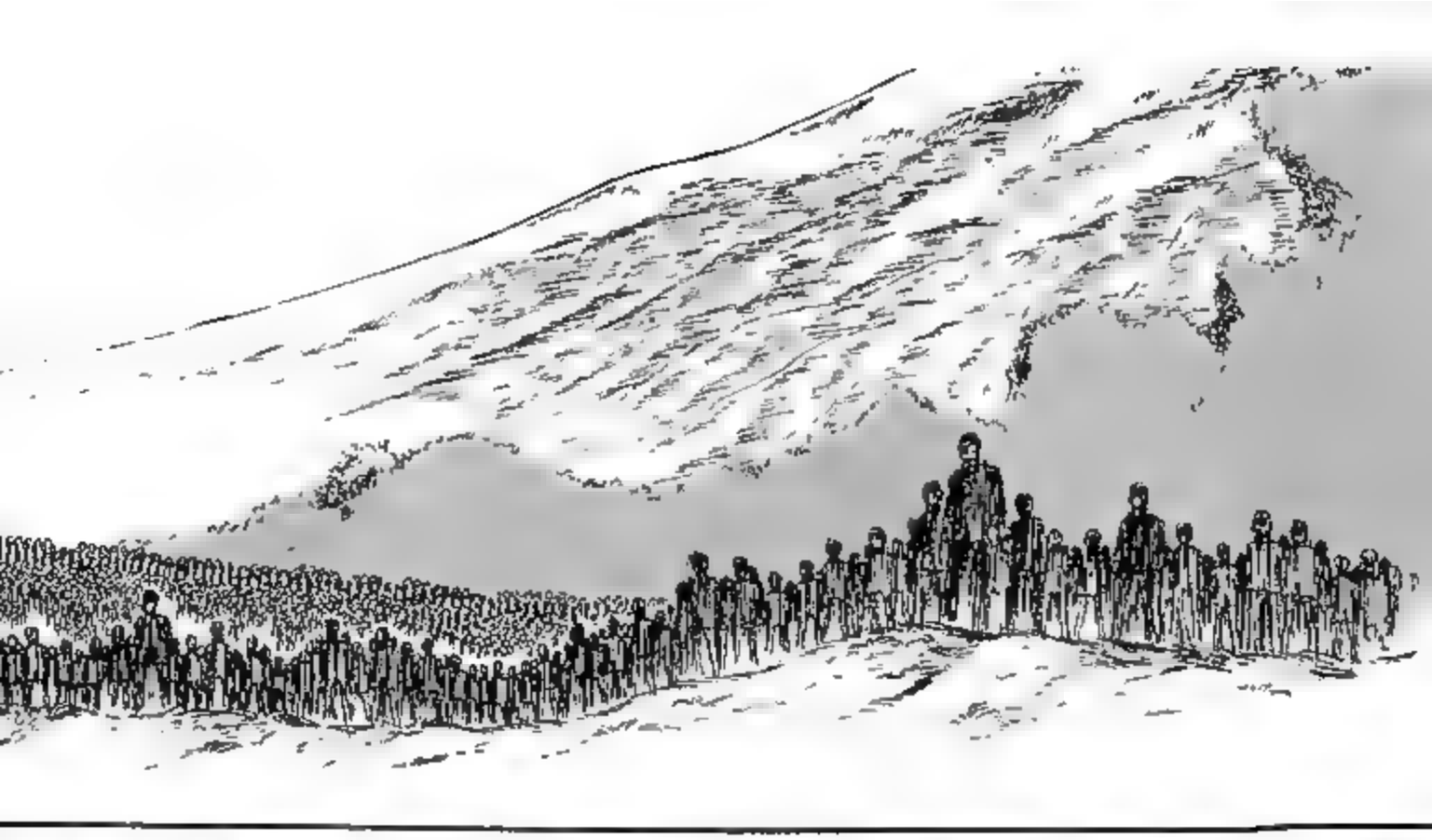
ひさしぶりだな雄二…
にっ…
にいさん
……

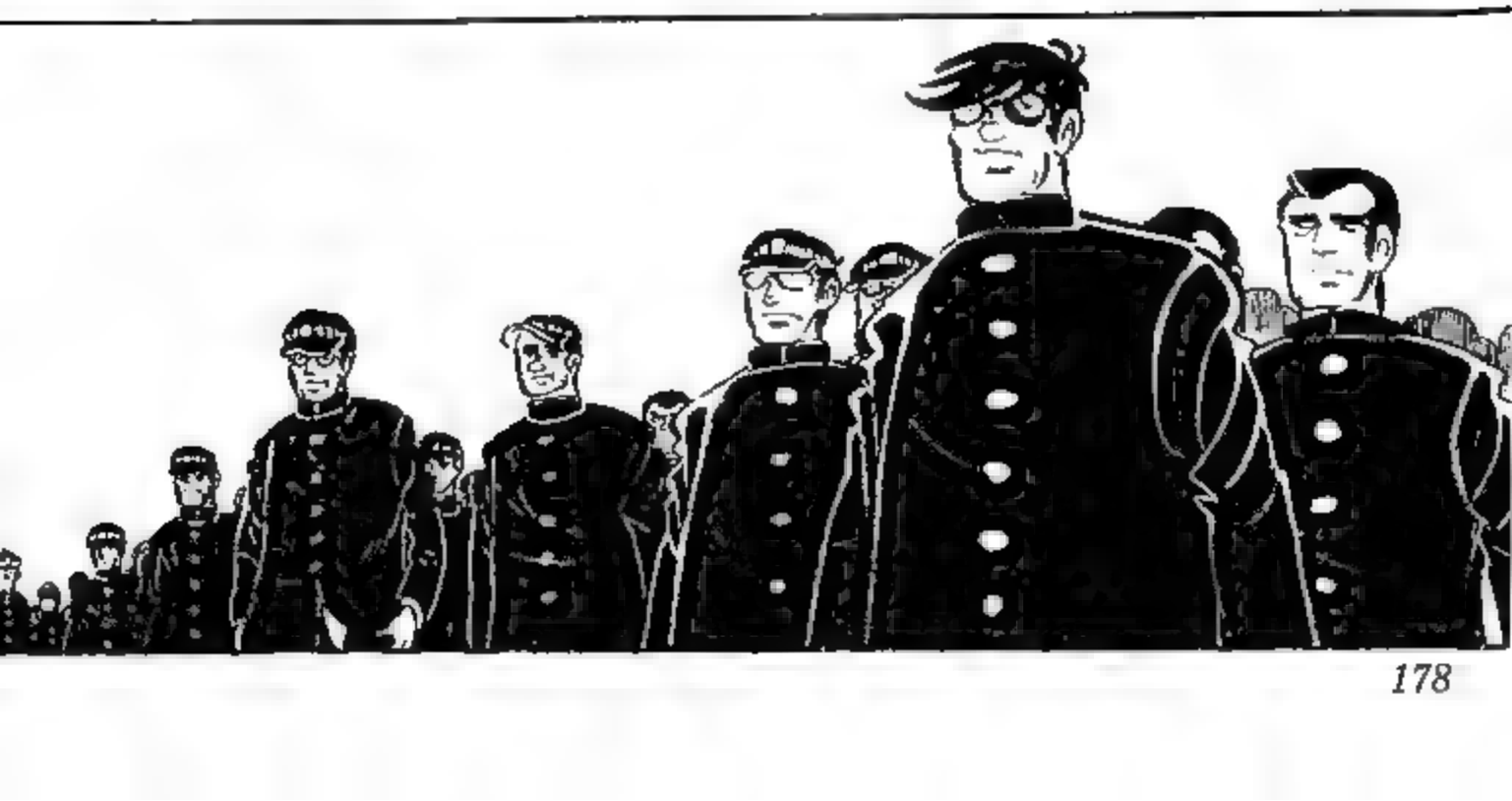
おっ…
おまえら
ふたり
いたのか
…
ああ…
双子の兄弟だ
……
おそかったや
ないけ…
ふふ
……
時が
くるまで
まっていた
のよ…
なっ…
なんだ
きさま
いきなり…
堀田さん
とやら…
このけんか…
あんたらの
負けだ…
あきらめ
るんだな…

なっ
なにい
〜〜〜
あっ…

あっ
…
うっ
…
うわああ
——っ

宿命の双生児の巻

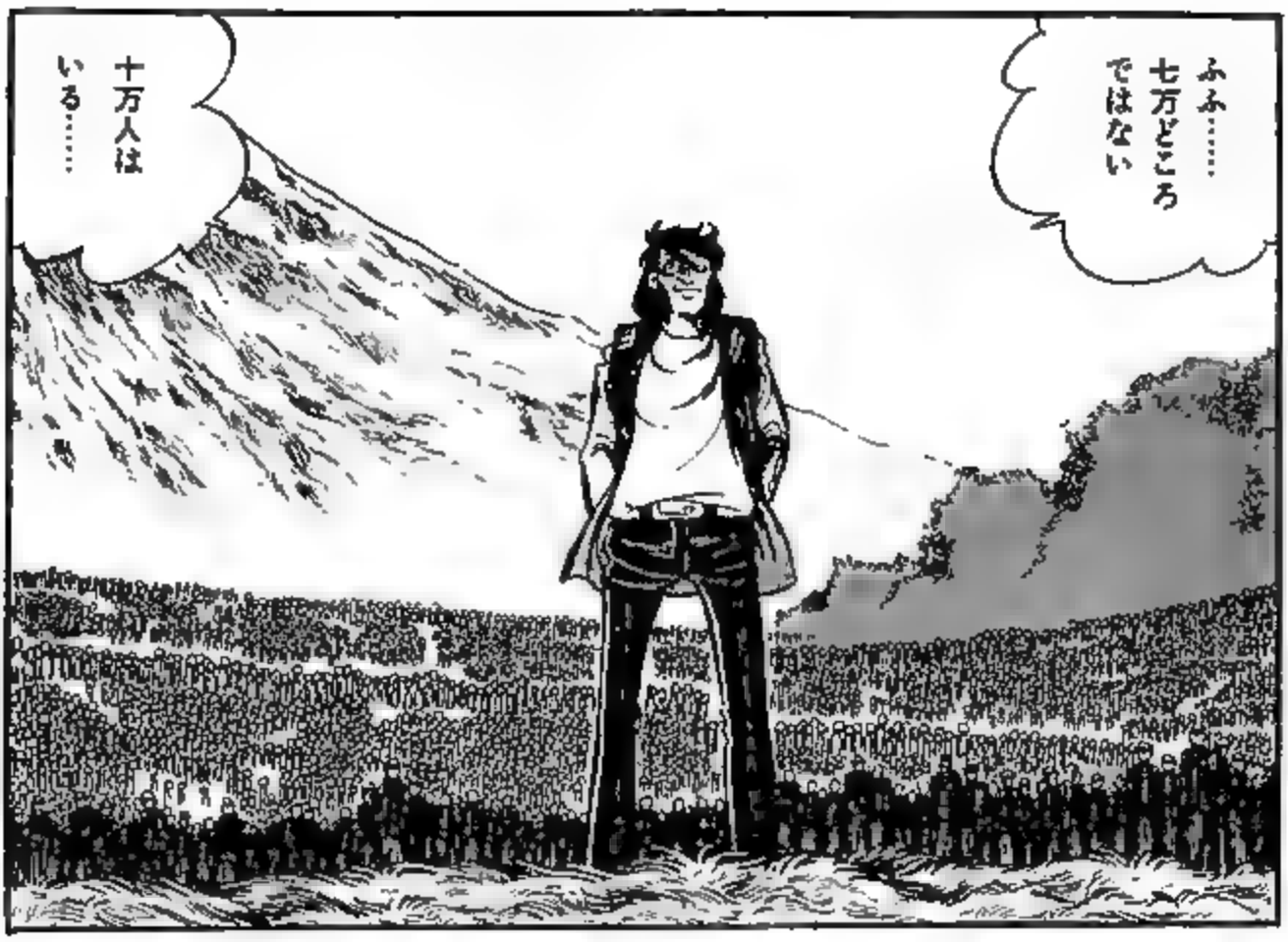




なっ…
なんだ
なんだ
あいつら
あ――っ

ご……
五万…

いや……
六　七万人
いる……
おれたちは
ぐるりと
とりかこまれ
てるぜ……


ふふ……
七万どころ
ではない
十万人は
いる……

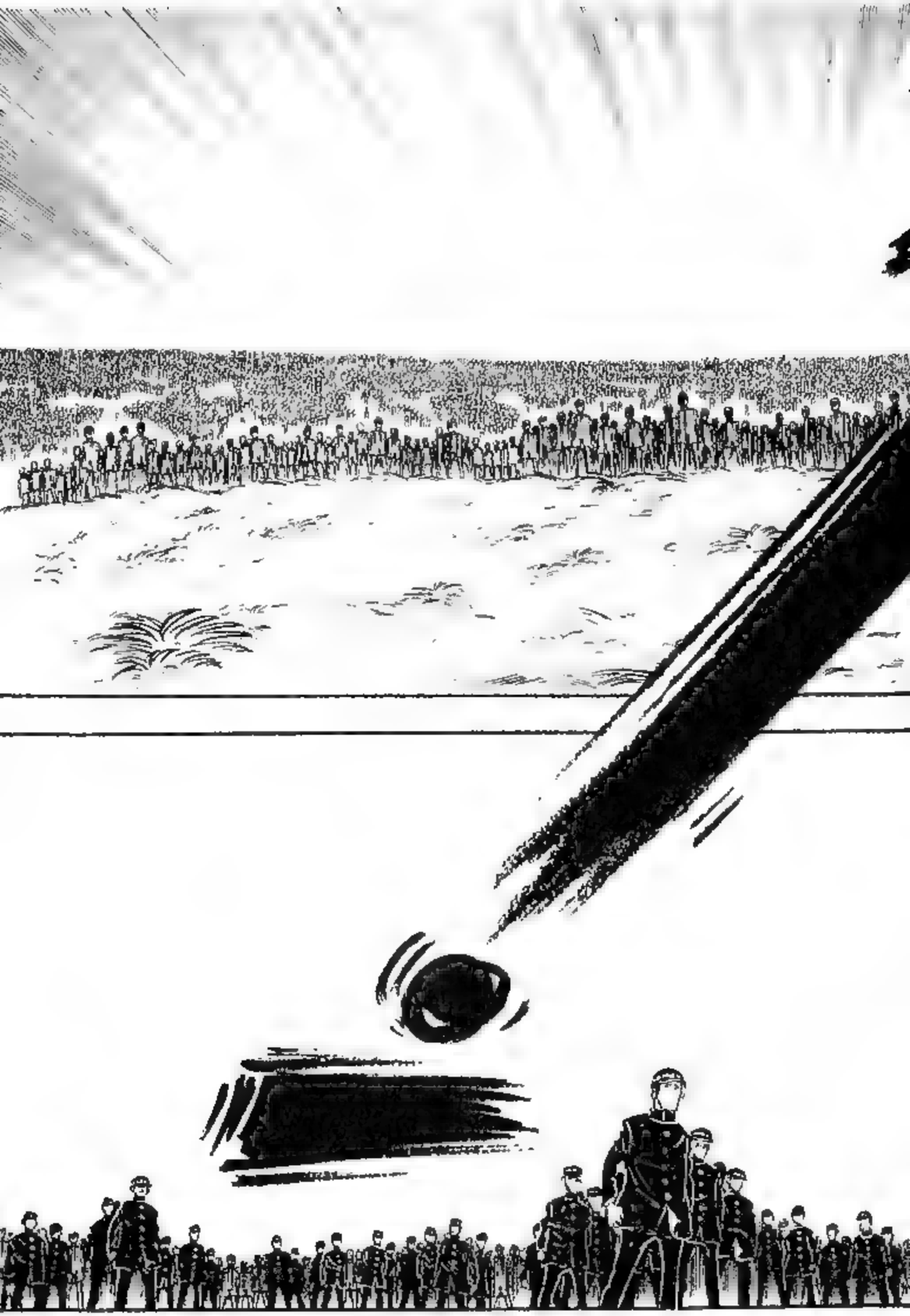
どっ…
どこだ……
どこから
そんな
人数が
あつまり
やがったんだ…

きさまには
子分が 十万人も
いたんか
万吉(まんきち)!!

お……
親分
こっ…
これは……
ふふ…
北海道
東北
北陸
中部
名古屋
……

みんな
きさまらの
学校の
生徒だ…
おんどれらが
ふだん暴力で
くっぶくさせていた
まじめな生徒さん
たちじゃ……

それが
おんどれらと
たたかうために
いま…こうして
たち上ったんじゃい
ようみさらせえいっ



くそったれがあ
～～～～～～っ
あんなカトンボ
どもに　なにが
できるっ!!
ふみつぶし
ちめえ――っ

なめるな!!っ
ばかやろうっ!!

うぐぐ……
あわわ……

きさまらは
ふだんから
けんかなれ
しているから
強そうに
みえる…
だが…

しょせん
人間の
力など
死にもの
ぐるいに
なれば
大差ない…

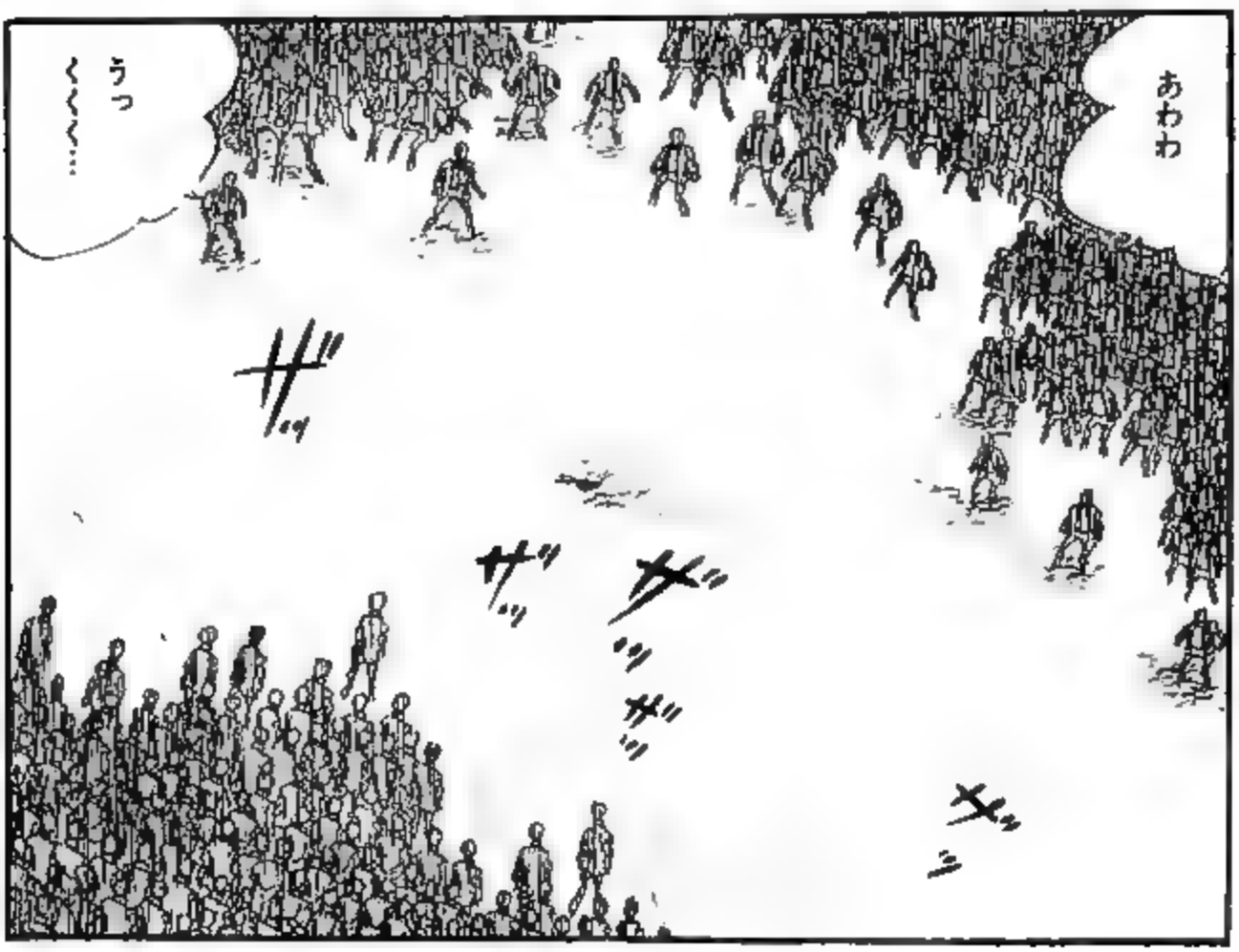
それが
こうして
みんな
度胸を
きめて
立ちあがった
んじゃ……
ひとりひとり
力は
五分と五分

しかも
わがほう
人数は
おんどれらの
勝てると
思ったら
かかって
きさらせえいっ
堀田石松(ほったいしまつ)!!
そうだ
そうだ

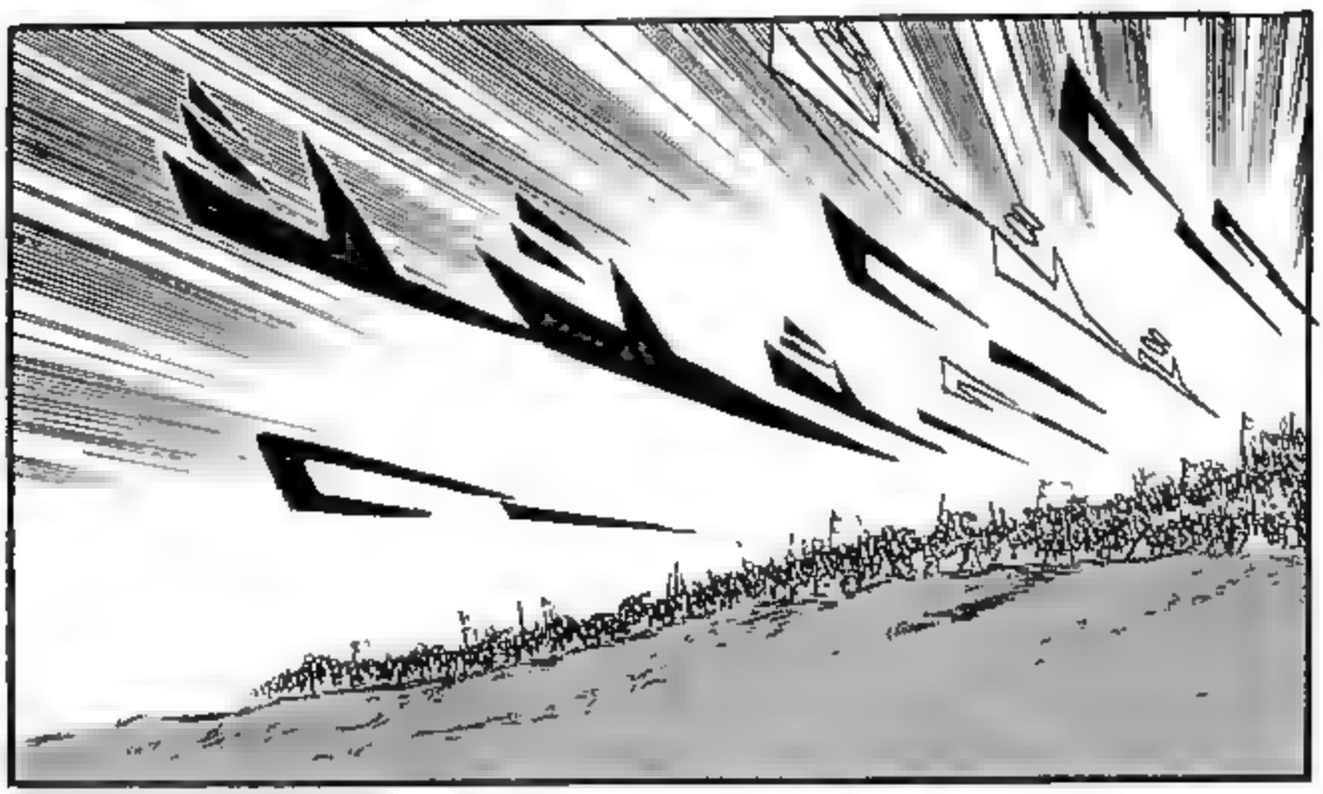
十倍だっ……

ぼくたちは
ふだん きみらに
おどかされて
びくびくして
いた……
だが
きょうは
ちがう
ぞっ

きみらの暴力で
びくびくして
学校生活を送る
のは　もうがまん
できない
ぼくたち
だって
たたかって
みせるぞ!!


あわわ
うっ
くくく…

おっ……
親分……
すげえ……
すげえぜ
親分……



うっ
ン……
あっ
……

大将
親分

万吉
親分!!

おおっ
菊村……
土佐源
山崎!!

あわわっ
……
だっ…
だめだ…
もう
だめだ…

大将
おそくなっち
まって
すまねえ……

堀田……
どうやら
きまったようだな
このけんか
うう……
くく……
ふふ……
はっは
ははは

万吉一家
いまつきましたぜっ…

うわあっ
ははは
ははは
——っ

万吉……
このけんか
たしかに
てめえの
勝ちだ…
だがな
おれも男だ…
このまま…
負けち
まったら…
おれは
どうなる…

この堀田石松はいったいどうなるんじゃ
男の意地は!!

うっ
くっ

てめえら
だって
そうだぜっ
男の意地は
どうするん
だよ!!

いきがるのは
よせ……堀田(ほった)…
もともと
きさまには　みんなを
まとめあげる
力量(りきりょう)はない……

この佐々木におどらされていたにすぎん……
やかましい 万吉……
てめえの限界 いま…この堀田がつくってやる

この堀田石松さまがな――っ

あっ
うわ――っ

うぐっ
あうっ
あうわあっ!!
大将!!
ばっ
ばかな…
くっ……
くだらんこと…
しっ……
しやがってえ……

あ？……

竹槍仁義の巻

ば……
ばかがあ
〜〜〜〜

くっ……
くだらん
こと
さっ……
きらしや
がっ……
てえぐうう
……

ぎゃあああーっ!!
親分!!
万吉親分!!

きっ……
きき……

きさまあ
――っ
堀田(ほった)―っ
医者だ
医者だ
やめいっ
菊村(きくむら)
――っ
おお……
やっ……
やめい
……

やっ……
やめるんだ
菊村(きくむら)……
親分
万吉(まんきち)親分
わあああーっ

ふう……
ふう……

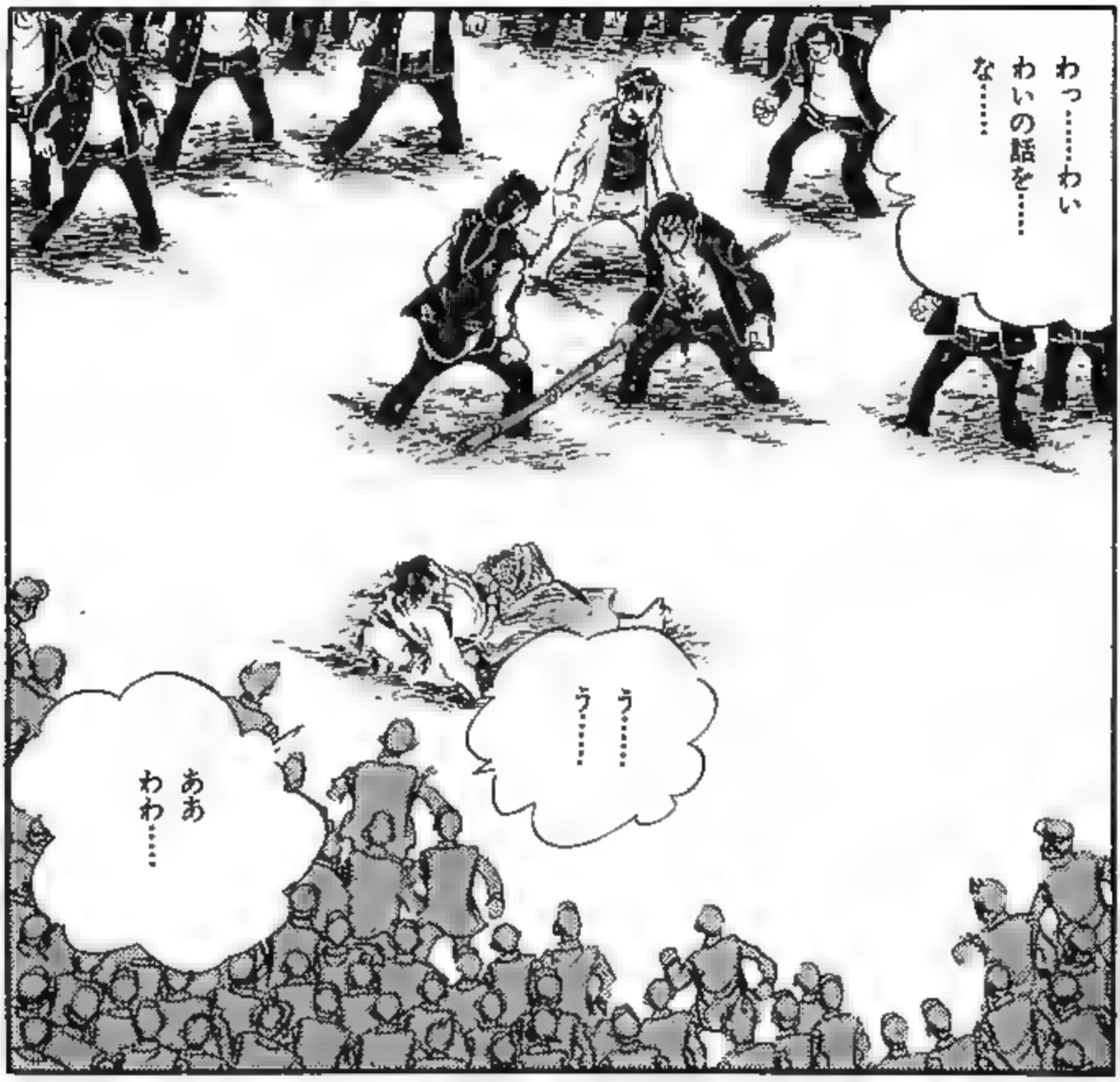
うムっ……
あわわ……
うっ……
うう……
うろたえるんじゃねえ……
ぎっ……銀……

ほっ……
堀田よ……

おんどれのくっ……くそ意地で……
わっ……わいを殺してなんになる
はっ…

聞けいっ!!
おいっ
たんかだ
すぐたんかを
作れいっ

おっ……
おんどれら……も
ぜっ……
ぜんぶ……


わっ……わい
わいの話を……
な……
う……
う……
ああ
わわ……

親分
いま……この……
こっ……この戸川
万吉が
くたばった
と……ところで
……

お……

ごほっ
……
おてんとう
さっ…さまが

世界中の
人口が ひとり
へるだけや

せ……
せやけども
な……
そっ……その
世界中の人口の
中のひとりでも

にっ……
西から……
あがるわけ
でもない……
ちっ……
地球が おわりに
なるわけでもない…

生きていれば……なにかを生みだす……
なにかを作りだすことがでっ……できるんだ……
ズッ
おっ…
おまえかて……
おっ……おんどれかて……

だっ…だれでもや……
まっ……ましてわっ…わいらまだガキや

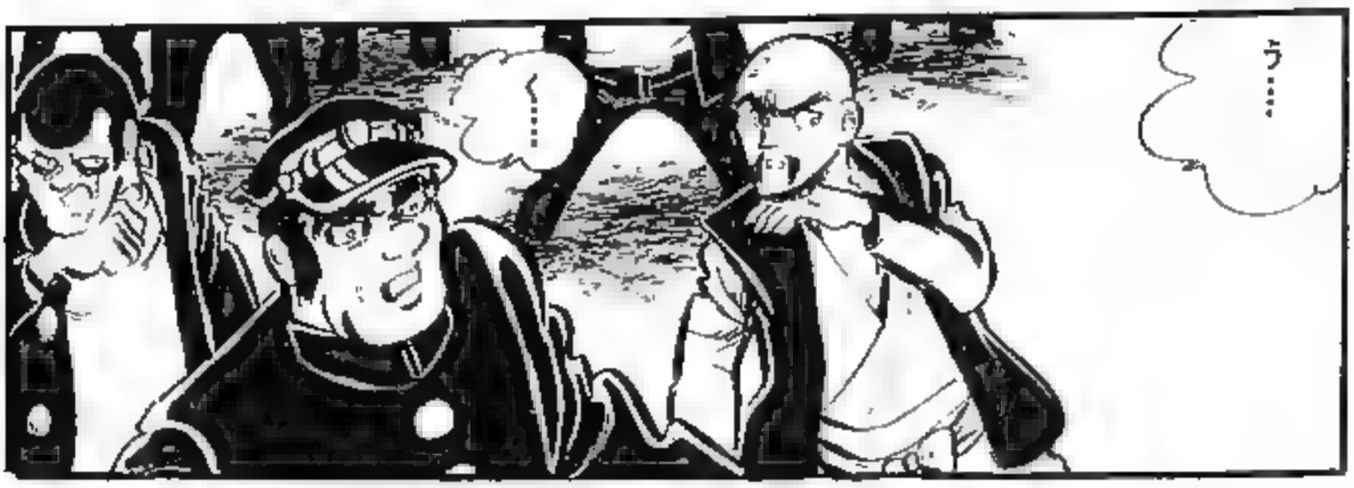
先は　まだこっ…これからいくらでもあるんやあうぅ～～～～
お!!

親分!!
が……
がまん
したら
あかん……
おお～～
親分よお～～
……
がっ……
がまん
したら……
そっ……
それまでや
ないけっ……
わかるか

わっ…わいら…
ガキや
ほしいと思ったら
ほしいものが
あったら
がまんなぞすな
それを
手にいれるために
ふっ……
ふんばったるん
じゃ

ふんばら
な
なあ～～～

ええかい
……
こっ……
この血を
みろっ……


う……
……

まっかや
まっか
やろがあ
あう……
うう〜〜

やめろーっ
やめてくれ
親分
ええ色やあ
なあ……
銀よ……
はよう
手あてせんと
死んでまう
でえ——っ

うっ…

こっ…こいつが
生きとる
という色や

たっ……
たのむよ〜〜
親分
(
やめて
くれ〜〜っ

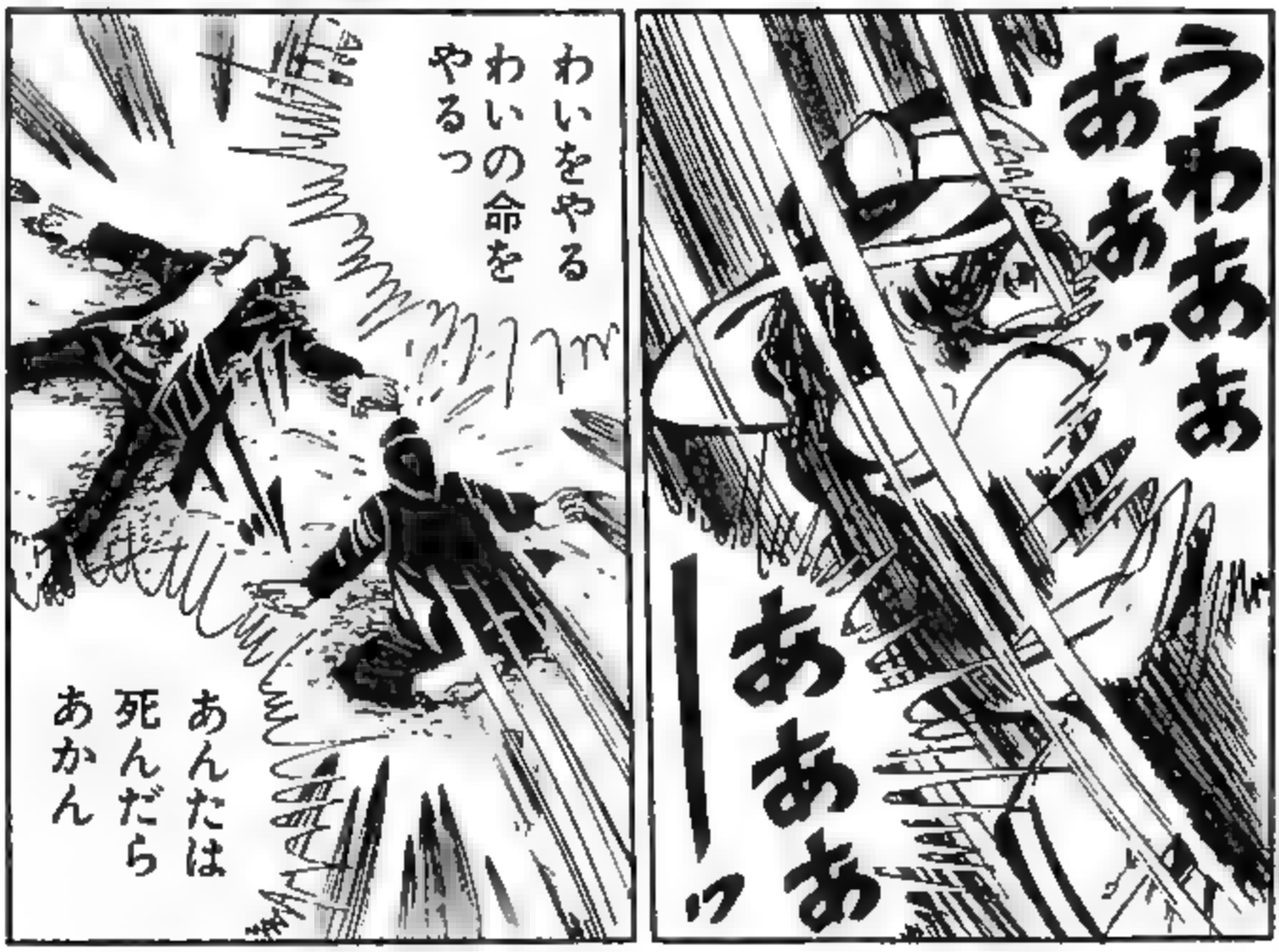
右も左も
上も下も
りくつなど
どうでも
ええんじゃ
勝ちも
負けも 関係
あれへん……

わいらあ
生きとる
人間は……
うう……
どんな時でも
ぎりぎりや
……

こっ…ここ……
こうして まっかな
血を流して……
汗を
ながし
なみだを
ながし
……

生きとるんやあ……
そして
生きてる
以上……
どんなに
めためたに
なろうと
目的にむかって
進んで行くしか
あれへんやないけ
……

お
おんどれらあ
〜〜〜〜〜〜〜〜
よう……
みさらすん
じゃあ
〜〜〜〜〜〜〜〜っ
その
血のしたたり
をよお
〜〜〜〜っ……
そっ……そ
そして……
さがすんじゃあ〜〜
おんどれらみんな
その目的を
よ〜〜〜〜〜〜……


うわあああっ
ああああーっ
わいをやる
わいの命を
やるっ
あんたは
死んだら
あかん

あかんでえっ
大将!!
万吉はん!!
万吉はーん

うあっ
あああっ
!!

親父
!!
親父

死ねんぐれっ!!
万吉
大将!!

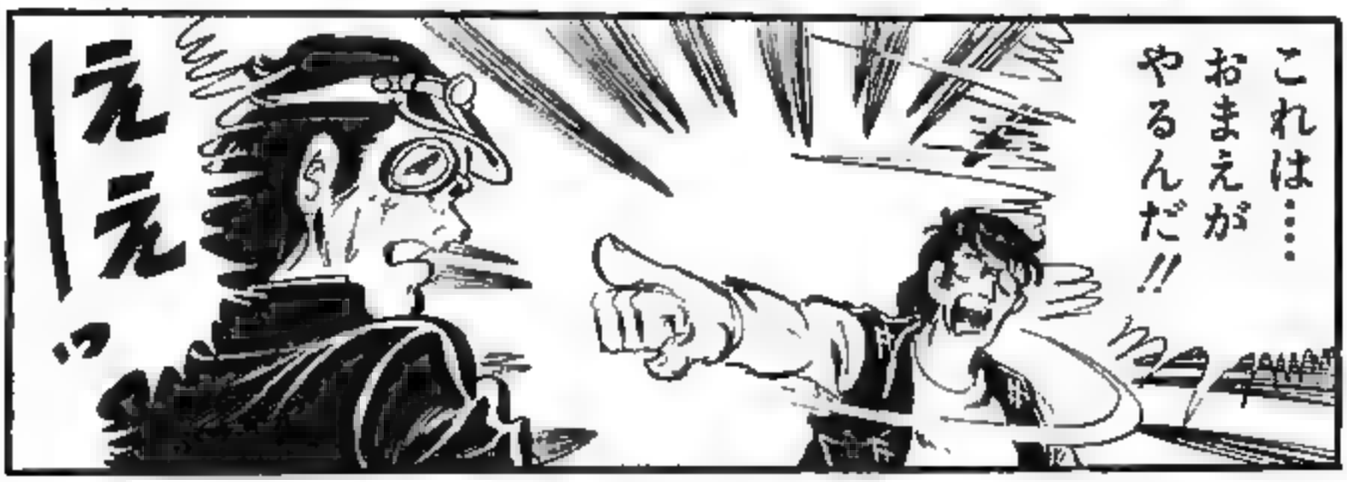
佐々木…
佐々木い
〜〜〜っ
先生
よお
〜〜〜っ
しゃべるな
万吉(まんきち)!!
た……
たすけて
くれ……
死にとう
ない……
わいは
まだ……
死にとうな…
いん…や…あ
わいを……
た……
たすけて
……
ぐ…

うわあああっ!!
しっ 死んだ…… 親分が…… 死んだ……
親分!!
万吉親分よオおおおおおっ!!
ああ——っ
いやあ——っ
ああ——っ
ううう

うそだっ
うそだあ
動かすな
銀次!!

どうするんだ
おりゃあ
どうしたら
いいんだ
よお——っ
うわあ
ああー

にっ……
にいさん
雄二
おれは…
おまえを
信じている


これは…
おまえが
やるんだ!!
ええ!!

万吉も いったはずだ
どんな人間でも みんな
血みどろになって
たたかってると!!
おまえのしらぬ
ところで……天才といわれた
この兄もな

失敗を
他人のせいにして
じぶんがにげてしまう
人間以外
だれもが
血みどろに
なって
たたかって
いるんだ

万吉に
何かを
感じた
なら
今度こそ
にげるなっ

おっ……
おにい
ちゃん……

おまえがやるんだ雄二……

だっ…だが用意が

に…にいさん……

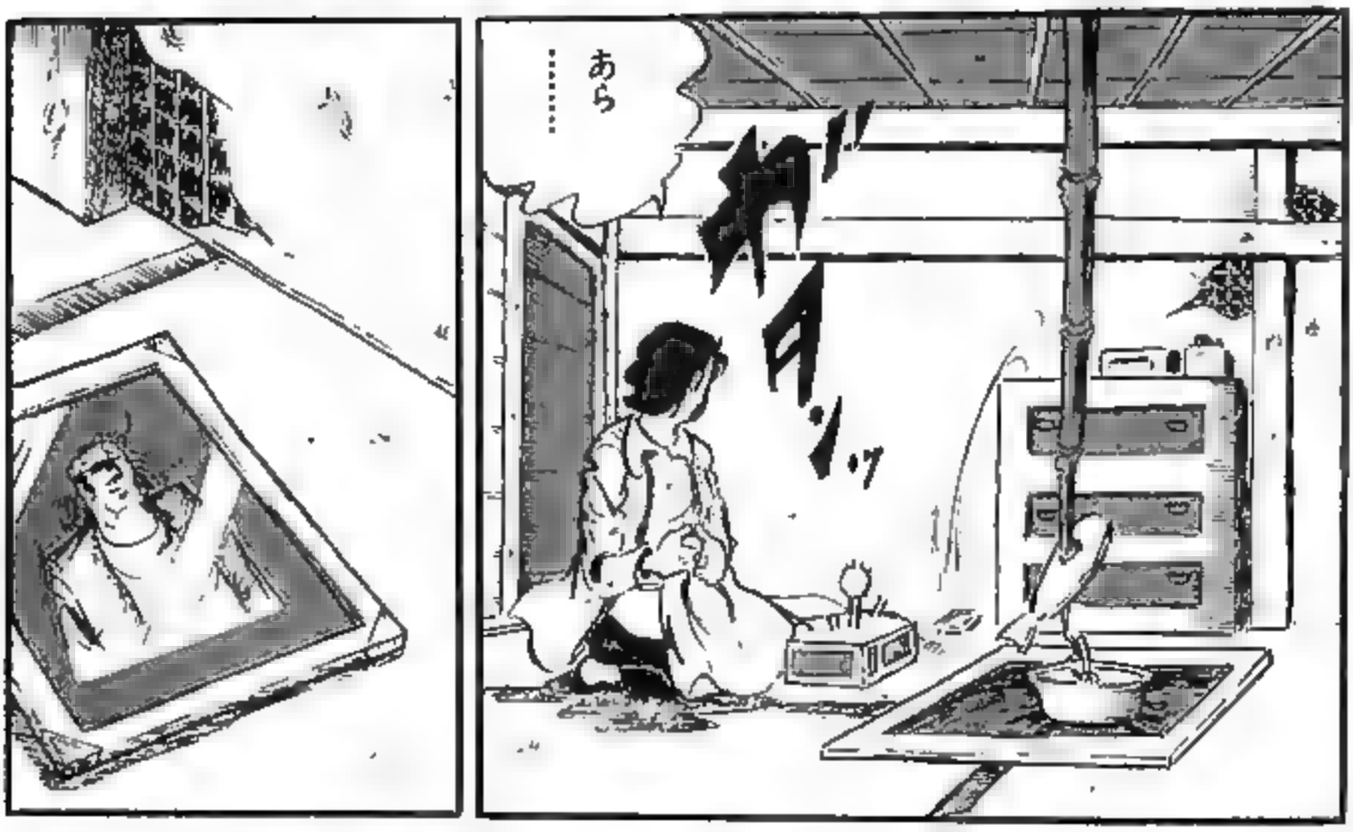
これだけのけんかだ…けが人のひとり ふたりでる……
かんたんなものならもってきてある……
おまえがやるんだ万吉の応急手当を

親分
よおお
——っ
うわあ
あーっ

どけ
銀次
なきわいで
いたところで
助からん……

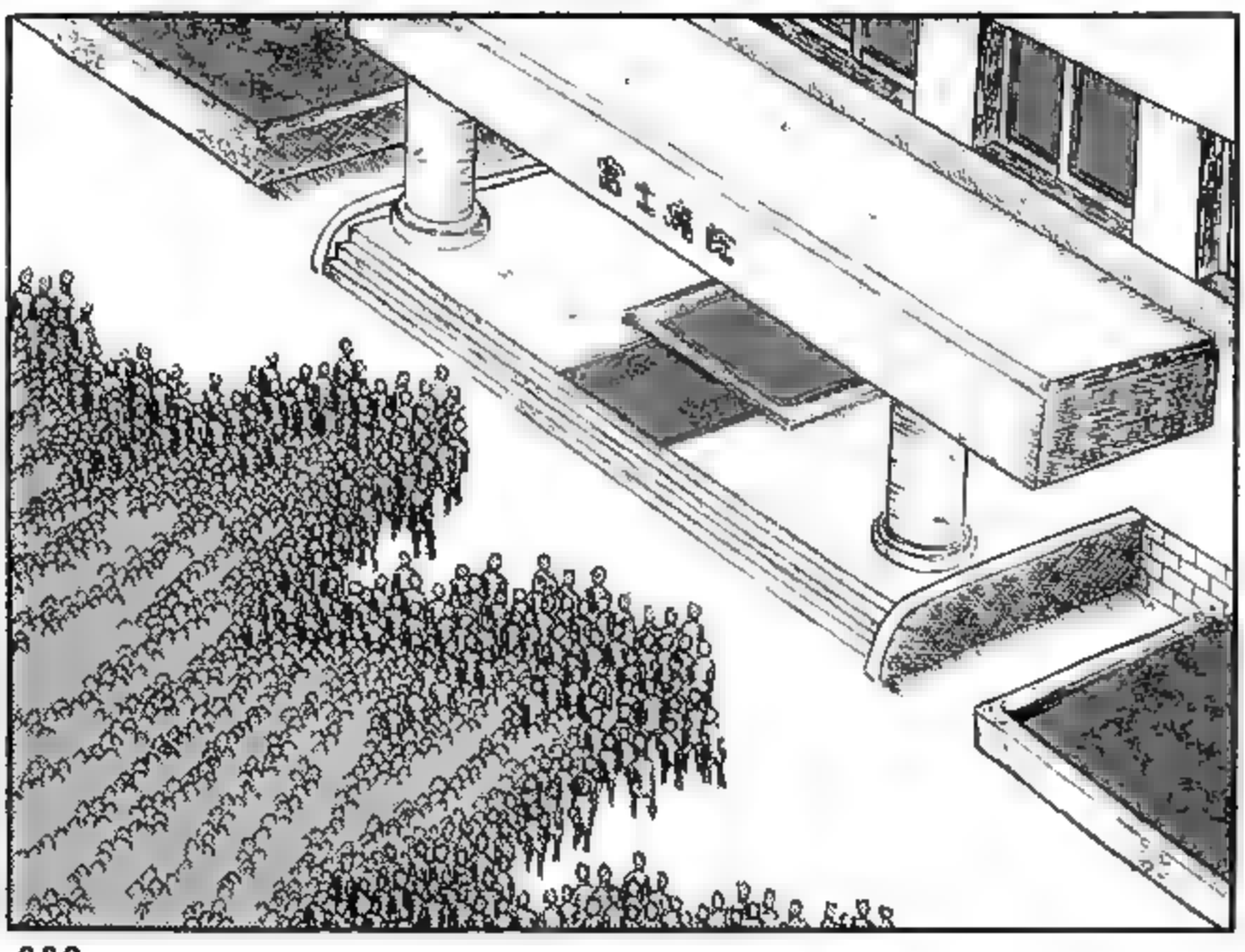
なっ…
なにいっ
死んでは
おらん……

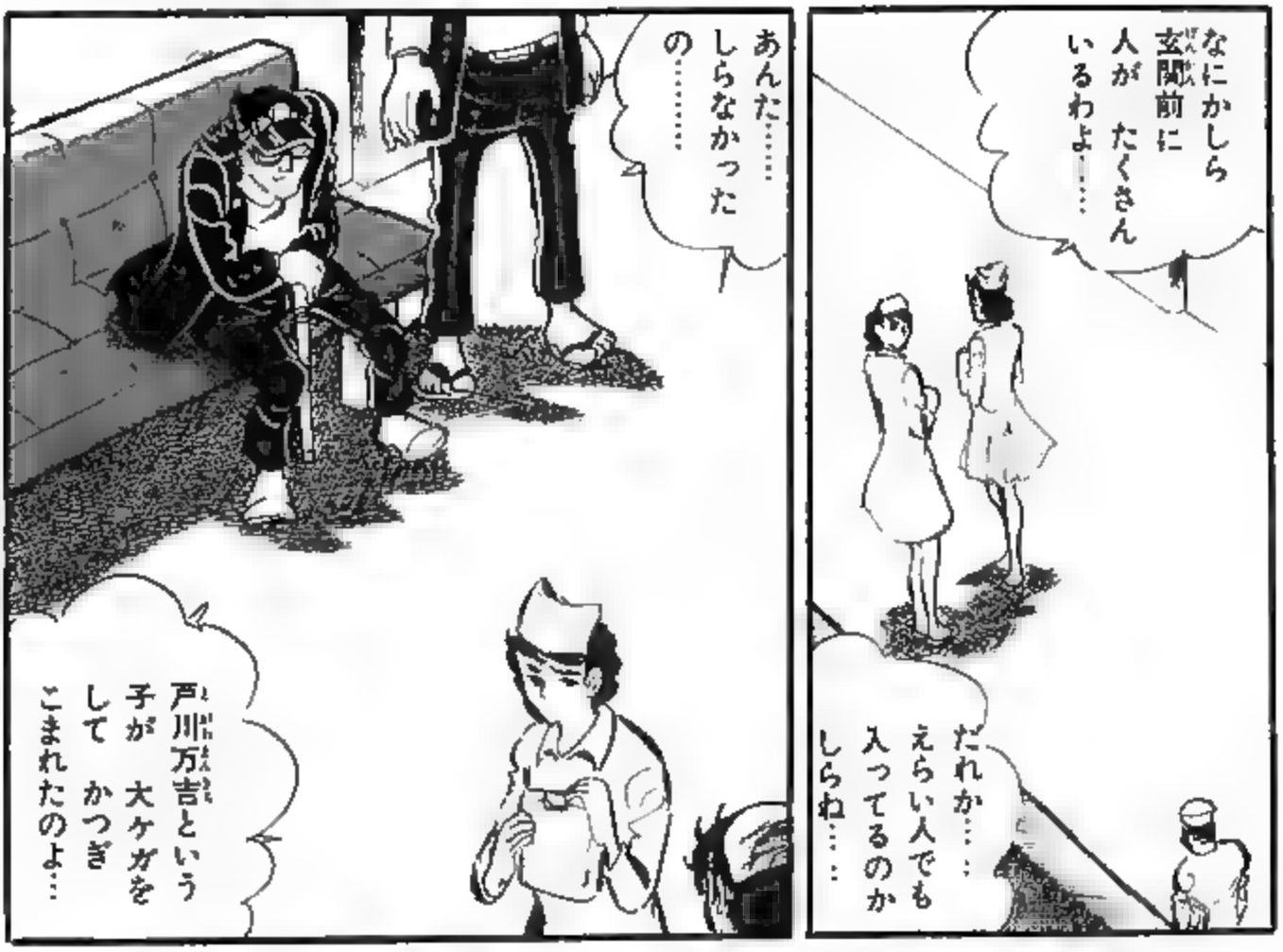
出血がひどくて
気を
うしなった
だけだ
ほんとうか
佐々木


あら……

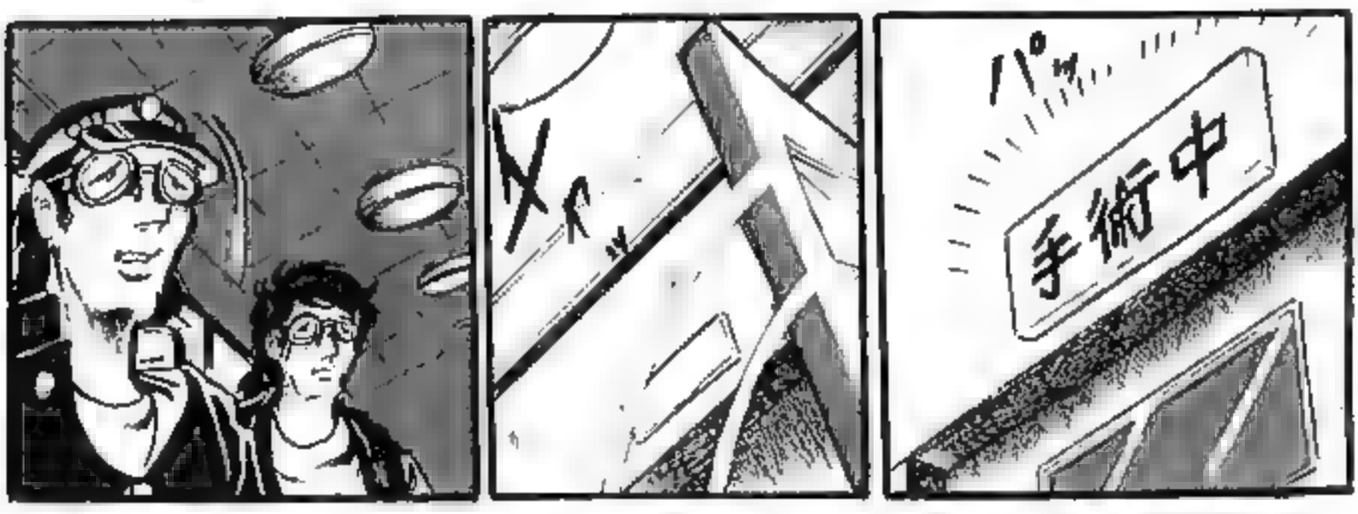
……

生と死の谷間の巻




なにかしら
玄関前に
人が たくさん
いるわよ……
だれか……
えらい人でも
入ってるのか
しらね……
あんた……
しらなかった
の……
戸川万吉という
子が 大ケガを
して かつぎ
こまれたのよ…

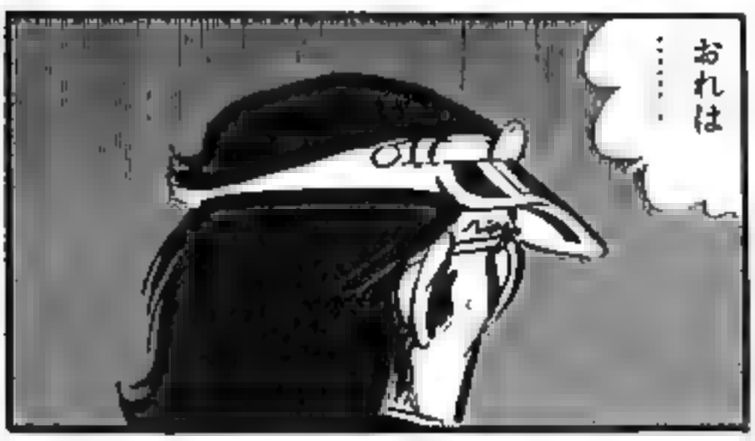
戸川万吉
……
あの子
たちの
親分なん
ですって…
まあ
……


パッ
手術中

先生…
親分は……
いや…
弟ですよ……
すばらしい
応急手当
だ……
さすがだね
佐々木くん
……
ほう
～～っ
とにかく…
すばらしいよ
……
助かった
……

どうする
雄二……
おまえも
もう一度医者を
志すかっ……
いや
……

にいさん…
あんたが
帰れ……
おれは
……


おれは
……

万吉に
ついて
行く……

佐々木
い―っ
親分は
万吉
親分は

どっ……
どうなんだ
佐々木……

親分は……
おれたちの
万吉親分は
!!

助かった!!
たす

わわ
うわ!!

どうだね佐々木くん
もう一度もどらんか……

やったー
やったー
やったー

医者として…
ええもどらしてもらいます

あとは弟がやってくれる……
弟が

親分……
すまねえっ
すまねえっ

おれをなぐるなりけとばすなり
殺すなり……

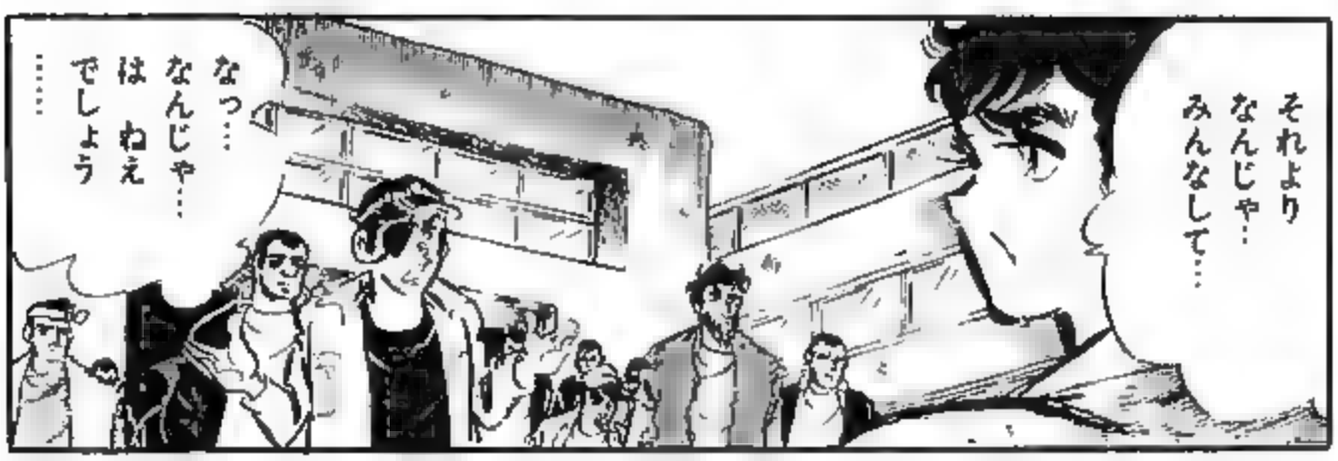
どうとも
してくれ
〜〜〜っ

はっはは……
すぎたことだ 気にするな 堀田……
万吉さん……
親分よお～～～

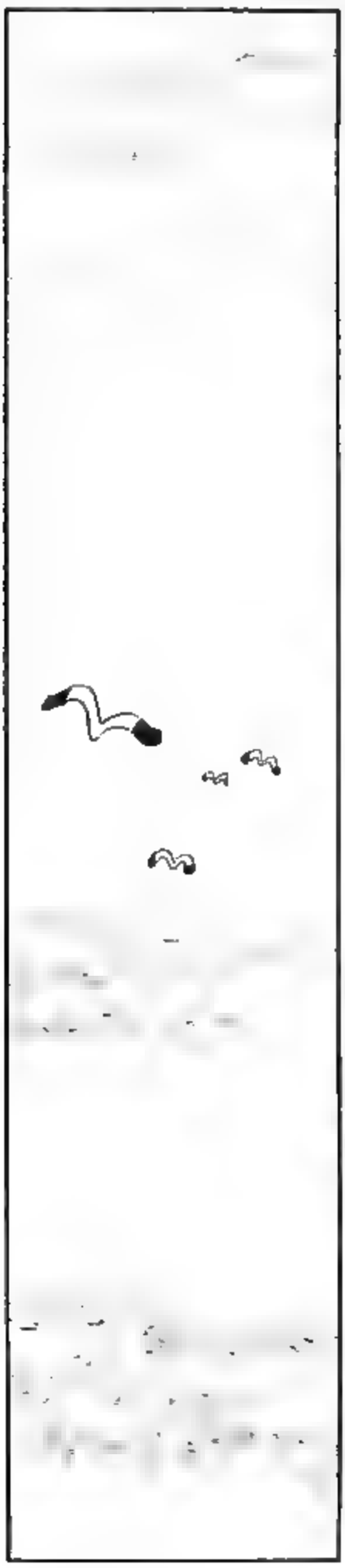
それより佐々木…
おんどれ…命の恩人や……
とんでもない……

もと…もと…あんなことで死ぬわけはない…
あんたという男は……
ン……

あっ…
いたいた
なんや
おまえ
ら…
ワイワイ
ガヤガヤ
親分 いいん
ですか!!
あるいたり
して…
ああ…
……


それより
なんじゃ…
みんなして…
なっ…
なんじゃ…
は ねえ
でしょう
……

みまいに
きたんだ
親分…
ひさしぶり
です
親分…
よお~
頭…
三吉も…
きたんか



ン……

なんや……
いきなり……

へい
万吉一家…全員
そろってます
んで……
親分に…
おめみえを
……

よっしゃあ……
まずおれだ…

おい…
前の方からじゅんぐりにやれや…

北海道・ジャコ万の健……
へっへへ…強ええぜおりゃあ……

ケッ
おってめえ…
ぬかしやがれ……

いつかはあんたの子分になるとは思ってた…
北陸の神島虎八!!

東北の三羽がらす
加賀正吾

水津 良

水島だっ…
スッ
関東・義理と人情の……
大島光克!!

おいっ キザッたれ…
おめえ
ちぇっ!!
海の上じゃ こっちが 人数少なかったが…
陸の上じゃ 負けねえぜ 土佐の漁師め
おもろいっ やってみるかい
アホたれっ!! いいかげんにせい…
きょうから みんな 仲間 なんだぜっ

そうでした…
おれは 強い奴に みかたする
名古屋の 大物 川畑善明

中部の熊坂…
菊村の大将
あん時　なぜ
あんなに早く
富士へ
ついたんだ
ふふ
……

ささまらが
おどした男が
な……
ぬけ道を
おしえて
くれたんじゃ…

なるほどね
……
おれが　九州の
菊村大助だ。

それにつづく
炎三兄弟
……

山陰の
山崎だ…
へえ～～っ

土佐の源蔵
鬼より
こわい…
うおっ…
親分とは
特少で
いっしょ
だった
島田
だっ…

同じく
須永…
通称
ヘルス…
勇気ある
さすらい人…
どんごろすの
ジェンマー

まんじゅう屋藤助…
しぶい二枚目…
古いのでおなじみ…
西海の林山ゴン造
おなじく
村田だ…

そのとなり町にすむ松川幸太郎
いいかあ一番の子分はおれっ
眼帯の銀次だってめえら忘れるんじゃねえぜっ

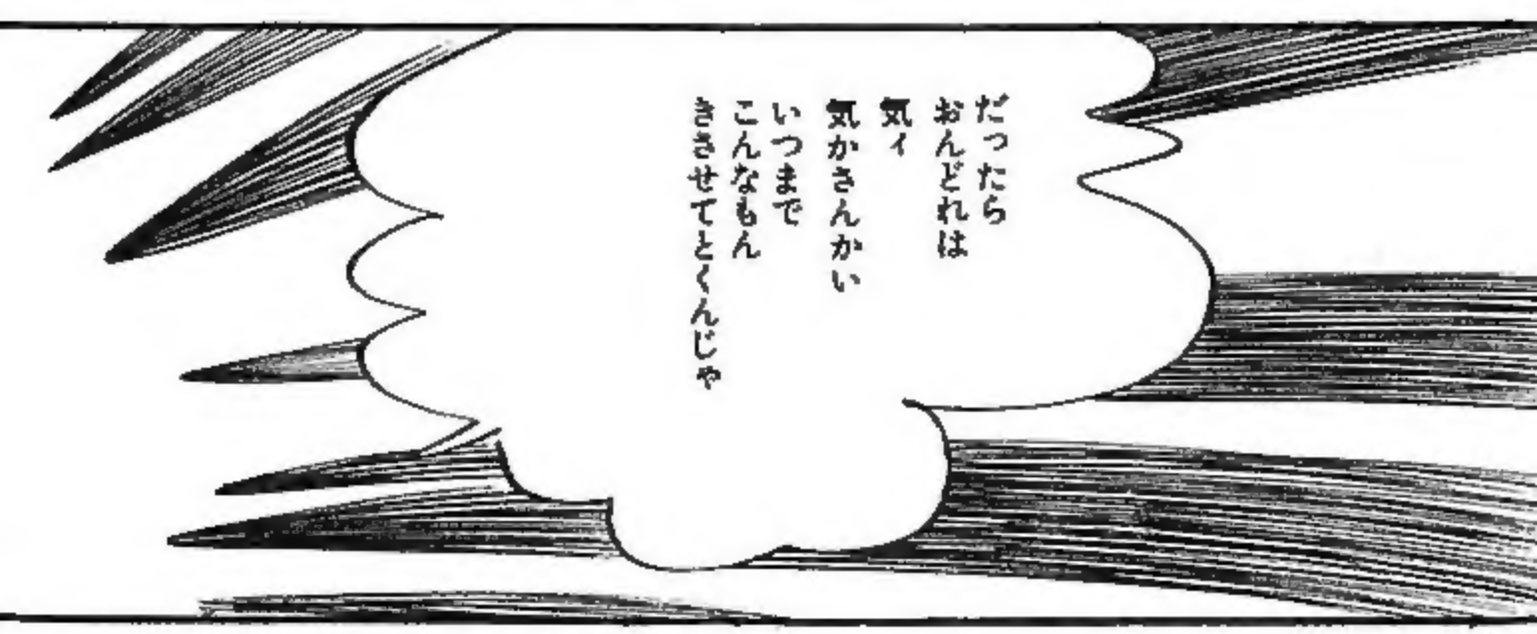
じゃかましい一番の子分は
このおれじゃあ…
ラッパさまよお――っ

ラッパ…
やっぱり親分…わいが一番やね
こんどのことはすまんと思ってる……
堀田石松や…

佐々木だ
よろしくたのむ…
二十五人…かなり集まったな大将
しかも兵隊日本全国三万
まてよわしらも入っとるんだ……
二十七人じゃ……はっはは

いや
二十八人だ…
さいごに綱村鉄次…奴もいっしょだ……

親分
わいら
二十八人
地獄の底まで
ついていくぜ


だったら
おんどれは
気ィ
気かさんかい
いつまで
こんなもん
きさせてとくんじゃ

煮てくうなり
焼いてくうなり
あんさんの
自由だ

わいの
ガクラン(学生服)
もってこい

男一匹ガキ大将・完